

分銅種	秤天			天秤種	秤桿			桿秤種	權衡製作所	斗	概
	計				計						
類				類				類	權衡製作所		
檢				檢				檢			
查				查				查			
濟				濟				濟			
員				員				員			
數				數				數			
原				原				原	何國何區何町		
價				價				價			
通				通				通			
價				價				價			

斗	量水			量穀			租	斗量製作所	度尺	尺
								斗量製作所		
								類		
								檢		
								查		
								濟		
								員		
								數		
								原		
								價		
								通		
								價		

合計	衡		量		尺		種	類	銅分計
	分	天	斗	水	尺	曲			
	銅	秤	概	量	尺	尺			
							類	檢	
							査		
							済		
							員		
							數		
							原		
							價		
							通		
							價		

右ハ當府明治何年七月ヨリ十二月マテ
一月ヨリ六月マテ 度量衡検査員數計算書面之通候也

農商務卿宛

府知事印

○度量衡法 二十四年三月二十三日
法律第三號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル度量衡法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

法律第三號

度量衡法

- 第一條 度量ハ尺、衡ハ貫ヲ以テ基本トス
- 第二條 度量衡ノ原器ハ白金、イリチウム、合金製ノ棒及分銅トス其ノ棒ノ面ニ記シタル標線間ノ攝氏〇、一五度ニ於ケル長サ三十三分ノ十ヲ尺トシ分銅ノ質量四分ノ十五ヲ貫トス
- 第三條 度量衡ノ名稱命位ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 度 毛尺ノ萬分ノ一
- 厘尺ノ千分ノ一
- 分尺ノ百分ノ一
- 寸尺ノ十分ノ一
- 尺 丈十尺

第十五類 第三章 度量衡

間六尺
町三百六十尺(六十間)

里一萬二千九百六十尺(三十六町)

地積

勺歩ノ百分ノ一

合歩ノ十分ノ一

步或ハ坪六尺平方

畝三十步

段三百步

町三千步

量

勺升ノ百分ノ一

合升ノ十分ノ一

升六萬四千八百二十七立方分

斗十升

石百升

衡

毛質ノ百萬分ノ一

厘質ノ十萬分ノ一

分質ノ萬分ノ一

匁質ノ千分ノ一

貫

斤百六十匁

第四條 從來慣用ノ鯨尺ハ布帛ヲ度ルトキニ限り之ヲ用井ルコトヲ得

鯨尺一尺ハ一尺二寸五分トシ其ノ十倍ヲ鯨尺一丈、十分ノ一ヲ鯨尺一寸、百分ノ一ヲ鯨尺一分トス

第五條 「メートル」法度量衡ハ左ニ掲クル比較ニ依リ之ヲ適法ノモノトシ本條以下ノ規定ヲ適用ス

度

毛 厘 分

「メートル」	〇、〇〇〇〇三
「センチメートル」	(三)萬三千分ノ一
「ミリメートル」	〇、〇〇〇三〇
「デシメートル」	(三)萬三千分ノ十
	〇、〇〇三〇三
	(三)萬三千分ノ一
	〇、〇〇三〇三

第十五類 第三章 度量衡

「メートル」

「センチメートル」

「デシメートル」

〇、〇〇三三〇

〇、〇三三〇〇

〇、三三〇〇〇

地積 里 町 間 丈 尺 寸

〇〇〇三〇三〇
 (三萬三千分ノ一千)
 〇〇三〇三〇三
 (三萬三千分ノ一萬)
 〇三〇三〇三〇
 (三萬三千分ノ十萬)
 一八〇九〇九一
 (十一分ノ二十)
 一〇九〇九〇九一
 (十一分ノ一千二百)
 三九二七二七二七三
 (十一分ノ四萬三千二百)

「メートル」
 三三三〇〇〇〇
 「デカメートル」
 三三三〇〇〇〇
 「ヘクトメートル」
 三三三〇〇〇〇
 「キロメートル」
 三三三〇〇〇〇〇

七百三十四

量 町 段 畝 歩 合 勺

〇〇〇〇三三三
 (三千〇二十五分ノ一)
 〇〇〇〇三三三
 (三千〇二十五分ノ十)
 〇〇〇三三三〇
 (三千〇二十五分ノ百)
 〇九一七四
 (三千〇二十五分ノ三千)
 九一七三六
 (三千〇二十五分ノ三萬)
 九一七三五五
 (三千〇二十五分ノ三十萬)

「センチアール」
 〇三〇二五〇
 「アール」
 三〇二五〇〇〇
 「ヘクタール」
 三〇二五〇〇〇〇〇

合 勺

〇〇二八〇四
 (十三萬三千百分ノ二千四百〇二)
 〇一八〇三九
 (十三萬三千百分ノ二萬四千〇十)

「センチリットル」
 〇〇〇五五〇四
 (二十四萬〇一百分ノ一)
 〇〇五五〇四
 (二十四萬〇一百分ノ十)
 〇五五〇四
 (二十四萬〇一百分ノ百)

衡 石 斗 升

一八〇三九一
 (十三萬三千百分ノ一)
 一八〇三九〇七
 (十三萬三千百分ノ七)
 一八〇三九〇一
 (十三萬三千百分ノ一)
 一八〇三九〇六
 (十三萬三千百分ノ六)
 一八〇三九〇六
 (十三萬三千百分ノ六)

「リットル」
 〇五五〇三五
 (二十四萬〇一百分ノ一)
 五五〇三五二
 (二十四萬〇一百分ノ二)
 五五〇三五二
 (二十四萬〇一百分ノ二)
 五五〇三五二
 (二十四萬〇一百分ノ二)
 五五〇三五二
 (二十四萬〇一百分ノ二)

斤 貫 匁 分 厘 毛

〇〇〇〇三七五
 〇〇三七五〇
 〇三七五〇〇
 三七五〇〇〇
 六〇〇〇〇〇〇〇

「ミリグラム」
 〇〇〇〇二七
 (一萬五千分ノ四)
 〇〇〇二六七
 (一萬五千分ノ四十)
 〇二六六七
 (一萬五千分ノ四百)
 二六六七
 (一萬五千分ノ四千)
 二六六七
 (一萬五千分ノ四萬)
 二六六七
 (一萬五千分ノ四萬七)
 二六六七
 (一萬五千分ノ四萬七)
 二六六七
 (一萬五千分ノ四萬七)
 二六六七
 (一萬五千分ノ四萬七)
 二六六七
 (一萬五千分ノ四萬七)
 二六六七
 (一萬五千分ノ四萬七)

第六條 度量衡ノ原器ハ農商務大臣之ヲ保管ス

農商務大臣ハ度量衡ノ原器ニ依リ副原器ニ組ヲ製作セシメ原器ノ代用ニ供ス
 副原器ノ一組ハ農商務大臣之ヲ保管シ他ノ一組ハ文部大臣之ヲ保管ス

第十五類 第三章 度量衡

七百三十五

第七條 農商務大臣ハ副原器ニ依リ地方原器ヲ製作セシムヘシ

地方原器ハ地方長官之ヲ保管シ度量衡器檢定ノ標準ニ供スルモノトス

第八條 度量衡器ヲ製作シ修理シ若ハ販賣セント欲スル者ハ地方長官ヲ經由シ農商務大臣ニ願出免許ヲ受クヘシ

製作ノ免許ヲ得タル者ハ修理及販賣ヲナスコトヲ得

免許ニ關スル年限、身元保證金其ノ他必要ナル制限ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 度量衡器ヲ製作シ修理シ若ハ輸入シテ販賣シ又ハ營業ノ目的ニ使用スル者ハ豫メ其ノ檢定ヲ受クヘシ

營業ノ目的ニ使用スル度量衡器ハ前項檢定ノ外之ヲ修理シタルトキ及定期間ニ於テ檢定ヲ受クヘシ

官廳、公署、官立、公立ノ諸建設場又ハ貧院、病院其ノ他之ニ類スル建設場ニ於テ賣買、授受及證明ノ爲ニ使用スル度量衡器ハ營業ノ目的ニ使用スルモノニ準ス

第十條 度量衡器ノ種類、形狀、物質、檢定ノ定期及公差、檢定スヘキ目盛及分銅ノ最小制限ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條 度量衡器ノ檢定及取締ハ地方長官之ヲ管理ス

地方長官ハ市長、町村長ヲシテ其ノ市町村内ニ於ケル度量衡器ノ取締ヲ行ハシメ及其ノ檢定ニ關スル事務ヲ補助セシムルコトヲ得

第十二條 度量衡器ノ製作者、修覆者、販賣者及使用者ハ取締ノ爲ニ行フ當該吏員ノ臨檢ヲ拒ムコトヲ得ス但シ吏員ハ主任タルノ證票ヲ携帯シテ之ヲ示スヘシ

第十三條 度量衡器ノ製作、修覆及販賣ノ免許ヲ受クル者ハ免許料ヲ、檢定ヲ受クル者ハ檢定料ヲ納ムヘシ

免許料及檢定料ノ金額ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條 度量衡器ノ製作者、修覆者若ハ販賣者ニシテ度量衡ニ關スル法律命令ニ違背シタルトキハ農商務大臣ハ其ノ營業免許ヲ取消スコトヲ得

第十五條 免許ヲ受ケスシテ度量衡器ヲ製作シ若ハ修覆シテ販賣シタル者ハ二十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

免許ヲ受ケスシテ度量衡器ヲ販賣シ又ハ檢定ヲ受ケサル度量衡器ヲ販賣シ若ハ之ヲ營業ノ目的ニ使用シ及吏員ノ臨檢ヲ拒ミタル者ハ十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

差狂アル度量衡器ナルコトヲ知テ之ヲ販賣シ又ハ營業ノ目的ニ使用シタル者亦前項ニ同シ

第十六條 本法施行ノ細則ハ農商務大臣之ヲ定ム

附 則

第十七條 本法ハ明治二十六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十八條 度量衡器ノ製作ニ限リ本法施行前六箇月以内ニ之ヲ免許スルコトヲ得此ノ場合

第十五類 第三章 度量衡

ニ於テハ本法中製作ニ關スル條項ハ之ヲ適用ス

第十九條 從來度量衡製作及賣捌ノ免許ヲ受ケタル者ハ更ニ免許ヲ受クルコトヲ要セス本法ノ規定ニ從ヒ其ノ營業ヲ繼續スルコトヲ得

第二十條 從來ノ度量衡器ハ本法施行ノ日ヨリ七箇年以内ニ本法ノ規定ニ依リ其ノ檢定ヲ受クヘシ檢定ヲ經サルモノハ其ノ期限ヲ過クル後之ヲ販賣シ若ハ營業ノ目的ニ使用スルコトヲ得ス

第二十一條 從來ノ度量衡器ニシテ修履シタルモノ、檢定ハ本法施行ノ日ヨリ七箇年ヲ限リ從來ノ檢査規則ニ依ル

第二十二條 明治八年太政官第三百二十五號達度量衡取締條例並檢査規則同九年第十七號布告度量衡改定規則及西洋形權衡ニ係ル從來ノ法令ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス但シ度量衡取締條例附屬檢査規則ハ前條ノ場合ニ限リ明治三十二年十二月三十一日マテ其ノ効力ヲ有ス

●沿革要領

明治六年六月第二廿六號布告ヲ以テ西洋形權衡檢査印章ヲ定ム○同年十月第三百三十八號布告ヲ以テ大藏省極印ナキ西洋形日本量目ノ權衡ヲ用ユルヲ禁ス○九年二月第十七號布告ヲ以テ度量衡改定規則ヲ定ム○十四年第三十二號布告ヲ以テ西洋形權衡製作檢査印章ヲ改定ス○二十四年三月法律第三號ヲ以テ度量衡法ヲ制定シ二十六年一月ヨリ施行ヲ命ス

第四章 礦業

○日本坑法 六年七月二十日
布告第二百五十九號

今般鑛山其他諸坑業ノ規則別冊ノ通改定候ニ付テハ凡坑物ニ關係ノ事件ハ工部省ニ於テ總管セシメ候條自今金屬其外諸坑物營業ノ儀都テ同省ヘ可申立候此旨布告候事

(別冊)

日本坑法

第一章 坑物

第一 正理ヲ以テ論スルルキハ凡無機物タル者ハ 生活ノ機ナキ諸物品 都テ坑業ノ部分ニ屬ス此無機物品質ニ類ニ分ル即第一類ハ有鐵質第二類ハ無鐵質タリ凡諸金屬ノ天然本質ヲ以テ出ル者或ハ他ノ物質ト化合シテ出ル者ハ右第一類ニ屬ス燃質物山鹽燐酸石炭美石及玉璞ノ類ハ右

第二類ニ屬ス 本條舉ル所ノ有鐵質無鐵質トモ總テ是ヲ坑物ト稱ス坑山坑業坑區坑區等ミナ之ニ依ヘ

第二 前ニ掲記セシ物類凡日本國中ニ於テ發見スル者ハ都テ日本政府ノ所有ニシテ獨政府ノミコレヲ採用スル分義アリ

第三 築石土砂粘土其他建築耕作所用ノ諸物品ハ都テ地主タル者ノ所有トスヘシ

第四 日本ノ民籍タル者ニ非サレハ試掘ヲ作シ坑區ヲ借り坑物ヲ採製スル事業ノ本主或ハ組合人ト成ルコトヲ得ス 坑産ノ割合及ヒ利益ニ關係スル所ノモノハ都テ組合トス 若シコレヲ犯ス者ハ其業ニ屬スル所有物ヲ官ニ沒入シテ其業ヲ禁止スヘシ

第二章 試掘

第五 試掘ノ許可ヲ得ント欲スル者ハ試掘願書ニ試掘地ノ圖面ヲ添へ農商務大臣ニ差出ス
ハシ(二十三年七月法律第五十
五號ヲ以テ本項ヲ改正ス)

試掘ノ許可ハ出願日時ノ先後ニ依ル若シ試掘セント欲スル地ノ全部ヲ所有スル者ノ出願
ト同地ニ係ル他人ノ出願ト同時ナルトキハ其土地所有者ニ許可スルモノトス(同上本項
ヲ改正ス)

第六 試掘ニテ坑物發見スルキハ直ニ見本ヲ添テ鑛山寮ニ届出ツ可シ且試掘中ハ一月七月
兩度毎ニ前六ヶ月間ノ行業日數及工數並産鑛量ヲ開報スヘシ

凡産鑛ハ借區券ヲ第十款得ル後ニ非サレハ恣ニ賣却スルヲ得ス若シ之ニ背カハ其全價ヲ
沒收ス可シ

第七 試掘ハ都テ一年間ヲ以テ期限トス若延期ヲ願出ルニ實ニ未タ開坑ヲ決スルヲ得サ
ル事理判然タラハ之ヲ許可スルヲ有ル可シ

第八 試掘人廢業スルキハ第八拾七款廢坑則ノ如クスヘシ
此時ニ産鑛ハ鑛山寮ノ許可ヲ得テ賣却シ第三拾壹款ノ坑物稅ヲ納ムヘシ試掘人損失ニ因
テ廢業スル事實判然タルニ於テハ坑物稅ヲ免スルヲ有ルヘシ

第三章 借區開坑

第九 借區ノ許可ヲ得ント欲スル者ハ借區願書ニ坑區圖ヲ添へ農商務大臣ニ差出スヘシ(同上)
借區願書及坑區圖ヲ同時ニ差出シ難キトキハ願書ノミヲ差出シ置キ坑區圖ハ願書ノ日附

ヨリ三十日以内ニ之ヲ差出スコトヲ得此期限内ニ差出サハルトキハ其出願ヲ無効トス(同上)
借區ノ許可ハ出願日時ノ先後ニ依ル(同上)

出願ノ試掘地ト出願ノ坑區ト互ニ抵觸スルトキハ試掘出願ヲ無効トス(同上)
坑區ノ境界ハ直線ヲ以テ之ヲ定メ地表境界線ノ直下ヲ限リトス其一坑區ノ面積ハ石炭ハ
壹萬坪以上其他ノ鑛物ハ三千坪以上トシ共ニ六拾萬坪ヲ超ユルコトヲ得ス(同上)

第十 借區出願人ハ其出願地ニ於テ採掘セントスル鑛物ノ存在スルコトヲ證明スヘシ其證
明ヲナス能ハサルトキハ其出願ヲ無効トス(同上)
農商務大臣鑛物ノ存在ヲ認メス又ハ試掘若ハ採製ノ事業公益ヲ害スト認ムルトキハ其出
願ヲ許可セス(同上ヲ以テ本項以
下四項ヲ追加ス)

試掘若ハ採製ノ事業公益ニ害アルトキハ農商務大臣ハ既ニ與ヘタル許可ヲ取消スヲ得
試掘人又ハ借區人前項ノ處分ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但損害ノ
賠償ヲ要求スルコトヲ得ス

試掘人又ハ借區人ノ得タル試掘若ハ借區ノ許可詐偽又ハ錯誤ニ由リタルコトヲ發見シタ
ルトキハ農商務大臣ハ其許可ヲ取消スヘシ若シ其許可ニ就キ利害ノ關係ヲ有スル者ニ於
テ發見シタルトキハ之ヲ農商務大臣ニ申立テ其取消ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ農商務大臣ノ指令ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
第十一 凡借區ハ通常十五年間ヲ以テ定期トス之ヲ終ルニ至テ繼年期ハ新ニ願出スヘシ

第四章 通洞

第十二 通洞ハ坑道ハ縦横ニ小坑ヲ穿ツテ通常トス別ニ探鑛疏水運轉等ノ爲メ地底ヲ横切シ一道路ノ大坑ヲ穿ツテアリ之ヲ通洞ト云フ我カ借區中ニ非スト雖也之ヲ企ルコトヲ得ヘシ此時ハ願書ニ目論見明細圖ヲ添テ鑛山寮ヘ出スヘシ若シ其通洞他人ノ借區ニ亘涉スヘキハ豫メ其借區人ニモ報知ス可シ

通洞ハ高九尺幅六尺ヨリ減スヘカラス是ヨリ小ナルハ通洞トセス

第十三 願出ノ通洞ハ鑛山寮官員實地勘踏歸報ノ後許可スヘキハ工部全權ノ證明ヲ以テ免狀ヲ附與ス可シ免狀ヲ得ルノ後若シ目論見圖ニ違ヒ方向ヲ轉シ或ハ距離ヲ延縮セント欲セハ更ニ鑛山寮ヘ願出許可ヲ得テ之ヲ行フ可シ

第十四 借區人何レモ自ラ通洞ヲ開クヘキ資本有ニ非サレハ我區中タリト雖也他人ノ舉ヲ拒ムヘカラス

通洞保全ノ爲メニ其周圍ノ土石ヲ外ヨリ厚サ一間半以内ニ掘入ルヘカラス然レモ其跡ニ自己ノ入費ヲ以テ支柱ヲ構造シ崩潰ノ患無ラシムル者ハ此限ニ非ス是ハ坑物ヲ得ンカ爲メニ一旦土石ヲ掘出ス時ノ如キ是

第十五 通洞ニ因テ諸借區人便利ヲ得ルコトアラハ通洞發起人ニ其謝金ヲ出スヘシ若シ之ニ就テ對談穩當ナラスハ鑛山寮ヨリ處斷ス可シ

通洞ヲ開ク者ハ借區人未定之所ニ於テハ通洞ノ周圍内ヨリ出ルタケノ鑛石ヲ取ルコトヲ得ヘシ他人ノ借區中ニ於テハ此鑛石ノ一半ヲ借區人ニ歸スヘシ

第五章 坑業

第十六 都テ坑業ニ付テハ坑物ヲ坑中支柱ノ爲ニ存スヘキ所ノ外ハ成ル丈坑利ヲ遺スコトナク取出スヘシ此法ヲ犯シ其他都テ坑ノ利用ヲ害スルモノハ其輕重ニ隨テ罰金ヲ徵ス可シ

第十七 試掘開坑或ハ通洞等ヲ企ルニハ舍屋鐵道河流及ヒ道路ノ如キ其害ヲ受クヘキ場所ハ度ヲ計テ之ヲ避ケ殊ニ城堡ハ七十間以内ノ地ヲ避ク可シ

凡場所ノ主タル者應諾スルニ非スシテ此ヲ犯ス者有レハ城堡ハ其律ニ任シ餘ハ其損害ヲ償復スル一倍ノ費額ヲ取テ本費ハ其主ニ附與スヘシ

第十八 凡初發許可ヲ得シ坑物ノ外ニ別種ノ坑物ヲ見出ス者ハ速ニ鑛山寮ニ報知スヘシ之ヲ背ク者ハ其坑物又ハ代價ヲ取揚クヘシ

如此類ノ借區稅ハ第三十一條ニ照準シ高價ナル方ノ例ヲ以テ納ムヘシ

第十九 開坑人ハ歲々一月七月兩度毎ニ前六ヶ月間ニ產出セシ坑物量其賣出高並代價及行業日數工數ヲ具記シテ鑛山寮ニ報知ス可シ

有鑛質ハ坑產量並製出量且製出セシ混雜物二種以上ノ金屬ヲ含有スルハ其試驗ノ割合ヲモ具記シテ賣出高以下都テ前ノ如クス可シ

右數量不正或ハ開報違期ノ罰ハ金五拾圓トス若シ賣出高並代價ヲ減書スル者ハ其減書セシ高ノ三倍ヲ徵收ス可シ

第二十 通例開坑又ハ廢礦ヲ採製スルニモ一年間ノ事業ハ地面五百坪ノ下ニ就テ壯健ナル

一夫三百日ヲ以テ成セル程ノ工數ヨリ減スヘカラス若シ之ニ背ク者實ニ百方免レ難ク妨
碍判然タルニ有ラスンハ其業ヲ禁止スヘシ

第二十一 坑業人ハ互ニ隣坑ノ風通シヲ便利ニスヘシ且甲區ヨリ乙區ノ地中ニ水道ヲ通シ
地上ニ要路ヲ通センコトヲ求ムルニ於テハ不當ノ償金ヲ貪ルヘカラス若相對ヲ以テ決セス
ンハ鑛山寮ヨリ處斷スヘシ

右掘通シニ付テ出ル鑛石ハ其所ノ借區人ニ屬スヘシ

第二十二 試掘又ハ借區ヲ出願スル爲他人ノ土地ヲ測量スルコトヲ必要トスルトキハ地方
長官ノ認可ヲ受クヘシ此場合ニ於テハ其土地ノ所有者又ハ關係人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス
若シ測量ノ爲損害ヲ生シタルトキハ之ヲ賠償スヘシ(同上ヲ以テ)
(本項ヲ改正)

左ノ場合ニ於テ試掘人又ハ借區人坑業上他人ノ土地ヲ使用スルコトヲ必要トスルトキハ
其土地ノ所有者又ハ關係人ト協議シ其承諾ヲ受クヘシ若シ協議調ハサルトキハ農商務大
臣ノ裁定ヲ請フヘシ(同上ヲ以テ本項以テ)
(下八項ヲ追加ス)

- 一 坑口ヲ開穿スル爲
 - 一 坑物及土石ノ堆積場ヲ設置スル爲
 - 一 坑道、道路、鐵道馬車、鐵道、運河、溝渠及溜池ヲ開設スル爲
 - 一 坑業上必要ノ製鍊場及建物ヲ建設スル爲
- 前項ノ場合ニ於テ農商務大臣ノ裁定ニ對シテハ其土地ノ所有者又ハ關係人ハ其貸渡ヲ拒

ムコトヲ得ス

試掘人又ハ借區人ハ貸渡ヲ受クヘキ土地ニ對シ土地所有者及關係人ニ協議ヲ遂ケ相當ノ
補償金ヲ支拂フヘシ

試掘人又ハ借區人三箇年以上土地ヲ使用スル目的アルカ又ハ使用ノ爲土地ノ形質ヲ變更
スルカ又ハ建物アル土地ハ所有者ノ請求ニ依リ之ヲ收用スヘシ

此他土地ノ使用及收用ニ關シテハ土地收用法第十八條第十九條第二十條第二十一條第二
十二條第二十三條第二十四條第二十五條第二十六條第一項第三十四條第三十五條第三十
六條第三十七條ノ例ニ依ル

第二十三 總テ坑區ヨリ隣區ニ患害損傷ヲ被ラシムルキハ之ヲ償フヘシ若シ償金決セスン
ハ鑛山寮ヨリ裁決スヘシ

第二十四 凡借區人其坑業ヲ年限中他人ニ讓渡ス如キハ前以テ雙方ヨリ鑛山寮ニ願出許可
ヲ請フヘシ若シ之ニ背ク者ハ其業ヲ禁止スヘシ

第二十五 凡借區年限終リ又ハ法ニ背ヒテ其業ヲ禁止セラレ或ハ自ラ廢業スルニ至ル者ア
レハ都テ其借區ハ政府ニ還復シ其事業ニ就テ如何ナル負債アリト雖モ總テ其坑山ニハ關
係セサル者トス此時ニ當テ地中ノ結構ハ坑山ニ屬シテ政府ノ有タルヘシ

地上ノ營造ハ其主ノ取去ルニ任スト雖モ其跡ノ地面ハ完全ニ修復ヲナスヘシ

第二十六 坑業人ハ其坑山地方ノ住民同様トス因テ其地方官ノ諸法令ヲ遵守ス可シ

第六章 廢業

第二十七 坑業ヲ廢セント欲スル者ハ堅坑ノ口ヲ掩ヒ又柵圍ヒスヘシ鑛山寮ヨリ其堅坑ヲ當然ニ堅固ニセシヤ且坑内ノ營繕完全存在スルヤヲ検査スヘシ若疎漏アラハ鑛山寮ニ於テ是ヲ繕治ス可キ費額ノ一倍ヲ徵收スヘシ

第二十八 鑛山寮ヨリ疏水ヲ命スルニ背キテ其事ヲ行ハス之カ爲ニ坑中廢没スルニ至ル者ハ其業ヲ禁止ス

第七章 製鑛所建築

第二十九 凡開坑人坑山外ノ場所ニテ有鑛質物ヲ製出セン爲ニ建築スヘキモノアラハ先鑛山寮ニ許可ヲ請フヘシ

第二十 已ニ製煉セシ鑛物ヲ精製（荒銅ヲ丁銅精銅ニ作リ山吹金ヲ純金ニ製スル類ヲ云）スル職業ノ者ハ起業ヲ鑛山寮ニ報知シ六ヶ月毎ニ元鑛量並製出品量等ヲ具記シ鑛山寮ニ開報スヘシ

第八章 稅納

第三十一 鐵ヲ除クノ外有鑛質物ヲ採取スル坑區ハ面積五百坪毎ニ一ヶ年金壹圓ツ、借區稅トシテ毎年一月ニ其一ヶ年分ヲ前納スヘシ（借區稅ハ地租ニ關係セズ）鐵及ヒ無鑛質ノ諸物品ヲ採取スル坑區ハ面積五百坪ニ付前條ノ半高ヲ納ムヘシ即金五拾錢トス但忘納者ハ借區券ヲ取揚クヘシ（十四年第四拾九號布告ヲ以テ前一ヶ年分ヲ下（鑛山寮ニ納ムヘシ）ヲ前納スヘシ）ト改メ結尾ニ但書ヲ追加ス）廢鑛ヲ採取スル坑區ハ面積五百坪ニ付常例ノ稅額ヲ納ム可シ

開坑區面積五百坪廢鑛區面積千坪トニ足ラサルモノハ總テ右面積ノ比例ニ隨テ納ムヘシ借區初年ノ區稅ハ月割ヲ以テ借區券下付ノ節前納スヘシ（同上（月割）ノ下（ニテ納ムヘシ）ヲ以テ以下云々）云々ト改ム）

「前書借區稅ノ外ニ採製セシ金屬及諸坑物ニ就テ代價百分ノ三ヨリ百分ノ二十迄ヲ坑物稅トシテ毎歲一月七月兩度ニ鑛山寮ニ納ム可シ（八年第二號布告ヲ以テ坑物稅收納ヲ常分ノ内廢止ス）」

但稅額ノ饑ハ其坑業ノ盛衰ニ隨ヒ鑛山寮ヨリ命スヘシ
第三十二 試掘開坑或ハ通洞等ニ付テ前後諸條款ニ記セル稅或ハ罰金償金等ヲ納メサルト其業ニ屬スル所ノ運移スヘキモノ殘ラヌ鑛山寮ヨリ入札拂ニシテ代價ノ中ヨリ不納高ヲ引去リ其殘金ハ之ヲ本人ニ還付スヘシ

第三十三 凡坑法ノ意旨ニ戾ル過失有ル者ハ輕重ニ隨テ罰金ヲ命スヘシ若シ事業疎略ニシテ人命ヲ失ハ、國律ヲ以テ論處ス可シ
右章款ニ記載セル方法ハ明治六年九月一日ヨリ施行スヘシ従前ノ法則及ヒ舊習等若シ此法ニ矛盾スル者ハ都テ廢傳タル可シ

坑法附示

坑業及製鑛ノ業ヲ舉行スル者西洋ノ學術及工作ヲ用ヒンカ爲メ一定ノ給料ヲ以テ外國技術家ヲ雇入ル、カ如キハ我坑產損益及ヒ所有物ニ關係スル事無キニ因テ坑法第四款ノ禁ニ觸レズ然レモ之ヲ雇入ル、以前其職業給料及年限ヲ分明ニ記載シ其案紙ヲ鑛山寮ニ送呈シテ結約ノ許可ヲ可請候事

○鑛業ニ關スル出願手續二十三年七月三十一日

今般法律第五十五號發布ニツキ鑛業ニ關スル出願手續等左ノ通相定ム

第一條 試掘若クハ借區ノ許可ヲ受ケント欲スル者ハ願書ニ勅令第五百一十一號第一條ノ手数料ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シ必要ノ圖面ヲ添ヘ書留郵便ヲ以テ直ニ農商務大臣ニ提出スヘシ

但シ試掘及借區願書ハ第一號及第二號書式ニ坑區圖ハ第一號圖形ニ依ルヘシ

第二條 坑法第九款第二項ニ依リ願書ノミヲ提出ストキハ府縣國郡市町村大字小字及概略ノ坪數ヲ記シタル見取圖ヲ添フ可シ

第三條 鑛業ニ關スル願書及附屬圖ニハ地主隣借區人ノ連署及市町村長郡長及地方長官ノ奥書ヲ要ヒス

第四條 試掘借區通過、借區外坑道及借區外製煉所建設等ニ係ル願書ヲ農商務大臣ニ提出シタルトキハ同時ニ其ノ願書及圖面ノ寫ヲ添ヘ試掘地又ハ借區地ノ市町村長ヲ經由シ地方長官ニ届出ツヘシ

地方長官ニ於テ前項ノ届書ヲ受理シタルトキハ圖面ノ正否公益上ノ利害並ニ其ノ出願地ニ於テ他ニ鑛業ヲ營ム者ノ有無ヲ調査シ意見ヲ附シ農商務大臣ニ具申スヘシ其ノ御料地若クハ官有地ニ係ルモノハ地方長官主管ノ官廳ニ協議ヲ遂クヘシ

第五條 新ニ發見シタル鑛物ニ就テ借區ヲ出願スル者ハ其ノ鑛物ノ標品ヲ農商務省鑛山局長宛ニテ提出スヘシ

茲坑ニ就テ借區ヲ出願スル者其ノ茲坑ヨリ出願鑛物ヲ採製シタルノ車蹟ヲ證明シ得ルトキニ限り標品ヲ要セス前項ノ標品及證明書ハ借區願書ト同時ニ提出スヘシ

但シ標品ヲ借區願書ト同時ニ提出スコトヲ得サルトキハ日限ヲ定メ借區願書ヲ提出ストキ其ノ旨ヲ届出ヘシ

第六條 試掘又ハ借區出願ノ爲メ必要ナル土地ノ測量ニ就キ地方長官ハ其ノ認可ヲ出願シタル場合ニ於テハ地方長官ハ五日以内ニ認可狀ヲ下付スヘシ若シ認可狀ヲ下付スヘカラサルモノト認めタルトキハ出願ノ日ヨリ十日以内ニ其ノ理由ヲ具シ農商務大臣ノ指揮ヲ酬フヘシ

(第一號書式) (用紙美濃紙ニツ折正副二通)

此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ

試掘願

何府何國何郡何町何番地

華土族平民

何 某

但シ組合人アラハ外何名

名稱 何 (地名) 試掘地

何府何國何郡何町何村何大字何

小字 何全地

但 官地 何々

民地 何々

小字 何ノ内

但 官地 何々

民地 何々

右之箇所ニ於テ何鑛含有致シ候見込ニ付試掘許可相成度此段相願候也

年月日

願人 何 某 印

但シ組合人アラハ連名連印スヘシ

農商務大臣(爵)(姓名)殿

(第二號書式) (用紙美濃紙ニツ折正副二通)

第十五類 第四章 破禁

此處ニ登記印紙ヲ
貼用シ消印スヘシ

借區願

七百五十

何府何國何郡何町何番地

華士族平民

何 某

但シ組合人アラハ外何名

名稱 何 (地名) 鐵山

何府何國何郡何町何番地

小字 何全地

但 官地 何々

小字 何ノ内

但 官地 何々

右之箇所ニ於テ何鐵存在致シ候ニ付借區許可相成度此段相願候也

年月日

願人 何

某印

但シ組合人アラハ連名連
印スヘシ

農商務大臣(爵)(姓名)殿

(第二條ノ場合ニ於テハ左ノ但書ヲ加フヘシ)

但シ坑區圖ハ何年何月何日迄ニ差出シ可申候間見取圖添附仕候也

(備考)

(第二條ニ依リ別ニ圖面ヲ差出ストキハ圖面ノ右側ニ左ノ通り認メ置ク可シ)

(何)年(何)月(何)日發送仕置候借區出願ニ對スル借區圖差出シ申候也

年月日

何府何國何郡何町何番地

華士族平民

何 某

但シ組合人アラハ連名連
印スヘシ

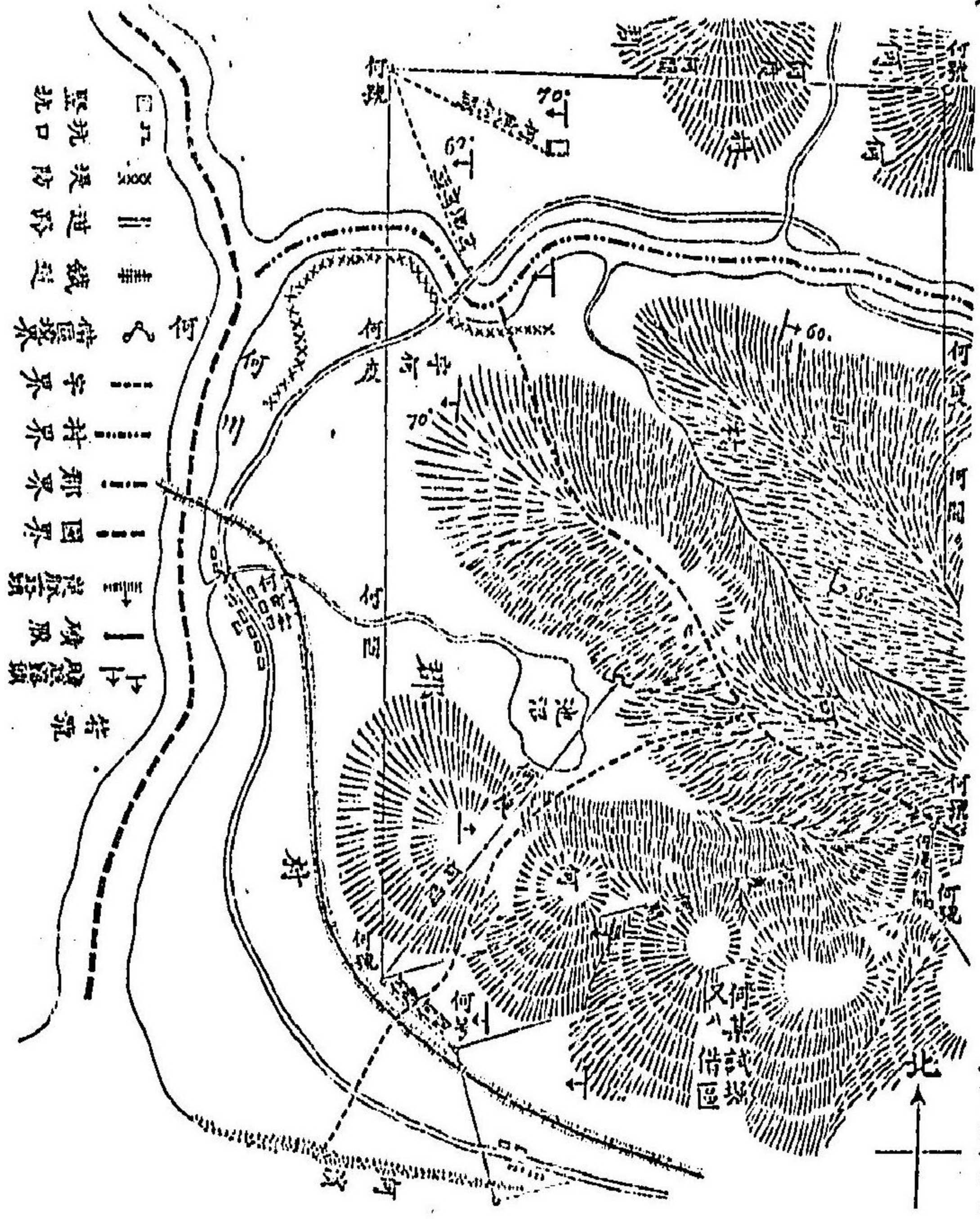
第一號雜形 (二十三年十月農商務省令第
十四號ヲ以テ雜形中削除)

何府何國何郡何町何番地 小字何全地 官地 (地種地目) 何坪
何縣何國何市何村何番地 小字何ノ内 官地 (地種地目) 何坪

合計何坪

測量者 何

某印



- 圖中山ハ綠白水ハ青色坑區ノ境界線ハ朱ヲ以テ顯スヘシ
- 一 二箇以上ノ坑區アルトキハ甲乙等ノ號ヲ付シ一區毎ニ村字押收ヲ替別ケ別々ニ記載スヘシ
 - 二 坑區ハ成ルヘク隅角ノ少キ様區畫スヘシ
 - 三 坪數ハ四捨五入シテ坪ニ止ムヘシ
 - 四 基點ハ家屋橋梁大石及大木等ノ如キ容易ニ動カス可カラサルモノタルヘシ若シ近傍基點ト爲スヘキモノナキトキハ大ナル標木ヲ設置シ之レヲ基點トナスヘシ
 - 五 百間以内ノ地ニ於テ自他ノ坑區アラハ其距離ヲ測定シテ圖上ニ掲クヘシ
 - 六 礦脈ノ方向判然タルモノハ坑區内及近傍礦脈露頭ノ走向傾斜ヲ揭示スヘシ
 - 七 増減借區ノトキハ原圖ヲ製シ若干ノ増區前同樣圖ノ式ニ依ルヘシ減區ノトキハ其區域ハ無彩色ニ製スヘシ
- 私鐵 疏水運轉或
 通洞橋通シ度右通洞別紙圖面之某場所ニ有之候尤通洞ノ地位ニ當リ候借區ノ主某ニ報知仕置候右通洞城
 方御附届被下度奉願候以上

年號月日

前書之通御附届相成度候也

年號月日

通洞券

其年月願出候其賃籍某職業某基地ニ於テ別紙圖面之通洞橋通候事許候尤日本坑法ヲ確奉可致者也

工部全權 某印

○坑業ニ關スル手数料徵收ノ件 二十三年七月二十九日 敕令第五百五十二號

第十五類 第四章 礦業

七百五十三

某縣賃籍某國某郡某村某職業
某印

某縣令 某印

朕坑業ニ關スル手数料徴收ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第五百一十一號

- 第一條 坑業ニ關シ次ニ掲ケタル出願ヲ爲ス者ハ左ノ手数料ヲ納ムヘシ
 - 一 試掘ヲ出願スルトキ 一願書毎ニ金三圓
 - 一 借區ヲ出願スルトキ 一願書毎ニ金拾五圓
 - 一 試掘ノ讓與、延期、加除名ヲ出願スルトキ 一願書毎ニ金壹圓
 - 一 借區ノ繼年期、讓與、加除名、訂正、合併若ハ分割ヲ出願スルトキ 一願書毎ニ金五圓
 - 一 借區外製煉所建設又ハ借區外ノ坑道、通洞ヲ出願スルトキ 一願書毎ニ金貳圓

第二條 手数料ハ登記印紙ヲ以テ納ムヘシ

第三條 本令ハ明治二十三年八月一日ヨリ施行ス

○借區坑業明細表確定ニ付府縣ヲシテ鑿刻ノ上相當代價ヲ以テ拂下ケシム
六年十二月二十
四日工部省達第
十七號

今般借區坑業明細表確定ニ付別紙鑿形書式之通坑業人ヨリ工程取調差出サセ可申候就テハ右書式共鑿山寮及同寮各出張所陸中國鹿角郡小坂羽後國秋田郡大崎佐渡國上野郡相模川但ニ相備置候間最寄寮人共願出候ハ、相當ノ代價ヲ以拂下可馬國朝生郡生野山國國意字郡出雲郡村筑後國三油郡三油

申候尤各府縣廳ニ於テ便宜ニヨリ鑿刻之上管下寮人へ相當之代價ヲ以拂下候儀可爲勝手此旨相達候事

(別紙)

借區坑業明細表書式凡例

借區人借區年限中ハ毎年一月ト七月ノ兩度ニ前六ヶ月間ノ坑業ヲ借區坑業明細表ニ詳記シテ鑿山寮ニ開報スヘシ因テ借區人ノタメニ其書式凡例ヲ左ニ掲示ス

〔借區〕トハ坑物ヲ抽出スヘキ場區ヲ政府ヨリ借受クルコトヲ云フ此場區ヲ坑區ト云フ

〔坑業〕トハ坑物ヲ採製スルタメニ行フトコロノ事業ヲ云フ

〔開業〕トハ坑物ヲ採製ル事業ヲ始ムルコトヲ云フ

明細表ヲ二様ニ別ツ第一號ハ製煉ノ業ヲ兼テタルモノ、表トシ第二號ハ製煉ヲ兼テサルモノ、表トス

但凡ソ製煉ヲナスヘキモノハ有鑛質物トス然レトモ無鑛質物ト雖トモ石油山鹽ノ類ノ如キ製煉ノ業ヲ兼テル者ハ皆第一號ノ表ヲ用ユヘシ

府	何府	又ハ	何縣	郡	國	何國	何郡	村	何	村	字	何	何々々
---	----	----	----	---	---	----	----	---	---	---	---	---	-----

但字ニケ所以上ハ何ヶ所ニテモ割替ニ記スヘシ

坑名 何坑 金坑銀坑又ハ石炭坑ノ類

借區	何千何	開業	何月	何年	借區	何府	何縣	何郡	何村	又ハ	何府	何縣	何字	何族
----	-----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

年	明治何年	收	一月	分	三月	迄	收	一月	分	六月	迄
---	------	---	----	---	----	---	---	----	---	----	---

府縣國郡以下ノ野ハ都ヲ上ノ例ニ照準シテ記載スヘシ

但十一月ヨリ六月迄ノ表ニ八月收上段ヲ一月ヨリ三月迄ノ分トシ月數下段ヲ四月ヨリ六月迄ノ分トス○七月ヨリ十二月迄ノ表ニ八月上段ヲ七月ヨリ九月迄ノ分下段ヲ十月ヨリ十二月迄ノ分トス尤借區ノ初年末年ノ如キ行察三ヶ月ニ滿タ

第十五類 第四章 礦業

サルモノハ其月數タケテ記載スヘシ且ツ此橫線畫圖ニハ表面越區一抽出高其外各種ノ勘定高ヲ右三ヶ月ツ、ニ精算シテ記載スヘシ

七百五十六

合計此橫線畫圖ニハ表面抽出高其外各種ノ野内ニ記セン月數上段下段ノ勘定高ヲ三ヶ月ツ、ニ合算シテ記載スヘシ但シ越區高ハ合計ニ及ハス

坑品 一トハ有鐵質物無鐵質物ヲ論セス總テ坑中ヨリ抽出ス所ノ物品ヲ云フ

製出 一トハ坑中ヨリ抽出シタル物品ヲ製煉シテ金銀其他ノ金屬又ハ製成ノ石油山鹽等トナリタルモノヲ云フ

越區 一トハ前月殘高ノ本月ニ越シ來ルモノヲ云フ

抽出高 一トハ借區内坪内ヨリ抽出シタル三ヶ月間ノ坑品高ヲ云フ

坑製煉高 一トハ前月ヨリノ越高ト三ヶ月間ノ抽出高ノ内ヨリ諸金屬又ハ石油山鹽等ヲ製出センカタメ製煉ニ向ケタル坑品高ヲ云フ

坑品高 一トハ越高ト抽出高トノ内ヨリ未タ製煉セスシテ殘リタル坑品高ヲ云フ

製出來高 一トハ坑品ノ既ニ製煉ヲ經テ製成シタル三ヶ月間ノ出來高ヲ云フ

品 製出 何日何日何日何日何日何日
何日何日何日何日何日何日
何日何日何日何日何日何日

品 製出 何日何日何日何日何日何日
何日何日何日何日何日何日
何日何日何日何日何日何日

スヘシ若シ過剩物ナレハ其高ヲ記シ含有物ノ見込ヲ試驗ノ量ニ隨ヒテ米替スヘシ

發高製高 品譯ノ書式ニ同シ

A價 一トハ製品越高ト出來高ノ内ヲ賣取シタル總代價ヲ云フ

但シ賣取スル所ノ製品二種以上ナレバ其品種代價ヲ一種ツノ内譯ニ記載スヘシ

品 殘高 一トハ製品越高ト出來高トノ内ヨリ未タ賣取スル能ハステ殘リタル高ヲ云フ

行業日數 一トハ坑品抽出製煉トノ事業ヲ行ヒタル總日數ヲ云フ

但シ行業ノ休日ハ算入セサルヘシ

内 抽出行業日數 一トハ抽出ノモノノ事業ヲ行ヒタル日數ヲ云フ 製煉行業日數 拜二工收入費ノ内譯之ニ準ス

工數 一トハ坑品抽出製煉トノ爲メニ使用シタル人夫ノ總工數ヲ云フ

入費 一トハ坑品抽出製煉トノ爲メニ消費ノ總金高ヲ云フ

但シ第二號表面製煉ヲ兼テサル坑物ノ賣高代價以下宜シク上ノ例ニ準シテ知ルヘシ

坑品稅 一トハ坑區面積ノ坪數廣狹ニ隨ヒテ納ムル税金ヲ云フ

坑物稅 一トハ製出シタル坑品又ハ製煉ニ及ハサル坑物ノ販賣代價多寡ニ隨ヒテ納ムル税金ヲ云フ

借										
品譯	品製	品坑	品坑	品坑	品坑	品坑	品坑	品坑	品坑	品坑
	越	高	高	高	高	高	高	高	高	高
年	收月									
名	收月									
縣	收月									
府	收月									
一	收月									
村	收月									
字	收月									
八	收月									
借	收月									
區	收月									
年	收月									
月	收月									
開	收月									
業	收月									
日	收月									
一	收月									
字	收月									
合	收月									
計	收月									

第十五類 第四章 礦業 七百五十七

借區坑業明

第二號

第十五類 第四章 礦業

越	掘	賣	代	殘	年		坑名	縣府
					號	月		
							借區	郡國
							借區	村
							借區	字
合計								

七百五十九

區坑業明細表

行	業	日	收	製	品	內	代	價	品	賣	品	製	出	來	高

七百五十八

表 細		行 業 日 數	工 數	入 費	坑 區 稅	坑 物 稅

○將來發掘ノ坑物ヲ引當トシテ外國人ヨリ金子借受又ハ先賣ノ約定等ヲ禁ス
七年十一月十日
 布告第百貳拾四號

坑物ノ儀ハ明治六年第貳百五拾九號布告日本坑法ニ掲載ノ通政府ノ所有物タルハ勿論ニ付縱令開坑ノ許可ヲ受候共其坑中將來開發ノ品ヲ引當ニ致シ外國人ヨリ金子借入又ハ先賣約定等ノ儀ハ不相成候條此旨布告候事

○試掘鑛場ヨリ坑物發見スルトキ見本差出方
七年十二月五日
 工部省布達第三拾號

試掘鑛場ヨリ坑物發見スル時ハ坑法第二章第六款ニ照準直ニ見本可抽出答ノ處未ダ不抽出者モ有之不都合ニ付左之條目ニ照準早々爲抽出猶試掘ヲ不經シテ借區開坑候者モ同様爲抽出候條可致此旨布達候事
 但以來モ本支同様可相心得候事
 一有鑛質無鑛質ニ不係鑛石類ハ方三寸ヨリ大ナラサルモノニ硃砂金ハ成丈大粒ヲ掘ミ目方一寸ヨリ三寸迄砂鑛ノ類ハ字毎二目方寸勿石油山鹽等ハ字一箇所ニ付ニ合ヲ限毎種上中下三品抽出ス可シ結晶物ハ大小ニ不關係抽出ノマ、抽出ス可キ事

但結晶物ノ價格アルモノ並ニ砂金ハ相當ノ代價下渡候事
 一鑛物類ハ每種必抽出ノ地名並採採人ノ名則書ヲ添ユヘシ

○借區開坑許可ノ鑛場讓渡ノモ、證券下渡方
七年三月二十九日
 工部省布達第八號

借區開坑許可之鑛場甲ヨリ乙へ讓渡之儀坑法第貳拾四條之通甲乙雙方ヨリ願書呈出當省ニ於テ調査不都合無之開屆候分ハ更ニ證券可下渡候條讓渡人所持之證券ハ願書一同可抽出此旨布達候事
 但讓渡之年限ハ最初借區開坑時ヨリ殘年數ト相心得可申候事

○試掘並借區開坑等證券一枚ヲ以テ數ヶ所許可ノ内借區開坑或ハ讓渡廢業分區等出願ノ節證券願書等差出方
七年十二月七日
 工部省布達第三拾壹號

附鑛山試掘並ニ借區開坑等證券一枚ヲ以テ數箇所許可候鑛場ノ内借區開坑或ハ讓渡廢業分區等出願ノ節ハ本年當省第八號布達之通願人所持ノ證券願書一同可抽出此旨布達候事
 但試掘鑛場字一箇所ノ内幾坪借區開坑讓渡廢業等願出發部分猶引續キ致試掘候分ハ其詳細ニ書加へ可願出其分ニ限リ證券抽出ニ不及候事

○日本坑法第八章中坑物稅當分廢止
八年一月十三日
 布告第貳號

明治六年七月第二十五十九號布告日本坑法第八章中ニ掲載有之候坑物稅收納ノ儀本年一月ヨリ當分ノ内相廢候條此旨布告候事

○坑業日數工數出鑛量等届出方及借區或ハ廢業延期出願方
八年二月十日
 工部省布達第二號

附鑛山試掘中ハ坑業日數工數並出鑛量等坑法第六章ニ照準可届出且試掘滿期ニ至リ候者ハ借區或ハ廢業延期等可願出之處聞ニハ過延ノ向有之不都合候條各地方官ニ於テ檢査ヲ遂都テ坑法ニ違背無之候條注意可致此旨布達候事
 但本文借區或ハ廢業延期等出願ノ節ハ證券願書可抽出候事

○一鑛山ヲ數人各自ニ分區營業ノ者雙方坑區ノ距離ヲ立テ出願方 八年十月二十八日
 諸坑業人一鑛山ヲ數人各自ニ分區營業候者雙方坑區ノ中間ニ相當ノ距離無之候テハ不都合ニ付自今試掘並借區開坑共雙方坑區ノ中間ニ拾圓以上ノ距離相立可願出且現今彼此接續ノ坑區ハ更ニ右ノ距離取調圖面相添雙方ヨリ減區可願出此旨布達候事

但右開地ニ於テ探掘セサルヲ得サル節ハ雙方借區人示談ノ上運名ヲ以テ借區開坑可願出

○鑛山試掘並借區開坑等廢業願開屆方 九年十月十七日
 工部省布達第四號

諸鑛山試掘並借區開坑等廢業願ノ儘是迄當省へ發出ノ上許可致來候處自今廢官ニ於テ日本坑法第六章第廿七款ノ通廢坑斷危害無之候様手當方行屆候見込ノ分ハ直ニ開屆其段廢券相添可願出此旨相達候事

○鑛山借區明細表坑區稅及試掘行業日數等ノ開報方 九年十月四日
 工部省達第三號府縣

諸鑛山借區明細表並坑區稅及試掘行業日數等ノ開報是迄鑛山寮へ發出來候處自今總テ本省へ差出可申此段相達候事

○諸坑業稼ノ者身代限處分濟迄稼業ヲ禁ス 九年四月十五日
 布告第四十九號

諸坑業稼ノ者身代限リ處分ヲ受ケ候節ハ右處分相濟候迄稼業不相成候條此旨布告候事

○身代限處分ヲ受ケタル者試掘借區假證券返納セシム 九年四月二十日
 工部省布達第八號

大政官第四十九號身代限處分ヲ受候者處分中坑業稼方不相成旨御布告ニ付右處分ヲ受候者ハ當省ヨリ下渡置候試掘借區假證券返納可致此旨布達候事

但身代限リ處分濟ノ上猶再稼度者ハ坑法ニ照準更ニ可願出候事

○諸鑛業廢業屆書へ月日ヲ詳記セシム 九年十二月二十日
 工部省達第五號

本年第四號ヲ以テ相達置候諸鑛山試掘並借區開坑廢業等屆方ノ候人民出願ノ月日記載不致向問々有之不都合ニ付以來右月日記載可願出此旨相達候事

○北海道鑛山借區稅徵收方 十一年二月五日
 布告第三號

開拓使管内鑛山借區稅ノ徵收議ノ次第有之當分其營業月數ニ應シ月割ヲ以テ徵收候條此旨布告候事

○諸鑛山借區稅上納方改正 十一年十一月六日
 工部省達無號

諸鑛山借區稅之徵收前坑業明細表ニ據リ一ヶ年分ヲ四割ニ計算シ收納來候處今後ハ更ニ坑法ニ照準可致尤明細表ハ一ヶ年之金高ヲ右合計之野内へ記入可變出此段相達候事(十四年九月四十九號布告及同年十月)但從前ノ假合ヲ以テ既ニ上納候假分ハ本年限其儘上納不替候事

○砂鐵砂金稼行ノ者試掘借區開坑ノ名稱ヲ廢シ採取出願方等ヲ定ム 十二年十月二十八日
 工部省布達第拾四號

砂鐵并砂金稼行之者ハ日本坑法ニ基キ試掘借區開坑ヲ許可シ來候處自今都テ試掘借區開坑之名稱相廢候條該地所之名字等詳細之繪圖面相添採取之儀出願スヘシ且從來既ニ試掘借區開坑之許可ヲ受居候者ハ採取ニ願替假坑區券ハ返納スヘキ儀ト可心得此旨布達候事

○砂金砂鐵採取行業明細表雛形 十三年三月二十九日
 工部省布達第六號

昨十二年第十四號ヲ以砂金砂鐵試掘借區開坑之名稱相廢候ニ付テハ該稼業者ヨリ從前發出來候行業明細表之儀左ノ雛形ニ照準取調可變出此旨布達候事

砂金採取行業明細表

府	縣	國	官民地別	字	開業年月	稼人名
號年	數月	數月	數月	合	計	

採出	採入	品	代	内	行	工	内		採
							入	取	
高	高		價		業	取	入	取	行
					日	取	採	採	業
					收	入	取	取	日
					收	費	工	工	收
							取	取	收
							入	入	入
							費	費	費

○坑業明細表差出ノ節證券又ハ願書ノ番號記入 十六年十一月六日 工部省遠第三號
坑業明細表差出候節自今試掘借區ハ証券ノ番號又採取煤核ハ許可ノ節願書へ記載ノ番號ヲ記入致シ差出候様可取計此旨

相違候事

但試掘延期渡廢業其其他續業人ニ關係ノ書類差出候節モ總テ本文同様可相心得候事

○税金怠納者證券取揚營業禁止方 十六年十一月十三日 工部省遠第六號府縣
日本坑法第八章第三十一款改正附補之儀十四年九月第九號公布相成候處處分方遷延ノ向モ有之不都合候條以來怠納者ハ二月一日ヲ以テ斷然証券取揚營業禁止候條ト可相心得此旨相違候事

但本文ノ場合ニ於テハ同法第三十二款ニ照シ税金徵收ニ不及候事

○諸坑場稼人廢業届差出方 十七年三月一日 工部省遠第一號

諸坑場稼人廢業届ノ儀ハ明治ノ日ヨリ十五日以內ニ取附當者へ可届出且此分ニ限リ坑業明細表同時ニ可差出候條ト可相心得此旨相違候事

但証券引上坑業禁止ノ者モ本文同様可相心得

○諸坑場稼人廢業願出又ハ証券引上坑業禁止者明細表差出方 十七年三月一日 工部省告示第五號

諸坑場稼人廢業願出又ハ証券引上坑業禁止ノ者假令休業タリモ六年當省第十七號及七十三年第六號違書式ニ據リ其月迄ノ明細表圖製其際可差出此旨告示候事

但分區廢業ハ此限ニアラス

○鑛山試掘並借區證券紛失ノ分所在發見ノ節證券還付方 十八年二月三日 工部省遠第三拾八號

鑛山試掘借區證券紛失ノ分ハ其都府當省ヨリ告示可致ニ付所在發見届出候者有之節ハ証券ニ理由書相添直ニ當省へ還納可致此旨相違候事

○鑛山試掘借區人相續又ハ讓渡讓受ノ節券面訂正下渡方 十八年十二月三日 工部省告示第三拾八號

從來鑛山試掘借區人相續又ハ讓渡讓受由願之節更ニ証券下渡候處自今券面訂正裏書下渡スヘノ右告示候事

○鐵場增借區出願方及證券下附方

十八年五月十五日 工部省告示第拾八號
從前鐵場ノ增借區ヲ許可スルトキハ新ニ證券ヲ下付シ來リ候處自今原證券ニ其坪數ヲ加算シ下付スヘク候條增借區ヲ願
出ル者ハ願書ニ原證券并ニ原借區增借區ヲ區別シタル一紙ノ測量圖ヲ添ヘ差出スヘシ從前增借區ノ許可ヲ得タル者ハ此
際更ニ右手續ヲ爲スヘシ
但增借區稅初年ハ證券裏書ノ月ヨリ起算上納スヘシ又增借區ハ原借區ノ期限ニ終ルモノト心得ヘシ
右告示候事

○鐵山借區稅忘納者證券引上方

十九年二月二十四日 農商務省達第三號府廳
鐵山借區稅忘納者及滿一箇年以上無故休業ノ者坑業禁止ノ條並ニ試掘期限經過ノモノ證券引揚ノ儀ハ已來伺出ニ不及其
期限ノ處分シ證券引揚ケ返納ノ節其申由具申スヘシ

○鐵山借區稅忘納又ハ休業及ヒ試掘經過シ證券引揚ケノ者

十九年三月三十一日 農商務省令第四號
鐵山借區稅忘納又ハ一箇年以上休業及ヒ試掘期限經過ノクメ證券引揚處分ヲ受ケタルモノニハ同一村內ニ於テ滿三年間
新ニ試掘又ハ借區ヲ許可セス(二十二年九月農商務省令第
八號ヲ以テ本條中ヲ追加ス)

○鐵山借區稅徵收後廢坑又ハ減坪ニ屬スル既納稅

十九年四月七日 農商務省令第五號
鐵山借區稅徵收後廢坑又ハ減坪ニ屬スル既納稅ハ下戻サハルモノトス

○鐵山借區圖面調製坪數更正ノ爲メ税金ニ増減ヲ生シタル片徵收並改正方

十九年四月八日 農商務省令第六號
鐵山借區圖面調製坪數更正ノ爲メ税金ニ増減ヲ生シタル片徵收並改正方
明治十七年四月工部省第三號達ニ據リ鐵山借區圖面調製坪數更正ノ爲メ其税金ニ増減ヲ生シタルトキ納期以前更正濟ノ
分ハ更正坪數ニ據テ徵收シ其已後ニ係ル分ハ翌年納稅ノ節ヨリ改正スルモノトス

○農商務省所管免許料手數料鐵山借區稅徵收及納付方

十九年十月五日 農商務省訓令第十六號 北海道廳府廳
第二部鐵山ノ內當省所管免許料手數料鐵山借區稅徵收方ハ鐵山借區稅徵收方ハ鐵山借區稅徵收第十六條以下ニ準據シ其應ヨリ納額告知書ヲ發
シ納入ヲシテ直ニ現金ヲ金庫ニ納付セシムヘシ

○免許料手數料鐵山借區稅取扱順序ヲ定ム

十九年五月二十日(五月廿一日公布) 農商務省訓令第五號 北海道廳府廳
當省所管免許料手數料鐵山借區稅取扱順序左ノ通相定メ明治十九年度ヨリ施行ス
但從前諸通ノ內此順序ニ抵觸スルモノハ廢止ス
免許料手數料鐵山借區稅取扱順序

第一條 免許料手數料鐵山借區稅ハ北海道廳府廳ニ於テ之ヲ徵收スルモノトス但取扱順序ハ明治十九年三月大藏省令第
四號鐵山借區稅取扱順序ニ據ル

第二條 各年度ノ豫算ハ左ノ書式ニ據リ明細書ヲ調製シ前年度五月五日迄ニ其地ヲ發シ當省ヘ差出スヘシ

第三條 前條豫算ノ認可ヲ得タルトキハ鐵山借區稅取扱順序第十七號ニ書式ニ據リ月額豫算表ヲ調製シ七日以内ニ之ヲ當省ヘ
差出スヘシ

第四條 收入金年度編入方ハ明治十七年十二月大藏省第九十號達ニ據ル

第五條 報告書ハ左ノ期日迄ニ其地ヲ發シ當省ヘ差出スヘシ

鐵山借區稅取扱順序

會計年度內徵收未済報告書 翌年度四月五日

出納閉鎖前不納報告書 翌年度十二月十日

(書式略ス)

○寒水石等ノ坑物日本坑法第三款所屬トシテ取扱ニ付從前許可ヲ得タル試掘借區券ヲ返納

セシム 二十一年九月七日 農商務省訓令北海道廳府廳
自今左記ノ坑物日本坑法第三款所屬トシテ取扱候條從前許可ヲ得タル試掘借區券此際返納セシムヘシ
寒水石(大理石) 斑石(温石) 燈石 硝子石 燧石
第十五類 第四章 礦業

○日本坑法第三款所屬試掘借區券返納方 二十二年一月二十四日 農商務省訓令第四號北海道府縣
自今左記ノ鑛物日本坑法第三款所屬トシテ取扱候際從前下付シタル試掘借區券此際返納セシムヘシ

陶土 耐火粘土 石灰石 瑪瑙 石棉 金剛砂 雲母 石膏 燐泉

○鑛山試掘借區通洞及採取ニ關スル諸願書差出方 二十二年二月二十三日 農商務省訓令第十號府縣

鑛山試掘借區通洞及採取ニ關スル諸願書自今別本差出スニ及ハス

○鑛山試掘借區券下渡ヲ止ム 二十二年一月九日 農商務省告示第二號

鑛山試掘借區券下渡シテ來リ候處自今之ヲ下付セス

○農商務省主管鑛山借區稅免許料手数料歲入概算書差出方 二十二年三月二十九日 農商務省訓令第十七號北海道府縣

當省主管鑛山借區稅免許料手数料歲入概算書ハ本年三月開令第十二號歲入歳出豫算概定順序ニ據リ前々年度三月十日迄ニ當省へ差出スヘシ

但二十三年度ニ限リ前年度四月十五日迄ニ送付スヘシ

○明治二十二年度以降鑛山借區稅徵收及整理方 二十二年四月十三日 農商務省訓令第二十三號

二十二年度以降鑛山借區稅徵收方ハ徵稅令書ヲ以テレ其他ハ總テ從前ノ第二部歲入取扱順序ニ據リ整理スヘシ

○鑛山借區坪數ニ増減ヲ生シタルトキ徵稅方 二十二年十二月二十六日 農商務省令第十二號

鑛山借區更正ノ爲メ坪數ニ増減ヲ生シタルトキハ自今更正許可ノ月ヨリ其坪數ニ據テ稅金ヲ徵收ス

但改正ニ關スル既納稅金ハ明治十九年當省令第五號ニ據ル

○試掘人其許可ヲ得タル試掘權ヲ喪失ノ節取扱方 二十三年六月九日 農商務省訓令第三十號府縣

試掘人其許可ヲ得タル試掘權ヲ喪失(廢業或渡期限經過借區換等)シタルトキハ該二下附シタル指令書ヲ返納セシム

レ)

○坑法改正實施前ニ授受シタル鑛業ニ關スル諸願書取扱方 二十三年七月三十一日 農商務省訓令第四十號府縣

地方廳郡役所村長役場(若クハ戶長役場)ニ於テ法律第五十五號實施前ニ施行シタル鑛業ニ關スル諸願書ハ從前ノ手續ニ依リ當省へ送付スヘシ

○試掘願書ニ添付スル圖面記載方 二十三年八月四日 農商務省告示第六號

試掘願書ニ添付スル圖面ニハ試掘地ノ府縣國郡市町村大字小字及境界坪數等ヲ明記スルモノトス

○試掘地ノ坪數制限 二十三年十月十一日 農商務省令第十三號

試掘地ノ坪數ハ日本坑法第九款第五項ノ制限ニ據ルヘシ

○日本坑法ニ依リ試掘借區ノ取消及土地使用上ニ關スル裁定ヲ請求スル者出願手續 二十三年十一月十五日 農商務省令第十九號

日本坑法第十款第五項ニヨリ試掘若ハ借區ノ取消ヲ請求スル者及第二十二款第二項ニ依リ土地使用上ニ關スル裁定ヲ請求スル者出願手續左ノ通相定ム

第一條 日本坑法第十款第五項ニヨリ試掘人又ハ借區人ノ得タル試掘若ハ借區許可ノ取消ヲ請求セント欲スル者ハ詳ニ其ノ理由ヲ記載シタル請求書ニ關係書類ヲ添へ各正副二通ヲ農務大臣宛ニテ地方長官ニ差出スヘシ

第二條 第二十二款第二項ニヨリ試掘人又ハ借區人坑業上他人ノ土地ヲ使用セントスルトキ其ノ所有者又ハ關係人ト協議ハサル場合ニ於テハ裁定請求書ニ其ノ土地ヲ必要トスル理由書建設スヘキ工事ノ設計書詳細ノ實測圖面其ノ他關係書類ヲ添へ各正副二通ヲ農務大臣宛ニテ地方長官ニ差出スヘシ

第三條 地方長官ニ於テ第一條又ハ第二條ノ請求書ヲ受理シタルトキハ五日以内ニ副書ヲ對手人ニ送附スヘシ

第四條 坑業人土地所有者又ハ關係人第三條ニ依リ請求書ヲ受取リタルトキハ其到達ノ日ヨリ十五日以内ニ農務大臣宛ニテ辨明書若クハ理由書ヲ作リ其請求書ト共ニ地方長官ニ差出スヘシ若シ此期限ヲ過シタルトキハ意見ヲ申立ルコト

第十五類 第四章 礦業 七百六十九

ヲ得ス

第五條 地方長官ニ於テ第四條ノ辨明書若クハ理由書ヲ受理シタルトキハ十五日以内ニ雙方申立ノ事實圖面等ヲ調査シ
書類ヲ添ヘ意見ヲ附シ農商務大臣ニ具申スヘシ

○鑛山試掘借區願書ニ圖面添付ノ件 二十四年三月二十七日
農商務省令第四號

明治二十四年五月一日以後鑛山試掘若クハ借區ノ願書ニハ圖面三葉ヲ添フヘシ

○山林原野及鑛山稟請ヲ要セス處分後報告スヘキ件(第三類第二)
章ニ載ス

○鑛業條例 二十三年九月二十五日
法律第八十七號

朕鑛業條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

法律第八十七號

鑛業條例

第一章 總則

第一條 鑛業トハ鑛物ノ試掘採掘及之ニ附屬スル事業ヲ謂フ

第二條 鑛物ノ未タ採掘セサルモノハ國ノ所有トス

此ノ條例ニ於テ鑛物トハ金鑛(砂金ヲ除ク)銀鑛、銅鑛、鉛鑛、錫鑛(砂錫ヲ除ク)安質母尼鑛、
水銀鑛、亞鉛鑛、鐵鑛(砂鐵ヲ除ク)硫化鐵鑛、滿奄鑛、砒鑛、黑鉛、石炭、石油及硫黃ヲ謂フ

第三條 帝國臣民ニ非サレハ鑛業人トナリ又ハ鑛業ニ關スル組合員又ハ會社ノ株主トナル

コトヲ得ス

鑛業人未成年瘋癲白痴又ハ瘡癩ナルトキハ後見人ヲ立ツヘシ

第四條 農商務省鑛山局及鑛山監督署ノ官吏ハ在職中鑛業人トナリ又ハ鑛業ニ關スル組合
員又ハ會社ノ株主若ハ役員トナルコトヲ得ス

第五條 此ノ條例ニ依リ鑛業特許取消ノ處分ヲ受ケタル鑛業人ハ同鑛區ニ付一箇年間採掘
ノ出願ヲ爲スコトヲ得ス

第六條 二人以上共同シテ鑛業ヲ爲ストキハ總代一名ヲ選定シ豫メ所轄鑛山監督署ニ届出
ツヘシ

總代ハ鑛業上ニ關シ政府ニ對シテ共同鑛業人ヲ代表スルモノトス

第七條 共同鑛業人ノ變更、採掘權ノ賣買讓與書入及廢業届等ニハ總代ノ外少クモ共同鑛
業人過半数ノ連署ヲ要ス

第二章 試掘及採掘

第八條 試掘ヲ爲サント欲スル者ハ其ノ願書ニ試掘地ノ圖面ヲ添ヘ所轄鑛山監督署長ニ差
出シ其ノ認可ヲ受クヘシ

第九條 試掘ハ認可ノ日ヨリ一箇年ヲ限トス

試掘人前項ノ期限内ニ於テ其ノ事業ヲ竣ヘ難キ事實アルトキハ所轄鑛山監督署長ニ延期
ヲ出願スルコトヲ得

所轄鑛山監督署長ハ其ノ事實ヲ調査シ已々得サルモノト認ムルトキハ一箇年以内ノ延期ヲ認可スルコトヲ得

第十條 試掘ニ依リ採取シタル鑛物ハ所轄鑛山監督署長ノ認可ヲ得テ之ヲ販賣スルコトヲ得
第十一條 前條ニ依リ鑛物ヲ販賣シタルトキハ三十日以内ニ其ノ販賣代價百分ノ一ヲ所轄鑛山監督署ニ納ムヘシ

前項ノ金額ヲ其ノ期限内ニ納メサル者ハ國稅滯納處分法ニ依リ處分ス
第十二條 採掘ノ特許ヲ得ント欲スル者ハ採掘願書ニ鑛區圖ヲ添ヘ農商務大臣宛ニテ所轄鑛山監督署ニ差出スヘシ

採掘願書及鑛區圖ヲ同時ニ差出シ難キトキハ願書ノミヲ差出シ置キ鑛區圖ハ願書ノ日附ヨリ五十日以内ニ之ヲ差出スコトヲ得此ノ期限内ニ差出サ、ルトキハ其ノ出願ヲ無効トス
第十三條 採掘ヲ出願スル者ハ出願地ニ其ノ採掘セントスル鑛物ノ存在スルコトヲ證明スヘシ

第十四條 鑛山監督署長ハ鑛物ノ存在ヲ認定スル爲ニ吏員ノ實地臨檢ヲ必要ト認ムルトキハ採掘出願人ヲシテ出張吏員ノ爲ニ制規ノ旅費日當ヲ前納セシムヘシ
採掘出願人前項旅費日當納付ノ通知ヲ受ケ通知書到達ノ日ヨリ十四日以内ニ之ヲ納メサルトキハ其ノ出願ヲ無効トス

第十五條 鑛山監督署ニ於テハ試掘及採掘出願登錄簿ヲ備ヘ置キ出願日時ノ先後ニ依リ之

ヲ登録ス

第十六條 試掘又ハ採掘ノ出願同一ノ地ニ付二人以上アルトキハ出願日時ノ先後ニ依リ其ノ許否ヲ定ム

出願ノ日時同一ナルトキハ鑛山監督署長ハ其ノ旨ヲ各出願人ニ通知スヘシ各出願人ハ通知書ノ日附ヨリ六十日以内ニ協議ヲ遂ケ出願人ヲ定ムヘシ若シ協議調ハサルトキハ其ノ出願ヲ無効トス

出願ノ日時同一ニシテ試掘ト採掘トニ係ルトキハ先ツ採掘ノ出願ニ付其許否ヲ定ム

第十七條 農商務大臣採掘ノ特許ヲ與フヘキモノト認メタルトキハ鑛業特許證ヲ下付スヘシ
第十八條 試掘若ハ採掘ノ事業公益ヲ害スト認ムルトキハ試掘ニ就テハ所轄鑛山監督署長採掘ニ就テハ農商務大臣其ノ出願ヲ許可セズ

第十九條 試掘若ハ採掘ノ事業公益ニ害アルトキハ試掘ニ就テハ所轄鑛山監督署長採掘ニ就テハ農商務大臣既ニ與ヘタル認可若ハ特許ヲ取消スコトヲ得

鑛業人前項取消ノ處分ニ不服アルトキハ其ノ違ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但損害ノ賠償ヲ要求スルコトヲ得

第二十條 特許ヲ得タル鑛物ノ採掘權ハ賣買讓與又ハ書入ヲ爲スコトヲ得

採掘權ヲ賣買讓與スルトキハ雙方連署シ所轄鑛山監督署ヲ經農商務大臣ニ出願シ鑛業特許證ノ書換ヲ受クヘシ此ノ手續ニ依ラサル賣買讓與ハ法律上其ノ効ナキモノトス

採掘權ノ書入ハ雙方連署シ所轄鑛山監督署ノ登錄ヲ受ケヘシ其ノ登錄ヲ受ケサルモノハ法律上其ノ効ナキモノトス

第二十一條 他人試掘ノ年限中ハ其ノ試掘地内ニ於テ同一ノ鑛物ニ付採掘ノ出願ヲ爲スコトヲ得ス

第二十二條 他人ノ認可ヲ得タル試掘地内ニ於テ其ノ試掘人ノ未タ認可ヲ得サル鑛物ノ試掘又ハ採掘ヲ出願セント欲スル者ハ試掘人ノ承諾ヲ經ヘシ

試掘人自ラ試掘又ハ採掘ヲ出願セント欲スルカ若ハ其ノ認可ヲ得タル鑛物ノ試掘ニ妨害アルトキノ外ハ試掘人ハ前項ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十三條 他人所屬ノ鑛區内ニ於テ其ノ鑛業人ノ未タ試掘ノ認可又ハ採掘ノ特許ヲ得サル鑛物ニ付試掘若ハ採掘ヲ出願セント欲スル者ハ鑛業人ノ承諾ヲ經ヘシ

鑛業人自ラ試掘又ハ採掘ヲ出願セント欲スルカ若ハ其ノ試掘又ハ採掘ノ爲ニ鑛業ニ妨害アルトキノ外ハ鑛業人ハ前項ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十四條 宮城、離宮、神宮、皇陵、陸海軍所轄城堡、軍港、要港、火藥製造所、火藥庫及彈藥庫ノ周圍三百間以内ノ場所ハ試掘又ハ採掘若ハ鑛業上使用スルコトヲ得ス但軍港、要港ハ其ノ鎮守府司令長官ノ許可ヲ得タル場合ニ於テハ此ノ限ニアラス

第二十五條 鐵道、馬車鐵道、公道、河湖、堤防、沼池、社寺、墓地、公園地及建物ヨリ地表地下トモ其周圍三十間以内ノ場所ニ於テハ所轄官廳若ハ所有者ノ承諾ヲ經ルニアラサレハ試掘又

ハ採掘ヲ爲スコトヲ得ス但危險ノ虞ナキモノハ其ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十六條 鑛業人ハ毎年ノ鑛業施業案ヲ調製シ其ノ前年十月三十日限其ノ初年ニ係ルモノハ採掘特許ノ日ヨリ三箇月以内ニ所轄鑛山監督署長ニ差出シ認可ヲ受ケヘシ

前項ノ施業案ニシテ坑内ノ保安ニ害アリ又ハ其ノ鑛區ニ相當スル鑛業ヲ爲サ、ルモノト認メタルトキハ所轄鑛山監督署長ハ其ノ理由ヲ鑛業人ニ示シ期限ヲ定メ之ヲ改正セシムヘシ

第二十七條 鑛業人ハ所轄鑛山監督署長ノ認可ヲ受ケタル鑛業施業案ニ依ルニアラサレハ採掘ヲ爲スコトヲ得ス

第二十八條 鑛業人鑛業施業案又ハ其ノ改正案ヲ期限内ニ差出サ、ルトキハ農商務大臣ハ其ノ採掘ノ特許ヲ取消スコトヲ得

第二十九條 鑛業人一箇年以上休業シ又ハ採掘ノ特許ヲ得タル日ヨリ一箇年以内ニ鑛業ニ著手セサルトキハ農商務大臣ハ其ノ特許ヲ取消スコトヲ得

第三十條 前二條ノ場合ニシテ其ノ自己ノ過失ニ由ラサルモノハ特許取消ノ違ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ其ノ理由ヲ農商務大臣ニ申立テ再願ヲ爲スコトヲ得若シ農商務大臣ニ於テ之ヲ拒ムトキハ其ノ違ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三十一條 鑛業人ハ坑内實測圖ニ葉ヲ調製シ一葉ハ所轄鑛山監督署ニ差出シ一葉ハ鑛業

事務所ニ備ヘ置クヘシ

前項坑内實測圖ハ事業ノ進歩ニ從ヒ六箇月毎ニ追補スヘシ

鑛業人若シ他人ノ所屬ニ係ル隣接鑛區ノ坑内實測圖ニ付證明ヲ必要ト認ムルトキハ之ヲ所轄鑛山監督署長ニ請求スルコトヲ得

所轄鑛山監督署長ニ於テ右證明ノ爲ニ吏員ノ實地臨檢ヲ必要ト認ムルトキハ鑛業人ヲシテ出張吏員ノ爲ニ制規ノ旅費日當ヲ前納セシムヘシ

第三十二條 鑛業人鑛業特許證ヲ毀損若ハ亡失シタルトキハ事由ヲ具シ所轄鑛山監督署ヲ經其ノ再下付ヲ農商務大臣ニ出願スヘシ

第三十三條 詐偽又ハ錯誤ニ由リ試掘ノ認可ヲ得タルコトヲ發見シタルトキハ所轄鑛山監督署長ハ其ノ認可ヲ取消スヘシ若シ其ノ認可ニ付利害ノ關係ヲ有スル者ニ於テ之ヲ發見シタルトキハ其ノ關係ヲ有スル者ハ認可ノ日ヨリ三箇月以内ニ試掘認可ノ取消ヲ所轄鑛山監督署長ニ訴願スルコトヲ得

前項所轄鑛山監督署長ノ判定ニ不服アル者ハ其ノ判定ノ日ヨリ三十日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三十四條 詐偽又ハ錯誤ニ由リ採掘ノ特許ヲ得タルコトヲ發見シタルトキハ農商務大臣ハ其ノ特許ヲ取消スヘシ若シ其ノ特許ニ付利害ノ關係ヲ有スル者ニ於テ之ヲ發見シタルトキハ其ノ關係ヲ有スル者ハ特許ノ日ヨリ三十日以内ニ採掘特許ノ取消ヲ農商務大臣ニ

訴願スルコトヲ得

前項農商務大臣ノ裁定ニ不服アルモノハ其ノ裁定ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三十五條 第二十二條第二項及第二十三條第二項ノ場合ニ於テ理由ナクシテ承諾ヲ拒ミタルトキハ關係人又第二十五條但書ノ場合ニ於テ危險ノ虞ナクシテ承諾ヲ拒ミタルトキハ鑛業人ハ所轄鑛山監督署長ノ判定ヲ請求スルコトヲ得

第三十六條 前條ノ判定ニ不服アル者ハ其ノ判定ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ農商務大臣ノ裁定ヲ請求スルコトヲ得

第三十七條 鑛業人廢業シタルトキハ其ノ旨ヲ所轄鑛山監督署ニ届出テ鑛業特許證ヲ返納スヘシ

第三十八條 第十九條第二十八條第二十九條第三十四條第四十二條及第七十六條ニ依リ農商務大臣ニ於テ採掘ノ特許ヲ取消シ又ハ第三十七條ニ依リ廢業ノ届出ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ特許ヲ得タル鑛物ノ採掘權ニ對シ抵當權ヲ有スル債主ハ其ノ抵當權ヲ失フモノトス但第十九條及第三十四條ノ場合ヲ除クノ外債主ニ於テ六十日以内ニ其ノ鑛區ノ採掘ヲ願出ルトキハ出願ノ先後ニ拘ハラズ特許ヲ與フヘシ

第三十九條 鑛業人ハ毎年一月前年ニ採取シタル鑛物ノ量數、製產物、其ノ販賣高、販賣代價、行業日數及工數ヲ所轄鑛山監督署ニ届出ツヘシ

第四十條 鑛業人ハ農商務大臣定ムル所ノ書式ニ依リ帳簿ヲ調製シ製産物ノ量數及販賣代價等ヲ記載スヘシ

第三章 鑛區

第四十一條 鑛區トハ鑛物ノ採掘ヲ爲ス土地ノ區域ヲ謂フ

鑛區ノ境界ハ直線ヲ以テ之ヲ定メ地表境界線ノ直下ヲ限トス其ノ一鑛區ノ面積ハ石炭ハ一萬坪以上其ノ他ノ鑛物ハ三千坪以上トシ共ニ六十萬坪ヲ超ユルコトヲ得ス

第四十二條 出願ニ係ル鑛區ノ位置形狀、鑛床ノ位置形狀ト相違シ鑛利ヲ損スヘキモノト認メタルトキハ所轄鑛山監督署長ハ之ヲ出願人ニ通知シ訂正セシムヘシ

出願人前項ノ通知ヲ受ケ其ノ通知書到達ノ日ヨリ三十日以内ニ訂正シテ差出サ、ルトキハ其ノ出願ヲ無効トス

第四十三條 特許ヲ得タル鑛區ノ位置形狀、鑛床ノ位置形狀ト相違シ鑛利ヲ損スヘキモノト認メタルトキハ所轄鑛山監督署長ハ農商務大臣ノ認可ヲ經六十日以内ノ期限ヲ定メ訂正セシムヘシ若シ訂正セサルトキハ農商務大臣ハ既ニ與ヘタル特許ヲ取消スコトヲ得

鑛業人ハ前項特許取消ノ處分ニ不服アルトキハ其ノ達ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第四十四條 鑛業人鑛床ノ形狀ニ由リ鑛區ノ境界若ハ位置ノ訂正ヲ要スルトキハ其ノ願書ニ理由書、訂正鑛區圖及鑛業特許證ヲ添ヘ農商務大臣宛ニテ所轄鑛山監督署ニ差出スヘシ

農商務大臣ニ於テ訂正ヲ必要ト認メタルトキハ更ニ鑛業特許證ヲ下付スヘシ

第四十五條 鑛業人鑛區ノ訂正ヲ出願シタル場合ニ於テ所轄鑛山監督署長吏員ノ實地臨檢ヲ必要ト認ムルトキハ鑛業人ヲシテ出張吏員ノ爲ニ制規ノ旅費日當ヲ前納セシムヘシ
鑛業人前項旅費日當納付ノ通知ヲ受ケ其ノ通知書到達ノ日ヨリ十四日以内ニ之ヲ納メサルトキハ其ノ出願ヲ無効トス

第四十六條 鑛區ヲ合併シ又ハ分割セント欲スル者ハ合併又ハ分割鑛區圖及鑛業特許證ヲ添ヘ所轄鑛山監督署ヲ經テ農商務大臣ニ出願スヘシ其ノ採掘權ヲ抵當ニ取リタル債主アルトキハ其ノ承諾書ヲ添フヘシ

鑛區ノ分割ハ第四十一條ノ制限ヲ超ユルコトヲ得ス

第四章 土地使用

第四十七條 試掘又ハ採掘ヲ出願スル爲他人ノ土地ヲ測量スルコトヲ必要トスルトキハ所轄鑛山監督署ノ認可ヲ受クヘシ此ノ場合ニ於テハ其ノ土地ノ所有者又ハ關係人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス若シ測量ノ爲ニ損害ヲ生シタルトキハ其ノ測量ヲ請求シタル者ニ於テ之ヲ賠償スヘシ

測量請求者他人ノ所有地ニ入ルトキハ豫メ其ノ土地所有者ニ通知シ且測量認可證ヲ携帯スヘシ

第四十八條 左ノ場合ニ於テ鑛業上他人ノ土地ヲ使用スルコトヲ必要トシ鑛業人其ノ貸渡

ヲ請求シタルトキハ其ノ土地ノ所有者又ハ關係人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

- 一 坑口ヲ開穿スル爲
- 一 鑛物及土石ノ堆積場ヲ設置スル爲
- 一 坑道、道路、鐵道、馬車鐵道、運河、溝渠及溜池ヲ開設スル爲
- 一 鑛業上必要ノ製鍊場及建物ヲ建設スル爲

第四十九條 左ノ場合ニ於テハ土地所有者又ハ關係人ハ土地貸渡ノ請求ヲ拒ムコトヲ得

- 一 貸渡請求ノ土地第二十五條ニ記載シタル場所ニ係ルトキ
- 一 土地借受人ニ於テ第五十條ノ保證金ヲ差出サ、ルトキ

第五十條 土地借受人ハ貸渡ヲ受ケタル土地ニ對シ其ノ土地貸渡人ニ相當ノ借地料ヲ任拂フヘシ

土地貸渡人ハ借地料ノ保證金トシテ土地借受人ニ豫メ土地臺帳ニ記載シタル地價以內ノ金額ヲ差出サシムルコトヲ得

其ノ質入トナリタル土地ニ對スル借地料及保證金ハ質取主ニ於テ之ヲ受領スルモノトス
土地使用ニ依リ所有者又ハ關係人ニ損害ヲ與フルトキハ鑛業人ハ之ニ對シ相當ノ賠償ヲ爲スヘシ

土地借受人土地ノ使用ヲ終リ其ノ使用中ノ借地料ヲ完納シタルトキハ土地貸渡人又ハ質取主ハ土地ト引換ニ保證金ヲ返還スヘシ

第五十一條 土地借受人貸渡ヲ受ケタル土地ノ使用ヲ終リタルトキハ土地貸渡人ノ要求ニ應ジ其ノ土地ヲ原形ニ復シ返還スヘシ若シ原形ニ復シ難キトキハ土地借受人ニ於テ其ノ損害ヲ賠償スヘシ

第五十二條 土地借受人借地料ノ任拂ヲ延滞シタルトキハ土地貸渡人ハ其ノ延滞借地料ニ相當スル金額ヲ保證金中ヨリ差引キ土地ヲ取戻スコトヲ得

前項土地ヲ取戻スニ當リ地上ニ建物等アルトキハ六十日以上ノ期限ヲ定メテ土地借受人ニ其ノ取除ヲ請求スヘシ若シ土地借受人ノ所在不分明ナルトキハ其ノ地方ノ新聞紙ヲ以テ其ノ旨ヲ公告スヘシ

土地借受人右期限内ニ取除ヲナサハルトキハ其ノ建物等ハ土地貸渡人ノ所有ニ歸スヘシ
第五十三條 鑛業人ノ請求ニ依リ土地ヲ分割シテ賣渡シ又ハ貸渡シタルカ爲殘地ノ利用ヲ害スルトキハ鑛業人ニ對シ其ノ土地全部ノ買取若ハ借受ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ鑛業人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第五十四條 鑛業人ニ於テ貸渡ヲ受ケタル土地ヲ三箇年以上使用スル目的アルカ又ハ三箇年以上之ヲ使用スルトキハ土地貸渡人ハ鑛業人ニ其ノ土地ノ買取ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ鑛業人ハ其ノ買取ヲ拒ムコトヲ得ス

第五十五條 土地ノ所有者及關係人ト測量請求人又ハ鑛業人トノ間ニ於テ土地貸渡、借地料、保證金、損害賠償金又ハ土地賣買代價ニ付協議調ハサルトキハ所轄鑛山監督署長ニ其

ノ判定ヲ請求スルコトヲ得

所轄鑛山監督署長ノ判定ニ不服アルトキハ其ノ判定ノ違ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ土地貸渡ニ就テハ農商務大臣ニ其ノ裁定ヲ請求シ借地料、保証金、損害賠償金若ハ土地買買代金ニ就テハ裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項農商務大臣ノ裁定ニ對シテハ他ニ出訴スルコトヲ得ス

第五十六條 所轄鑛山監督署長ノ判定又ハ農商務大臣ノ裁定請求ノ爲ニ要スル費用ハ民事訴訟入費ノ例ニ依リ負擔スヘキモノトス

第五十七條 鑛業人ハ土地所有者又ハ關係人ニ於テ所轄鑛山監督署長ノ判定シタル借地料、保証金、損害賠償金又ハ買買代金ニ不服アルモ其ノ金額ヲ土地所有者又ハ關係人ニ渡シ若シ之ヲ受ケサルトキハ其ノ金額ヲ供託所ニ預ケ置キ土地ヲ使用スルコトヲ得

第五章 鑛業警察

第五十八條 鑛業ニ關スル警察事務ニシテ左ニ掲クルモノハ農商務大臣之ヲ監督シ鑛山監督署長之ヲ行フ

- 一 坑内及鑛業ニ關スル建築物ノ保安
- 一 鑛夫ノ生命及衛生上ノ保護
- 一 地表ノ安全及公益ノ保護

第五十九條 鑛業上ニ危險ノ虞アリ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ所轄鑛山監督署長ハ鑛

業人ニ其ノ豫防ヲ命シ又ハ鑛業ヲ停止スヘシ

所轄鑛山監督署長ニ於テ鑛業ヲ停止セントスルトキハ其ノ猶豫シ難キ場合ヲ除クノ外ハ農商務大臣ノ認可ヲ經ヘシ

第六十條 前條第一項ノ場合ニ於テ鑛業人直ニ其ノ豫防ニ著手セサルトキハ所轄鑛山監督署長ハ鑛業人ノ使用スル役員及鑛夫ヲ指揮シ其ノ豫防ヲ執行スヘシ

此ノ場合ニ於テ鑛業人ハ其ノ使用スル役員及鑛夫ヲ豫防ノ用ニ供シ且一切ノ費用ヲ負擔スルノ義務アルモノトス

第六十一條 第五十九條ニ依リ鑛業ヲ停止シタル後其ノ事故止ミタルトキハ所轄鑛山監督署長ハ直ニ鑛業ノ停止ヲ解キ其ノ旨ヲ農商務大臣ニ具申スヘシ

第六十二條 農商務大臣ニ於テ此ノ條例ニ依リ採掘ノ特許ヲ取消シタルトキ又ハ鑛業人廢業シタルトキハ所轄鑛山監督署長ハ六十日以上ノ期限ヲ定メ鑛業ノ爲建設シタル家屋及其ノ他ノ建物等ヲ除去セシムヘシ若シ右期限内ニ除去セサルトキハ其ノ建物等ハ土地所有者ノ所有ニ歸ス但所轄鑛山監督署長ニ於テ坑内保安ノ爲ニ必要ト認ムル坑内及坑口ノ構造物ハ之ヲ除去スルコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テ鑛業人ノ所在不分明ナルトキハ第五十二條第二項ノ手續ニ依ルヘシ

第六十三條 農商務大臣ハ此ノ條例ノ範圍内ニ於テ省令ヲ以テ鑛業警察規則ヲ定ムルコトヲ得

第六章 鑛夫

第六十四條 鑛夫トハ鑛物ノ採掘及之ニ附屬スル業務ニ従事スル男女ノ職工ヲ謂フ

鑛業人ハ其ノ使役スル鑛夫ノ使役規則ヲ定メ所轄鑛山監督署ノ認可ヲ受クヘシ

第六十五條 鑛業人ト鑛夫トノ間ニ特別ノ約定ナキ場合ニ於テ雙方トモ十四日以前ニ通知

スルトキハ雇役ノ解約ヲナスコトヲ得

第六十六條 左ノ場合ニ於テハ鑛業人ハ何時タリトモ鑛夫ヲ解雇スルコトヲ得

一 輕罪以上ノ刑ニ處セラレタルカ又ハ不行狀ノ所爲アルカ若ハ命令ヲ遵守セサルトキ

一 鑛業人又ハ其ノ使用スル役員ニ對シ粗暴ノ所爲アリタルトキ

一 身體虛弱ニシテ業務ニ堪ヘサルトキ

一 鑛業ヲ禁止セラレ又ハ廢業シタルトキ

第六十七條 左ノ場合ニ於テハ鑛夫ハ何時タリトモ其ノ雇役ヲ罷ムルコトヲ得

一 身體虛弱ニシテ業務ニ堪ヘサルトキ

一 鑛業人又ハ其ノ使用スル役員ニ於テ虐待シタルトキ

一 約定ノ賃錢又ハ報酬ヲ給與セサルトキ

第六十八條 鑛業人又ハ其ノ代理人ハ解雇スル鑛夫ノ請求ニ依リ從來ノ業務年限、本人ノ

技能、賃錢及解雇ノ事由ヲ記載シタル證明書ヲ與フヘシ

鑛業人證明書ヲ與フルコトヲ拒ムカ又ハ鑛夫ニ於テ證明書中不當ト認ムル事項アルトキ

ハ所轄鑛山監督署員若ハ警察官ニ申告スルコトヲ得

第六十九條 鑛業人ハ鑛夫ノ賃錢ヲ通貨ニテ仕拂フヘシ鑛夫ノ請求アルニアラサレハ物品

ヲ以テ仕拂フ爲スコトヲ得ス

第七十條 鑛業人ハ鑛夫名簿ヲ備ヘ置キ氏名、年齢、本籍、職業、雇入及解雇ノ年月日ヲ記入

スヘシ

第七十一條 農商務大臣ハ左ニ記載スル制限内ニ於テ省令ヲ以テ鑛夫工役規則ヲ定ムルコ

トヲ得

一 一日十二時間以上ノ就業時間ヲ制限スルコト

一 女工ノ工役ノ種類ヲ制限スルコト

一 十四年以下ノ男女職工ノ就業時間及工役ノ種類ヲ制限スルコト

第七十二條 鑛業人ハ左ノ場合ニ於テ其ノ雇入鑛夫ヲ救恤スヘシ其ノ救恤規則ハ所轄鑛山

監督署ノ認可ヲ受クヘシ

一 鑛夫自己ノ過失ニ非スシテ就業中負傷シタル場合ニ於テ診察費及療養費ヲ補給スルコト

一 前項ノ場合ニ於テ鑛夫ニ療養休業中相當ノ日當ヲ支給スルコト

一 前項ノ負傷ニ由リ鑛夫ノ死亡シタルトキ埋葬料ヲ補給シ及遺族ニ手當ヲ支給スルコト

一 前項ノ負傷ニ由リ痲疾トナリタル鑛夫ニ期限ヲ定メ補助金ヲ支給スルコト

第七章 鑛業税及鑛區税

第十五類 第四章 礦業

第七十三條 鑛業人ハ鑛業稅トシテ鑛業製產物ノ價格百分ノ一鑛區稅トシテ鑛區一千坪毎
ニ一箇年金三十錢ヲ納ムヘシ但一千坪未滿ノ端數ニ對スル鑛區稅ハ之ヲ免除ス

鑛鑛ヲ採掘スル者ニハ鑛業稅ヲ課セス

第七十四條 前條鑛業製產物ノ價格ハ主要ナル市場ノ平均相場ヲ標準トシ農商務大臣ノ告
示スル所ニ依ル但市場ノ相場ナキモノハ其ノ販賣代價ニ依ル

第七十五條 鑛業稅ハ前年分ヲ毎年三月三十一日限ニ又廢業ノ年ニ係ルモノハ廢業ノ日ヨ
リ六十日以内ニ之ヲ納ムヘシ

鑛區稅ハ一箇年分ヲ其ノ前年十二月十五日限ニ又初年ニ係ルモノハ月割ヲ以テ採掘出願
特許ノ日ヨリ六十日以内ニ之ヲ納ムヘシ其ノ廢業ノ年ニ係ルモノハ之ヲ返付セス

第七十六條 鑛業人納稅期限内ニ鑛業稅及鑛區稅ヲ納メサルトキハ農商務大臣ハ採掘ノ特
許ヲ取消スコトヲ得其ノ取消ニ不服アルトキハ其ノ達ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ行
政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第八章 罰則

第七十七條 第二十四條第二十五條ヲ犯シタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス
第七十八條 特許ヲ得スシテ採掘ヲ爲シタル者又ハ詐偽ニ由リテ特許ヲ得タル者ハ十五圓
以上百五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十九條 認可ヲ得スシテ試掘ヲ爲シタル者又ハ詐偽ニ由リテ認可ヲ得タル者又ハ認可

ノ期限ヲ過キ尙ホ試掘ヲ爲シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十條 第二十七條ヲ犯シタル者及第五十九條ノ豫防ニ著手セサル者又ハ第六十二條
但書ノ規定ヲ犯シタル者ハ十五圓以上百五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條第一項及第二項ヲ犯シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十一條 第十條ヲ犯シタル者ハ其ノ賣得金ノ半額ニ相當スル罰金ニ處ス

第八十二條 第十一條ノ販賣代價ヲ隱匿シタル者ハ其ノ隱匿シタル金額ノ半額ニ相當スル
罰金ニ處ス

第八十三條 第三十九條ニ依リ届出ツヘキ事項ヲ詐テ通稅シタル者ハ其ノ通稅金額ノ三倍
ニ相當スル罰金ニ處シ其ノ通稅ニ關セサル事項ニ係ルモノハ二十圓以上二十圓以下ノ罰金
ニ處ス

第八十四條 第四十條ノ帳簿ヲ調製セス若ハ記載ヲ怠リ若ハ詐テ記載シタル者ハ二圓以上
二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十五條 第六十四條第二項第六十九條及第七十二條ヲ犯シタル者ハ十圓以上百圓以下
ノ罰金ニ處ス

第八十六條 第六條第三十七條第六十八條及第七十條ニ違背シタル者ハ一圓以上一圓九十
五錢以下ノ科料ニ處ス

第八十七條 第八十一條第八十二條及第八十三條ノ場合ニ於テ自首シタル者ハ其ノ納付ス

へキ金額ヲ追徴シ其ノ罪ヲ問ハス

第八十八條 此ノ條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ減輕再犯加重及數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

鑛業人未成年瘋癲白痴又ハ瘡癩ニシテ此ノ罰則ヲ犯シタルトキハ其ノ後見人ヲ處罰ス

第九章 附則

第八十九條 此ノ條例實施以前ニ許可ヲ得タル試掘人又ハ借區人ハ其ノ許可ヲ得タル年限中試掘又ハ鑛業ヲ爲スコトヲ得

第九十條 此ノ條例實施以前ニ借區人ノ許可ヲ得借區年限滿期後尙ホ引續キ鑛業ヲ爲サントスル者ハ借區滿期以前ニ此ノ條例ニ依リ出願スヘシ

第九十一條 此ノ條例ノ施行ニ關スル細則ハ農商務大臣之ヲ定ム

第九十二條 此ノ條例ハ明治二十五年六月一日ヨリ施行ス明治六年太政官第二百五十九號布告日本坑法ハ同日限之ヲ廢止ス

●沿革要領

明治二年二月布告ヲ以テ鑛山開採出願ヲ許ス○四年七月布告ヲ以テ年分鑛物掘出高ヲ届出レム○五年三月第百號布告ヲ以テ鑛山心得書ヲ頒布ス○六年七月第百二十九號布告ヲ以テ日本坑法ヲ定ム○七年十一月第百二十四號布告ヲ以テ將來開採ノ坑物ヲ引當トシテ外國人ヨリ金銀ヲ借受ケ又ハ外國人ニ賣渡スヲ禁ス○八年一月第百二號布告ヲ以テ日本坑法第八章ニ掲ケ坑物稅當分ノ内廢止ス○九年二月內務省甲第二號布告ヲ以テ官有地土石掘取規則ヲ定ム○同年四月第四十九號布告ヲ以テ身代限區分ヲ受ケル者處分滿マテ坑業ヲ禁ス○十一年二月第三號布告ヲ以テ北海道鑛山稅ハ月割ヲ以テ納メレム○二十一年十一月內務省令第九號ヲ以テ前令ヲ廢ス○二十三年九月法律第八十七號ヲ以テ鑛業條例ヲ制定シ二十五年六月ヨリ施行ス

第十六類

第一章 商業會議所 特許 意匠 商標

○商業會議所條例 二十三年九月十一日 法律第八十一號

朕商業會議所條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

法律第八十一號

商業會議所條例

第一條 此條例ニ商業者ト稱スルハ商法第四條ニ掲ケタル商取引ノ各部類ニ屬スル商人及作業人ヲ謂フ

第二條 商業會議所ヲ設立セントスルトキハ其地ノ商業者中此條例ニ依リ會員タルヲ得ヘキ者ヲ起人ト爲リ地方長官ヲ經由シ農商務大臣ノ認可ヲ請フヘシ但發起人ノ數ハ定款ヲ以テ定ムヘキ會員ノ半數以上ナルコトヲ要ス

地方長官ハ前項ノ申請ヲ受ケタルトキハ郡若クハ市參事會ニ諮問シ其意見ヲ徵シ尙ホ自己ノ意見ヲ添ヘ農商務大臣ニ進達スヘシ

第三條 會議所設立地ノ境界ハ市町村ノ區域ニ依ルヘシ但土地商業ノ情況ニ由リ數市町村ノ區域ヲ互ニ聯合シテ其地ニ一會議所ヲ設立スルコトヲ得

- 第四條 會議所ノ事務權限左ノ如シ
- 一 商業ノ發達ヲ圖リ若クハ其衰退ヲ防クニ必要ノ方案ヲ議定スルコト
 - 二 商業ニ關スル法律規則ノ制定改正廢止及施行方法其他商業上ノ利害ニ關スル意見ヲ官廳ニ開申スルコト
 - 三 商業ノ實況及其統計ヲ官廳ニ報告スルコト
 - 四 商業ニ關スル事項ニ付官廳ノ諮問ニ應答スルコト
 - 五 法律命令若クハ官ノ委任ニ依リ其地ノ公設營業所仲立人組合及商業ニ關スル諸營造物ヲ管理スルコト
 - 六 仲立人ノ資格員數及手数料ヲ審査スルコト
 - 七 關係人ノ請求ニ依リ其地ノ商業ニ關スル紛議ヲ仲裁スルコト
- 第五條 會議所設立地ノ商業者ニシテ所得稅ヲ納ムル者ハ會員ノ選舉權ヲ有ス
- 第六條 會議所設立地ニ於テ所得稅ヲ納ムル商業者ニシテ年齢三十歳以上ノ男子及商事會社ハ會員ノ被選舉權ヲ有ス
- 商事會社ヲ代表スヘキ者ハ法律上其會社ノ代理權ヲ有スル者一員ニ限ル
- 第七條 第五條及第六條ノ規定中會員ノ選舉權及被選舉權ニ關スル財産上ノ資格ニ付テハ農商務大臣ハ地方ノ情況ニ依リ省令ヲ以テ特ニ其所得稅ノ等級ヲ定メ又ハ他ノ國稅ヲ加フルコトヲ得

第八條 左ニ掲グル者ハ會員ノ選舉權及被選舉權ヲ有セス

- 一 瘋癲白癡ノ者
- 二 重禁錮一年以上ノ刑ニ處セラレ又ハ商業及農工ノ業ヲ妨害スル罪、財産ニ對スル罪、風俗ヲ害スル罪及信用ヲ害スル罪ヲ犯シ刑ニ處セラレ滿期後又ハ赦免後二箇年ヲ經サル者
- 三 公權剝奪若クハ停止中ノ者

第九條 會員ノ數ハ十五名以上五十名以下各會議所ノ定款ヲ以テ定ムヘシ

第十條 會員ハ無給トス其任期ハ四箇年トシ毎二年其半數ヲ改選ス初回ノ解任者ハ抽籤ヲ以テ定ムヘシ

第十一條 會員當選者ハ左ニ掲グル者ヲ除クノ外會議所ノ議決ヲ經スシテ其就職ヲ辭シ又ハ任期中辭職スルコトヲ得ス

一 疾病若クハ老衰ニ依リ職務ニ堪ヘサルコトヲ證明スル者

二 營業ノ爲メ常ニ會議所設立地ニ住居スル能ハサルコトヲ證明スル者

第十二條 前條ノ規定ニ依ルニ非スシテ會員ノ職ヲ辭スル者ハ會議所ノ議決ヲ以テ二百圓以下ノ過怠金ヲ課スルコトヲ得

第十三條 會員ノ選舉ハ郡長若クハ市長委員ヲ命シ日時及場所ヲ定メテ施行セシム其費用ハ會議所ノ負擔トス

第十四條 會議所ノ會議ハ第四條第二項第四項及第七項ノ事件ニ係ル會議ハ公開スルコトヲ得ス

前項ノ外農商務大臣ノ命令又ハ會議所ノ議決ヲ以テ公開ヲ禁スルコトヲ得

第十五條 會議所ハ第四條第七項ノ場合ニ於テ其關係人ヨリ相當ノ手数料ヲ徵收スルコトヲ得

第十六條 會議所ハ法人トシテ財産ヲ所有スルモノトス

第十七條 會議所ハ其議決ニ依リ會員定數ノ五分一ヨリ多カラサル特別會員ヲ置キ會議ニ參列セシムルコトヲ得但特別會員ハ其議決ニ加フルコトヲ得ス

特別會員ノ資格ハ學術技藝若クハ商業上ノ經驗アル者ナルヘシ

第十八條 會議所經費ノ豫算ハ地方長官ヲ經由シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

豫算ノ決算ハ地方長官ヲ經由シ農商務大臣ニ報告スヘシ

第十九條 會議所ノ經費ハ會員ノ選舉權ヲ有スル者ヨリ徵收ス其徵收方法ハ會議所ノ議決ヲ以テ地方長官ヲ經由シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

經費ヲ納期ニ納メサル者アルトキハ其地ノ地方稅收入役ニ囑託シテ之ヲ徵收スルコトヲ得
收入役ノ督促ヲ受クルモ經費ヲ納メサル者ハ會員ノ選舉權及被選舉權ヲ四箇年以上八箇年以下停止シ尙ホ二百圓以下ノ過料ニ處ス

第二十條 會議所ノ定款ハ會議所ノ議決ヲ以テ左ノ事項ヲ規定シ地方長官ヲ經由シ農商務

大臣ノ認可ヲ受クヘシ

一 會員選舉規則

二 議事規則

三 庶務規程

四 役員職務權限

五 仲裁規則

六 會計規則

七 公設ノ營造物若クハ其營業所ノ管理規則

第二十一條 農商務大臣ハ會議所其權限ヲ犯シ又ハ商業上有害ノ行為アリト認メタルトキハ會議ヲ停止シ尙ホ其情況ニ依リ役員若クハ會員ノ幾部又ハ全部ノ改選ヲ命スルコトアルヘシ

第二十二條 農商務大臣ハ此條例施行ノ責ニ任シ之カ爲メ必要ナル命令ヲ發スヘシ

○商業會議所條例施行規則 二十三年九月十八日 農商務省令第十二號

商業會議所條例施行規則左ノ通相定ム

商業會議所條例施行規則

第一條 商業會議所設立ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ會員選舉規則及ヒ設立費用ノ豫算ヲ添ヘ附シテ申請クヘシ

一 會議所ノ名稱

二 設立地ノ區域

第十六類 第一章 商業會議所

三 設立地ノ商業者中會員ノ選舉權ヲ有スル者及被選舉權ヲ有スル者ノ概數
四 會員ノ定數

第二條 設立認可ヲ得タルトキハ發起人ニ於テ其省公告シ商業會議所條例第五條及第六條ニ依リ會員選舉人及被選舉人ノ名簿ヲ六十日以内ニ編製シ認可ニ係ル書類ヲ添ヘ其地ノ郡長若クハ市長ニ會員選舉ノ施行ヲ求ムヘシ

但設立地ノ區域收市町村ニ亘ルトキハ會議所ヲ建設スヘキ地ノ郡長若クハ市長ニ請求スヘシ

第三條 會議所設立發起人又ハ會議所ヨリ會員選舉施行ノ請求ヲナシタルトキハ郡長若クハ市長ハ八十五日以内ニ選舉委員五名ヲ命シ少クトモ十五日以上ノ豫告ヲナシ其選舉ヲ施行セシムヘシ

第四條 第一條ノ申請書ニ依リ認可ヲ得タル會員ヲ定數會員選舉規則及第二條ニ依リ編製シタル會員選舉人及被選舉人名簿ハ會議所定款認可ノ日マテ効力ヲ有スルモノトス

第五條 會議所又ハ其ノ設立發起人ニ於テ會員選舉人及被選舉人名簿ヲ編製スルトキ其ノ納稅額及年齡ノ調査ニ付テハ地方長官ノ證明ヲ受クヘシ

第六條 會議所ノ定款ハ會員選舉ノ後六十日以内ニ釐定シテ認可ヲ請クヘシ

第七條 第二條及第六條規定ノ期限內ニ其手續ヲ爲シ能ハサルトキハ事由ヲ詳記シ其期限內ニ延期ヲ請フコトヲ得(十四年三月十一日農商務省令第三號ヲ以テ追加ス)

○商業會議所條例中所得稅等級 二十三年十月三十一日 農商務省令第十七號

東京市ニ於テハ商業會議所條例第五條及第六條中所得稅ノ等級ヲ明治二十年三勅令第五號所得稅法第四條ノ第四等以上トス

○商業會議所會員ノ選舉ヲ終リタルトキ郡長市長執行手續 二十三年十二月二十二日 農商務省令第六十八號 府縣(沖繩縣ヲ)除ク

明治二十三年九月農商務省令第十二號商業會議所條例施行規則第三條ニ依リ會員ノ選舉ヲ終リタルトキハ選舉ヲ施行シタル郡長若クハ市長ヲシテ左ノ手續ヲ執行セシムヘシ

一 會員當選者ニ當選ノ通知書ヲ交付スヘシ但商會社ニハ通知書ヲ交付スルト同時ニ其代表人ノ氏名ノ届出ヲ命スヘシ

二 選舉ニ關スル書類物件ハ會議所ニ引續クヘシ

三 最初ノ選舉ヲ施行シタルトキハ其選舉ヲ終リタル日ヨリ十五日以内ニ時日場所ヲ指定シ會員當選者ヲ召集シ初回ノ會議ヲ開カシムヘシ

○特許條例 二十一年十二月十八日 勅令第八十四號

朕特許條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第八十四號

特許條例

第一條 新規有益ナル工術、機械、製造品及合成物ヲ發明シ又ハ工術、機械、製造品及合成物ノ新規有益ナル改良ヲ發明シタル者ハ此條例ニ依リ特許ヲ受クルコトヲ得

特許トハ發明者ニ他人ヲシテ其承諾ヲ經スシテ前項ノ發明ヲ製作、使用又ハ販賣セシメサル特權ヲ許スコトヲ謂フ

第二條 左ニ掲クル發明ハ特許ヲ受クルコトヲ得サルモノトス

一 飲食嗜好物

二 醫藥並其調合法

第十六類 第一章 特許

三特許出願以前公ニ用ヒラレタルモノ但試験ノ爲メ公ニ知ラレタルコト二年以内ノモノハ此限ニ在ラス

第三條 特許ヲ受ケント欲スル者ハ二發明毎ニ發明ノ明細書及必要ノ圖面ヲ添ヘ農商務大臣ニ出願スヘシ但其願書明細書及圖面ハ特許局ニ差出スヘシ

第四條 特許ヲ出願スル者アルトキハ特許局長ハ特許局審査官ヲシテ其發明ヲ審査セシメ特許ヲ與フヘシト査定シタルモノハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ特許原簿ニ登錄シ特許證下付ノ手續ヲ爲スヘシ

第五條 特許證ハ農商務大臣之ニ署名シ特許局長之ニ副署シ明細書及必要ノ圖面ヲ添ヘ之ヲ下付スルモノトス

第六條 特許ノ年限ハ五年十年及十五年ノ三種ト爲シ原簿登錄ノ日ヨリ起算ス

第七條 公益ノ爲メ普及ヲ要スルモノ又ハ軍事上必要ナルモノ若クハ秘密ヲ要スルモノト認メタル發明ニハ農商務大臣ハ特許ニ制限ヲ附シ若クハ特許ヲ與ヘス又ハ既ニ與ヘタル特許ヲ制限シ若クハ之ヲ取消スコトアルヘシ

前項ノ場合ニ於テ農商務大臣ハ相當ト認ムル報酬ヲ發明者又ハ特許證主ニ與フルモノトス

第八條 他人ノ特許發明ヲ改良シ其改良發明ノ特許ヲ受ケント欲スル者ハ其特許證主ニ協議シ原發明ニ改良發明ヲ合セテ使用スルノ承諾ヲ經第二條ニ依リ出願スヘシ

特許證主其承諾ヲ拒ミタルトキハ其旨ヲ願書ニ記載シテ出願スルコトヲ得此場合ニ於テハ農商務大臣ハ原發明ヲ改良發明ニ合セテ使用スルノ特許ヲ改良發明者ニ與フルコトヲ得

改良發明者前項ノ特許ヲ受ケタルトキハ原特許證主ニ農商務大臣ノ相當ト認ムル報酬ヲ與フル義務アルモノトス

第九條 特許ヲ受ケタル者又ハ之ヲ受ケントスル者死亡シタルトキハ其權利ハ相續者ニ屬スルモノトス

第十條 特許ヲ受ケタル發明ト雖トモ左ニ掲クルモノハ其特許ヲ無効トス

一 新規又ハ有益ナラサリシコトヲ發見セラレタルモノ

二 第二條ニ該ルコトヲ發見セラレタルモノ

三 發明ヲ實施スルニ必要ナル事實ヲ故意ニ明細書ニ記載セサリシコトヲ發見セラレタルモノ

四 發明ヲ實施スルニ必要ナラサル事實ヲ故意ニ明細書ニ記載セシコトヲ發見セラレタルモノ

第十一條 特許局審査官特許出願ノ發明ヲ審査シ特許ヲ與フヘカラスト査定シタルトキハ特許局長ハ其査定書ヲ出願人ニ送付スヘシ

第十二條 前條ノ査定ニ服セサル者ハ特許局ニ不服理由書ヲ差出シ再審査ヲ請求スルコト

ヲ得

七百九十八

再審査ヲ請求スル者アルトキハ特許局長ハ特許局審査官ヲシテ更ニ之ヲ審査セシムヘシ
審査官其不服理由ヲ不當ト査定シタルトキハ其査定書ヲ不服者ニ送付スヘシ

第十三條 特許局審査官特許出願ノ發明他人ノ特許出願中ノ發明ト抵觸シ又ハ他人ノ特許
發明ト抵觸スト査定シタルトキハ特許局長ハ其抵觸ノ箇所ヲ關係人ニ告知シ其發明ニ關
スル始末書ヲ差出サシムヘシ

關係人始末書ヲ差出シタルトキハ特許局長ハ之ヲ特許局審査官ニ付シテ發明ノ先後ヲ審
査セシ其査定書ヲ關係人ニ送付スヘシ

第十四條 前條ノ場合ニ於テ既ニ與ヘタル特許證ヲ取消シ出願ノ發明ニ特許ヲ與フルトキ
ハ其特許年限ハ前特許證登錄ノ日ヨリ起算シ其年限ニ超ルコトヲ得ス

第十五條 第十二條ノ再査定及第十三條ノ査定ニ服セサル者ハ特許局ニ審判ヲ請求スルコ
トヲ得

第十六條 特許證主其權利ノ他特許證主ノ權利ト撞著スルコトヲ發見シタルトキハ其權利
ヲ確定スル爲メ特許局ニ審判ヲ請求スルコトヲ得

第十七條 特許ヲ受ケタル發明第十條ニ該ルコトヲ發見シタル者ハ其特許ヲ無効トスル爲
メ特許局ニ審判ヲ請求スルコトヲ得

第十八條 審判ヲ請求スル者アルトキハ特許局ニ於テ局長ハ審判長トナリ二人以上ノ審判

官ト共ニ之ヲ審判スヘシ

第十九條 特許局ノ審判ニ對シテハ不服ヲ申立又ハ裁判所ニ訴フルコトヲ得ス

第二十條 第十三條ノ審査及特許局ノ審判ニ關シ關係人ニ於テ證據ヲ要スルトキハ其請求
ニ依リ特許局長ハ其集取ヲ治安裁判所ニ囑託スルコトヲ得

第二十一條 第十六條第十七條ニ係ル費用ハ民事訴訟入費ノ例ニ依リ負擔スヘキモノトス
第二十二條 特許ハ制限ヲ附シ若クハ附セスシテ賣與讓與シ若クハ共有トナシ又ハ書入ト
ナスコトヲ得此場合ニ於テハ特許局ニ請求シ契約ノ登錄ヲ受クヘシ登錄ヲ受ケサル契約
ハ第三者ニ對シ法律上其効ナキモノトス

第二十三條 特許局ノ官吏ハ在職中特許ヲ出願シ又ハ特許ヲ新ニ有スルコトヲ得ス但相續
ニ由リ特許ヲ新ニ有スルハ此限ニ在ラス

第二十四條 特許ハ左ノ場合ニ於テ其効ヲ失フモノトス
一 特許證主相當ノ事故ナクシテ特許證ノ日附ヨリ三年ヲ經テ其發明ヲ實施公行セサル
トキ

二 特許證主相當ノ事故ナクシテ其發明ノ實施公行ヲ三年間中止シタルトキ

三 特許證主其特許品ヲ外國ヨリ輸入シテ之ヲ販賣シ又ハ自己ノ權利ヲ侵スヘキ物品ヲ
外國ヨリ輸入シテ販賣スル者アルコトヲ知リテ之ヲ默許シタルトキ

第二十五條 特許證主特許證ヲ毀損若クハ亡失シタルトキハ事由ヲ具シ再下付ヲ出願スル

第十六類 第一章 特許

七百九十九

コトヲ得

第二十六條 特許證主其明細書若クハ圖面ノ不完全ナルコトヲ發見シタルトキハ特許ノ効力ヲ全クスル爲メ改訂明細書若クハ圖面ヲ添へ特許證ノ改訂ヲ出願スルコトヲ得但其發明ノ要部ニ變更ヲ生スルモノハ此限ニ在ラス

第二十七條 特許證主其明細書中ニ自己ノ發明ニアラサル事項ヲ誤テ自己ノ發明トシテ記載セシコトヲ發見シタルトキハ其削除ヲ出願スルコトヲ得

第二十八條 第二十六條第二十七條ニ依リ出願スルモノアルトキハ特許局長ハ其願書ヲ特許局審査官ニ付シテ審査セシムヘシ

前項ノ場合ニ於テ特許局審査官ノ査定ニ服セサル者ハ第十二條ニ依リ再審査ヲ請求スルコトヲ得

第二十九條 特許證主ハ其物品ニ農商務大臣ノ定メタル特許標記ヲ爲スヘシ

第三十條 特許ニ關シ出願又ハ請求スル者ハ左ノ手数料ヲ納ムヘシ

- 一 特許ヲ出願スルトキ 一 發明毎ニ金五圓
- 二 特許ノ賣與讓與共有又ハ書入契約ノ登録ヲ請求スルトキ 一 發明毎ニ金三圓
- 三 特許證ノ再下付ヲ出願スルトキ 一 發明毎ニ金五圓
- 四 特許證ノ改訂又ハ明細書中ノ削除ヲ出願スルトキ 一 發明毎ニ金五圓
- 五 審判ヲ請求スルトキ 一 事件毎ニ金七圓

第三十一條 特許證又ハ改訂特許證ヲ受クル者ハ一證書毎ニ左ノ區別ニ從ヒ特許料ヲ納ムヘシ

- 一 五年ノ特許 金拾圓
- 二 十年ノ特許 金拾五圓
- 三 十五年ノ特許 金貳拾圓

第三十二條 特許局ハ時々特許發明ノ明細書及特許公報ヲ印刷シ衆庶ノ縦覽ニ供スヘシ其請求者アルトキハ相當代價ヲ以テ之ヲ拂下クルコトヲ得

第三十三條 特許ニ關スル書類ノ原本又ハ圖面ノ複製ヲ要スル者ハ特許局ニ之ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ相當ノ手数料ヲ納ムヘシ

第三十四條 特許ヲ侵シタル者ハ其特許證主ニ對シ損害賠償ノ責ニ任スヘシ

第三十五條 前條損害賠償ノ責ハ三年ヲ以テ期滿免除ノ期トス

第三十六條 他人ノ特許品ヲ偽造シテ使用若クハ販賣シタル者又ハ情ヲ知り偽造品ヲ使用若クハ受託販賣シタル者又ハ他人ノ特許工術ヲ竊用シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁

個又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

特許證主ノ權利ヲ侵スヘキ物品ナルコトヲ知り之ヲ外國ヨリ輸入シテ使用若クハ販賣シタル者又ハ情ヲ知り其輸入シタル物品ヲ使用若クハ受託販賣シタル者ハ罰前項ニ同シ

第三十七條 前條ノ場合ニ於テハ其犯罪ノ物件ヲ沒收シテ特許證主ニ給付シ其既ニ賣捌キ

第十六類 第一章 特許

八百一

タルモノハ代價ヲ追徴シテ之ヲ給付ス

第三十八條 詐欺ノ所爲ヲ以テ特許證ヲ受ケタル者又ハ特許ヲ受ケサル物品ニ特許標記若クハ之ニ類似シタル標記ヲ爲シテ販賣シタル者又ハ情ヲ知リテ其物品ヲ受託販賣シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十九條 第三十六條ノ犯罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

前項ノ場合ニ於テ告訴人ノ請求ニ依リ裁判官ハ假ニ其告訴ニ係ル物品ノ使用若クハ販賣ヲ差止ムルコトヲ得

第四十條 特許證主其特許品ニ第二十九條ノ特許標記ヲ爲スコトヲ怠リタルトキハ告訴又ハ要償ノ訴ヲ爲スコトヲ得ス

第四十一條 被告人特許ノ無効タルコトヲ以テ答辯セント欲スルトキハ其旨ヲ裁判所ニ申告シ其日ヨリ三十日以内ニ特許局ニ第十七條ノ審判ヲ請求スヘシ此場合ニ於テ裁判所ハ特許局ノ審判終結マテ其裁判ヲ中止スヘシ

第四十二條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第四十三條 此條例施行ノ細則ハ農商務大臣之ヲ定ム

第四十四條 此條例ハ明治二十二年二月一日ヨリ施行ス

第四十五條 明治十八年^四第七號布告專賣特許條例ハ此條例施行ノ日ヨリ廢止ス但專賣特許條例ニ依テ受ケタル專賣特許ハ此條例ニ依テ受ケタル特許ト同一ノ効アルモノトス

專賣特許出願ノ此條例施行ノ日ニ於テ處分ヲ終ラサルモノハ此條例ニ依リ處分ス

○特許條例意匠條例商標條例ノ特許料登錄料手数料ハ登記印紙ヲ以テ納メシム 二十一年十二月十三號

特許條例意匠條例商標條例ノ特許料登錄料及特許條例第三十條意匠條例第十八條商標條例第十七條ノ手数料ハ登記印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ

○特許條例施行細則 二十二年一月四日 農商務省令第一號

特許條例施行細則ヲ定ムルコト別冊ノ如シ (別冊)

特許條例施行細則

第一條 特許條例ニ依リ差出ス願書ハ第一號ヨリ第八號ニ至ル學式ニ從ヒ之ヲ認メ同條例第三十條ノ手数料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用スヘシ

第二條 明細書ニハ明細書文例ニ準シ左ノ諸件ヲ記載スヘシ

- 一 發明ノ名稱
- 二 發明ノ目的及性質ノ要領
- 三 圖面アルトキハ其略解
- 四 發明ノ詳細說明
- 五 改良發明ニ係ルトキハ其原發明トノ區別
- 六 特許請求ノ區域

第三條 圖面ニハ製圖例ニ準シ特許請求ノ區域ヲ明了ナラシムルニ必要ナル發明ノ部分ヲ示シ改良發明ニ係ルトキハ更ニ原發明ノ改良發明ト結合スヘキ部分ヲ示スヘシ

第十六類 第一章 特許

第四條 特許願書及明細書圖面ヲ同時ニ差出シ難キトキハ願書ノミヲ差出シ置キ明細書圖面ハ願書ノ日附ヨリ三十日以内ニ之ヲ差出スコトヲ得此期限内ニ差出サハルトキハ出願ヲ無効トス

前項期限内ニ明細書圖面ヲ差出ストキハ何年何月何日附何發明ノ願書ニ添フヘキモノナルコトヲ記シタル書面ヲ添フヘシ

第五條 特許條例第八條ニ依リ改良發明ノ特許ヲ願出ルトキハ願書ニ特許証主ノ承諾書若シ承諾ヲ經ル能ハサルトキハ其申由書ヲ添ヘテ差出スヘシ

第六條 特許條例第二十六條ニ依リ特許証ノ改訂ヲ願出ルトキハ其申由ヲ記載シタル願書ニ改訂明細書若クハ圖面ヲ添ヘ現特許証並ニ附屬ノ明細書圖面ト共ニ差出スヘシ

前項ノ出願ヲ許可スルトキハ特許局長ハ此細則第三十八條及第三十九條ノ手續ニ依リ改訂特許証ヲ送付スヘシ

第七條 特許條例第二十七條ニ依リ明細書ノ削除ヲ願出ルトキハ其願書ニ明細書ノ請求區域中削除スヘキ部分ヲ記載シテ差出スヘシ

前項ノ出願ヲ許可スルトキハ特許局長ハ其證明書ヲ出願人ニ送付スヘシ

第八條 願書ニ不完全ノ處アリト認メタルトキハ特許局長ハ其訂正ヲ出願人ニ通知シ通知書ノ日附ヨリ三十日以内ニ之ヲ訂正セシムヘシ此期限内ニ訂正ヲ爲サハルトキハ出願ヲ無効トス

第九條 特許願書及明細書圖面ノ完備シタルトキハ特許局長ハ其願書ニ順號ヲ附シ之ヲ出願人ニ通知スヘシ

出願人前項ノ通知ヲ受ケタル後其出願ニ關シ書面ヲ差出ストキハ之ニ願書ノ順號ヲ記入スヘシ

第十條 特許願書ニ順號ヲ附シタルトキハ特許局長ハ之ヲ主務審査官ニ配付スヘシ(二十三年八月農商務省令)

審査官ハ發明ノ種類ニ從ヒ各審査官ノ擔當ヲ定メ置キ願書ノ順號ニ從ヒ之ニ着手スヘキモノトス(同上)

第十一條 左ノ願書ハ他ノ特許願書ニ先テ處分ニ着手スヘキモノトス

一 特許條例第十二條ノ再審査請求ニ係ル特許願書

二 同條例第二十六條ノ改訂願書及第二十七條ノ削除願書

三 此細則第十二條ノ通知ニ依リ明細書圖面ノ訂正ヲ終ヘタル特許願書

第十二條 審査官ニ於テ明細書圖面等ニ關シ訂正又ハ照會ヲ要スルトキハ特許局長ハ其旨ヲ出願人ニ通知シ通知書ノ日附ヨリ六十日以内ニ訂正願書正圖面又ハ同答書ヲ差出サシムヘシ此期限内ニ差出サハルトキハ出願ヲ無効トス(二十

八月農商務省令第十號)ヲ以テ本條ヲ改正ス

第十三條 審査官ニ於テ發明ノ離形若クハ見本ヲ必要ト認メタルトキハ特許局長ハ其旨ヲ出願人ニ通知シ通知書ノ日附ヨリ九十日以内ニ適當ノ離形又ハ見本ヲ差出サシムヘシ此期限内ニ差出サハルトキハ出願ヲ無効トス

第十四條 出願人其出願中ニ係ル願書明細書圖面又ハ離形見本等ニ過誤アルコトヲ發見シタルトキハ發明ノ要部ニ變更ヲ生セサルモノニ限リ其改訂又ハ改造ヲ請求スルコトヲ得但変更若クハ特許通知書ヲ發シタル後及審判中ニ係ルモノ、訂正又ハ改造ハ特許局長ニ於テ必要ト認メタルモノ、外之ヲ許サス

第十五條 特許條例第十三條ノ抵觸ハ左ノ場合ニ於テ特許請求區域ノ全部若クハ一部擴充スルトキニ限リ生ズルモノトス

一 二箇以上ノ特許出願ノ發明互ニ抵觸スルトキ

二 特許出願ノ發明及特許發明又ハ改訂出願ニ係ル發明互ニ抵觸スルトキ

三 二箇以上ノ改訂出願ニ係ル發明互ニ抵觸スルトキ

四 改訂出願ニ係ル發明及特許發明互ニ抵觸スルトキ

第十六條 抵觸ノ處分ハ審査官ニ於テ其抵觸ニ係ル發明ヲ特許スヘキモノト査定シタル後之ニ着手スヘシ

第十七條 特許條例第十三條ノ始末書ニハ發明ヲ考案及完成シタル年月日並ニ發明ヲ圖面離形又ハ見本等ニ作シタル年月日ヲ記載シテ其證明ヲ附シ必要ノ證據ヲ添フヘキモノトス

第十八條 前條ノ始末書ヲ差出サシムルトキハ特許局長ハ相當ノ期限ヲ定メ之ヲ關係人ニ通知スヘシ

第十六類 第一章 特許

關係人前項ノ期限内ニ始末書ヲ提出シタルトキハ其發明ヲ特許願書ノ日附ヨリ以前ニ完成シタル旨ヲ以テ發明ノ先後ヲ争フコトヲ得ス

第十九條 關係人始末書ヲ提出シタルトキハ特許局長ハ之ヲ對手人ニ送付シ相當ノ期限ヲ定メ答辯書ニ其事實ヲ證明スルニ必要ノ證據ヲ添ヘテ提出サシムヘシ

對手人答辯書ヲ提出シタル後審査官ニ於テ對手人ノ一方又ハ雙方ヲシテ尚ホ答辯ヲ爲サシムルコトヲ必要ト認メタルトキハ特許局長ハ亦前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十條 關係人始末書又ハ答辯書ニ過誤アルコトヲ發見シタルトキハ訂正書ヲ添ヘ其訂正ヲ請求スルコトヲ得但對手人答辯書ヲ提出シタル後ハ特許局長ニ於テ必要ト認メタルモノノ外其請求ヲ許サス

第二十一條 審査官ニ於テ始末書又ハ答辯書ニ不明瞭ノ點アリト認メタルトキハ特許局長ハ其旨ヲ提出人ニ通知シ相當ノ期限ヲ定メ訂正書ヲ提出サシムヘシ

第二十二條 前二條ニ依リ始末書又ハ答辯書ニ訂正ヲ加ヘタルトキハ特許局長ハ其訂正書ヲ對手人ニ送付スヘシ

第二十三條 發明ノ抵觸ヲ解除セントスル者ハ査定前ニ其特許願書又ハ特許證書ノ取消又ハ其發明ノ抵觸部分ノ削除ヲ請求スヘシ

前項ノ請求ヲ爲ス者アルトキハ特許局長ハ其抵觸ヲ解除シ之ヲ關係人ニ通知スヘシ

第二十四條 發明抵觸ノ審査ヲ受ケタル者ハ其審査ヲ受ケタル發明ト同一ノ發明ニ就キ先ニ抵觸シタル特許願書又ハ特許證書クハ改訂願書ニ對シテ再ヒ抵觸ノ審査ヲ受ケルコトヲ得ス

第二十五條 審判ハ書類及口頭ノ二種トシ特許條例第十八條ニ依リ審判長及二人以上ノ審判官合議ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

口頭審判ハ關係人雙方ニ於テ請求シ若クハ審判長ニ於テ必要ト認メタルトキ公開シテ之ヲ爲スヘシ(同上本項中別除)

第二十六條 審判ヲ請求スル者ハ其請求ノ要點理由及證明方法ヲ記載シタル請求書ヲ認メ特許條例第三十條ノ手数料金

額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シテ提出スヘシ

第二十七條 審判請求書ヲ提出シタル者アルトキハ審判長ハ其請求書ヲ對手人ニ送付シ相當ノ期限ヲ定メ答辯書ヲ提出サシムヘシ(同上)

對手人答辯書ヲ提出シタル後尚ホ對手人ノ一方又ハ雙方ヲシテ答辯ヲ爲サシムルコトヲ必要ト認メタルトキハ審判長ハ亦前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十八條 審判請求書又ハ答辯書ヲ提出ストキハ其記載ノ事實ヲ證明スルニ必要ノ證據ヲ添フヘシ

第二十九條 審判請求書又ハ答辯書ヲ提出シタル者其請求書又ハ答辯書ニ過誤アルコトヲ發見シタルトキハ訂正書ヲ添ヘ其訂正ヲ請求スルコトヲ得但對手人答辯書ヲ提出シタル後ハ審判長ニ於テ必要ト認メタルモノノ外其請求ヲ許サス

第三十條 審判請求書又ハ答辯書ニ不明瞭ノ點アリト認メタルトキハ審判長ハ其旨ヲ提出人ニ通知シ相當ノ期限ヲ定メ訂正書ヲ提出サシムヘシ

第三十一條 審判請求書又ハ答辯書ニ訂正ヲ加ヘタルトキハ審判長ハ其訂正書ヲ對手人ニ送付スヘシ

第三十二條 審判請求書始末書及抵觸又ハ審判ニ關スル答辯書並ニ訂正書ハ審判長又ハ特許局長ノ定メタル期限内ニ提出スニアラザレハ之ヲ受理セス

第三十三條 口頭審判ヲ爲ストキハ審判長ハ其期日ヲ定メ之ヲ關係人ニ通知スヘシ

關係人前項ノ通知ヲ受ケ其期日ニ出頭セザルトキハ缺席ノ儘口頭審判ヲ終結スルモノトス

第三十四條 審判ヲ終結シタルトキハ審判長ハ其審決書ヲ關係人ニ送付スヘシ口頭審判ノ場合ニ在テハ尚ホ之ヲ言渡スヘキモノトス

第三十五條 審判ヲ請求シタル者其請求ヲ取消サント欲スルトキハ審判終結前ニ其旨ヲ申出ツヘシ

第三十六條 審判ノ請求ヲ取消シ又ハ之ヲ放棄シタル者ハ審判上敗者ト見做スヘシ但對手人ノ承諾ヲ經テ取消シタル者

第十六類 第一章 特許

ハ此限ニアラス

第三十七條 特許條例第十二條ノ再審査及同條例第十五條ノ審判請求期限ハ査定書ノ日附ヨリ起算シ九十トス此期限ヲ經過スルトキハ再審査又ハ審判ヲ請求スルコトヲ得ス

第三十八條 特許ヲ與フルトキハ特許局長ハ特許料納付用紙ヲ添ヘテ特許通知書ヲ出願人ニ送付スヘシ

出願人前項ノ通知書ヲ受ケタルトキハ特許料納付用紙ニ特許條例第三十一條ノ特許料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シ明細書ニ通圖面ニ通テ添ヘ通知書ノ日附ヨリ六十日以内ニ差出スヘシ此期限内ニ差出サハルトキハ出願ヲ無効トス
(二十三年四月農商務省令第五號ヲ以テ本項中追加)

第三十九條 出願人特許料ヲ納付シタルトキハ特許局長ハ其納付ノ日ヲ以テ特許原簿ニ登録シ其旨ヲ出願人ニ通知シ三十日以内ニ特許証ヲ送付スヘシ

第四十條 特許條例第八條第二項ノ場合ニ於テ特許証主ノ承諾ヲ經ル能ハスシテ出願シタル者ニ特許ヲ與フルトキハ特許局長ハ其旨ヲ特許証主ニ通知シ報酬ニ就キ協議ヲ爲サレムルニ必要ノ手續ヲ爲スヘシ

其協議整ハサルトキハ特許局長ハ農商務大臣ノ相當ト認ムル報酬ノ種類數額方法等ヲ特許通知ト同時ニ出願人ニ通知シ特許原簿ノ登録ト同時ニ之ヲ特許証主ニ通知スヘシ

第四十一條 特許証ハ第九號書式ニ依リ調製シ特許原簿登録ノ日ヲ以テ其日附ト爲シ改訂特許証ハ第十號書式ニ依リ調製シ許可ノ日ヲ以テ其日附ト爲ス
(同上本條中追加)

特許條例第二十五條ノ場合ニ於テ特許証ヲ下付スルトキハ特許局長ハ其事由並ニ下付ノ年月日ヲ稟書シ之ニ署名スヘシ
(同上削除)

第四十二條 出願人他人ノ記名又ハ他人ト連名ニテ特許証ヲ受ケント欲スルトキハ特許原簿登録ノ日マテニ其旨ヲ申出ツヘシ

第四十三條 特許條例第二十二條ニ依リ賣與、讓與、共有又ハ借入ノ登録ヲ請求スルトキハ第十一號及第十二號書式ニ從

ヒ請求書ヲ認メ同條例第三十條ノ手数料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シ約定書ヲ添ヘテ差出スヘシ

前項ノ請求アルトキハ特許局長ハ其約定書ヲ契約原簿ニ登録シ約定書ニ登録簿ノ證明印ヲ捺シテ之ヲ請求人ニ送付スヘシ

第四十四條 特許局ニ差出ス書類ハ一事件毎ニ一通宛認メ之ニ差出ノ年月日及差出人ノ住所氏名明細書及圖面ニハ差出人ノ氏名ノミヲ記載シ捺印スヘシ

審判請求書始末書及抵觸又ハ審判ニ關スル答辯書及訂正書ニハ對手人ノ住所氏名ヲ記載シ正本一通ノ外對手人ノ員數ニ應シ副本ヲ添フヘシ

第四十五條 前條ノ書類ハ字體明瞭ニ認メ若シ其書類中文字ヲ挿入又ハ削除シ若クハ欄外ニ記入シタルトキハ之ニ認印シ地方總ヲ經由セス直ニ特許局ニ差出スヘシ

第四十六條 特許局ニ差出シタル書類ハ其下戻ヲ請求スルコトヲ得ス

第四十七條 特許局ニ差出ス書類等ニシテ執務時間ノ最後一時間内又ハ休日ニ到着シタルモノハ次ノ執務日ニ接受シタルモノト見做スヘシ

第四十八條 出願人代人ヲ使用スルトキハ委任狀寫ヲ添ヘ其旨ヲ届出ツヘシ
代人ニ不都合ノ事アリト認メタルトキハ特許局長ニ於テ其代理ヲ差止ムヘシ

第四十九條 特許局ニ差出シタル書類又ハ見本ノ不用ニ屬シタルトキハ特許局長ハ其受取方ヲ差出人ニ通知スヘシ差出人其通知書ノ日附ヨリ九十日以内ニ受取方ヲ爲サハルトキハ特許局長ニ於テ適宜處分スヘキモノトス

特許局ニ差出シタル書類又ハ見本ハ保管中亡失毀損スルモ賠償ノ責ニ任セス
(二十三年十月農商務省令第九號ヲ以テ本項中追加)

第五十條 已リ得サル事故ノ爲メ此細則ニ定ムル期限内ニ書類見本又ハ書類ヲ差出シ又ハ出願シ難キトキハ其事由ヲ記載シ期限内ニ延期請求書ヲ差出スコトヲ得

前項ノ請求ヲ相當ナリト認メタルトキハ特許局長又ハ審判局長ハ更ニ期限ヲ定メ之ヲ請求人及關係人ニ通知スヘシ

第五十一條 特許証主ハ特許局長ノ差圖ニ從ヒ陳列用ノ爲メ其發明ノ輪形又ハ見本ヲ提出スヘシ
第五十二條 特許証主ハ特許條例第二十九條ニ依リ特許品又ハ其上包等ニ特許ノ二字特許証ノ日附及特許ノ年限ヲ標記スヘシ

第五十三條 特許ヲ相續シタルトキ又ハ特許証主氏名ヲ變換シタルトキハ三十日以内ニ其旨ヲ届出ツヘシ
第五十四條 特許シ與ヘタルトキ、特許証ノ改訂又ハ明細書ノ削除ヲ許可シタルトキ、特許ヲ取消シ又ハ無効トシタルトキ及其他特許ニ關シ必要ノ場合ニ於テハ特許局長ハ官報並ニ特許公報ヲ以テ之ヲ廣告スヘシ

書式用紙美濃紙十三行二十五字詰

第一號 特許ヲ願出ルトキ

特許願

一何々發明ノ名稱 此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ

右ハ別紙明細書ニ記載スル通ノ工術(機械製造品、合成物)ニシテ私(私共)ノ發明ニ有之特許條例ニ觸レサルモノト確信候間何箇年ノ特許相受度尤特許證ノ儀ハ何某本籍ヲモ記スヘシト連名ニテ下付相成度此段相願候也

年 月 日 本籍(及現住所) 發明者 氏 名 印

農商務大臣氏名殿 二名以上ナルトキハ各署名捺印スヘシ以下總テ此例ニ依ル

第二號 發明者他人ト連名ノ特許證ヲ受ケントシテ特許ヲ願出ルトキ

特許願

一何々發明ノ名稱 此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ

右ハ別紙明細書ニ記載スル通ノ工術(機械製造品、合成物)ニシテ私(私共)ノ發明ニ有之特許條例ニ觸レサルモノト確信候間何箇年ノ特許相受度尤特許證ノ儀ハ何某本籍ヲモ記スヘシト連名ニテ下付相成度此段相願候也

年 月 日 本籍(及現住所) 發明者 氏 名 印

農商務大臣氏名殿

第三號 發明者他人ノ記名ニテ特許證ヲ受ケントシテ特許ヲ願出ルトキ

特許願

一何々發明ノ名稱 此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ

右ハ別紙明細書ニ記載スル通ノ工術(機械製造品、合成物)ニシテ特許條例ニ觸レサルモノト確信候間何箇年ノ特許相受度尤特許證ノ儀ハ何某本籍ヲモ記スヘシト連名ニテ下付相成度此段相願候也

年 月 日 本籍(及現住所) 發明者 氏 名 印

農商務大臣氏名殿

第五號 相續者ヨリ特許ヲ願出ルトキ

特許願

一何々發明ノ名稱 此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ

右ハ亡何某ノ發明ニ係リ私相續候處別紙明細書ニ記載スル通ノ工術(機械製造品、合成物)ニシテ特許條例ニ觸レサルモノト確信候間何箇年ノ特許相受度此段相願候也

年 月 日 本籍(及現住所) 發明者 亡何某相續者 特許願人 氏 名 印

農商務大臣氏名殿

第六號 特許證ノ再下付ヲ願出ルトキ

特許證再下付願

一第何號特許證 此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ

第四號 他人ノ特許發明ヲ改良シテ特許ヲ願出ルトキ

特許願

一何々改良原發明ノ名稱ヲ掲クヘシ 此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ

右ハ別紙明細書ニ記載スル通何某所有第何號特許證ノ何々原發明ノ名稱ノ發明ニ就キ私(私共)ニ於テ改良ヲ加ヘ候モノニシテ特許條例ニ觸レサルモノト確信候間何箇年ノ特許相受度特許證主ノ承諾書(特許證主ノ承諾ヲ經ル能ハサルニ付其事由書)ヲ添

第十六類 第一章 特許

一何々發明ノ名稱
ヲ掲クヘシ

一發明者氏名

右私(私共)所有特許證何々事由ヲ記ニ依リ毀損(亡失)候ニ付特許證再下付相成度此段相願候也

本籍(及現住所)

年月日 特許証主 氏 名 印

農商務大臣氏名殿

第七號 特許證ノ改訂
ヲ願出ルトキ

特許證改訂願

一第何號特許證

一何々發明ノ名稱
ヲ掲クヘシ

一發明者氏名

右私(私共)所有特許證附屬ノ明細書(圖面)中何々事由ヲ記ノ爲メ特許ノ効力ヲ全クシ難キニ付別紙之通改訂致度尤之カ爲メ發明ノ要部ニ變更ヲ生スル儀無之候間改訂特許證下付相成度別紙改訂明細書(改訂圖面)並ニ現特許證及附屬明細書(圖面)相添此段相願候也

此處ニ登記印紙ヲ
貼用シ消印スヘシ

・八百十二

本籍(及現住所)

年月日 特許証主 氏 名 印

農商務大臣氏名殿

第八號 明細書ノ削除
ヲ願出ルトキ

明細書削除願

一第何號特許證

一何々發明ノ名稱
ヲ掲クヘシ

一發明者氏名

右私(私共)所有特許證附屬ノ明細書ニ於テ私(私共)(前記發明者)ノ發明ニアラサル事項ヲ誤テ請求區域中ニ記載シタルコトヲ發見候間明細書中第何項何行自何ノ字ヨリ何ノ字ニ至ル若干字ヲ削除致度此段相願候也

本籍(及現住所)

年月日 特許証主 氏 名 印

農商務大臣氏名殿

此處ニ登記印紙ヲ
貼用シ消印スヘシ

第九號 特許證
書式 (二十三年八月農務省令)
第八號ヲ以テ書式中削除

第何號 特許證

本籍(及現住所) 氏 名

何々(發明ノ名稱) 氏 名

本證附屬明細書ノ請求區域ニ對シ特許條例ニ據リ右記名ノ者ニ何年間特許ヲ與フルモノ也

年月日 農務大臣 氏 名 印
特許局長 氏 名 印

何々下付ノ
事由

年月日 特許局長 氏 名 印

第十號 改訂特許
證書式 (同上)
追加

第何號 改訂特許證

本籍(及現住所) 氏 名

何々(發明ノ名稱) 氏 名

特許條例ニ據リ前記發明ノ請求區域ニ對シ(何某ニ)明治何年何月何日何年間特許ヲ與ヘタル明細書(圖面)ノ改訂ヲ許可スルヲ以テ本證ヲ下付スルモノ也

年月日 農務大臣 氏 名 印
特許局長 氏 名 印

第十一號 特許ノ賣與(讓與)共有又ハ
特許ノ買入(登錄)ヲ請求スルトキ (同上)
追加

特許賣與(讓與)共有又ハ
買入(登錄)請求書

此處ニ登記印紙ヲ
貼用シ消印スヘシ

一第何號特許證

一何々發明ノ名稱
ヲ掲クヘシ

一發明者氏名

右私(私共)所有特許ヲ別紙約定書之通賣與(讓與)共有又ハ買入(候間)登錄相成度約定書相添此段請求候也

本籍(及現住所)

年月日 特許証主 氏名 印

本籍(及現住所)

買受(譲受共有)人 氏名 印

特許局長氏名 印

第十二號 書入中ノ特許ノ賣與譲與共有又ハ書入ノ登録ヲ請求スルトキ

(上同)

特許賣與(譲與共有)ハ書入(登録)請求スルニ際シ

此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ

一 第何號特許証

一 何々ヲ掲ケヘシ

一 發明者氏名

右私(私共)所有特許ハ何年何月何日附ノ約定書ニ依リ何某(本籍)モ(書入)致置候處今般別紙約定書之通賣與(譲與)共有又ハ書入(候間)登録相成度約定書相添此段請求候也

本籍(及現住所)

年月日 特許証主 氏名 印

本籍(及現住所)

買受(譲受共有)人 氏名 印

特許局長氏名 印

明細書文例

(備考)

- 一 明細書ハ英濃紙ニツ折ニシテ上部曲尺一寸下部八分左二分綴料一寸ヲ餘シ摺行ノ内ヲ以テ十三行二十五字詰ニ認ムヘシ
- 二 明細書ニハ此細則第二條ニ掲ケタル諸件ノ外必要ナラサル事項ヲ記載スヘカラス
- 三 明細書ハ其發明ニ關スル學術又ハ事業ニ熟練ナル者ノ之ニ由リテ其發明ヲ實施シ得ル様詳細正確ニ認ムルヲ要ス
- 四 明細書ハ書損ナキ様認ムヘシ若シ書損アリテ挿入又ハ削除スルトキハ其上部ニ存スル餘白ニ第何行第何字目何々ノ下何々ノ上何々ノ何字ヲ加ヘ又ハ除クトカ成ハ何々ノ字ヨリ何々ノ字ニ至ル何字ヲ何々ノ何字ニ改ムト記シテ認印スヘシ紙ヲ糊付シテ書損ノ部ヲ掩ヒ其上ニ書改ムル等ノコトヲ爲スヘカラス但削除スヘキ文字ニハ一ノ縦線ヲ引キ其字體ヲ存スヘシ
- 五 明細書ニハ其未尾ニ出願人署名捺印スヘシ本籍、現住所年月日及宛名ハ之ヲ記載スヘカラス

製圖例

(備考)

- 一 圖面ハ墨水引ノ純白ナル英濃紙ヲ用ヒ凡ソ其上部曲尺一寸下部八分左三分右一寸五分ヲ餘シ堅曲尺七寸二分横四寸六分ノ面内ニ之ヲ認メ其面内左右ノ下部ニ於テ圖面ニ妨ケナキ所ニ出願人署名捺印スヘシ本籍現住所年月日及宛名ハ之ヲ記載スヘカラス
 - 二 圖面ヲ製スルニ其紙ノ横ヲ堅ニ用フルハ妨ケナシト雖モ同一ノ紙面ヲ堅横混合シテ用フヘカラス
 - 三 圖面ハ成ルヘク一枚ニ認メ已ムヲ得サル場合ノ外其紙數ヲ増加スヘカラス
 - 四 發明ノ名稱ハ圖面中ニ記載スヘカラス
 - 五 圖面ハ寫眞石版ノ原料ニ適スヘキ煤油墨ヲ用ヒ鮮明ニ畫キ着色スヘカラス
 - 六 圖ノ離レタルモノハ一箇毎ニ第一圖第二圖ト番號ヲ付シ又一部分ニシテ數圖ニ亘ルモノアレハ必ス同一ノ符號ヲ用フヘシ但番號及符號ハ圖ノ妨ケトナラサル様油墨ニテ明瞭ニ記スヘシ
- 符號ヲ直ニ圖ニ施スコト能ハサル場合ニハ其部分ヨリ少シク離シテ符號ヲ記シ極小ノ點線ヲ以テ其部分

第十六類 第一章 特許

第一 機械ノ發明ヲ記

取シタル一例

明細書

肉類細切器

此發明ハ上下スル庖丁ト旋轉スル組ト相須テ作用スル肉類細切器ニ加ヘタル改良ニ係リ其目的トスル所ニアリ、第一、組ヲ支撐スル表面ニ油ノ斷エサル様ニシテ旋轉ヲ常ニ滑利ナラシムルコト、第二、二箇ノ庖丁ノ位置ヲ各別々ニ調節シ以テ其刃ト組ノ表面トノ關係ヲ適切ニナスコトヲ自在ナラシムルコト、第三、庖丁ヲ上下スル桿ノ摩擦ヲ減少スルコト是ナリ。

別紙圖面ニ於テ右ノ目的ヲ達スヘキ機構ヲ示ス、其第一圖ハ全器ノ垂直断面、第二圖ハ全器ノ中ヨリ組下庖丁トヲ除キ去リテ上ヨリ之ヲ觀タル圖、第三圖ハ二圖ニ示セル部分ヲ第一圖中(一)(二)線ニ就テ截斷シタル垂直断面、第四圖ハ上下スル丁字架ト之ニ裝附シタル庖丁トヲ細ニ示シタル斜視圖ナリ

右諸圖ニ於テ同シ符號ハ同シ部分ヲ示スモノトス、竝ハ其脚ろろ、及ヒ蓋ノ裏面ニ取リ着ケタル軸吊ハヲ以テ本器ノ構礎トス、軸吊ハニハ勢輪^{ハインカム}ハ軸^{シャフト}ニテ通ス、此勢輪ノ轂ナル曲柄申ハ連桿ヲ以テ丁字架ニ串ニ連テ、丁字架ニハ桿ヲ取リ着ケ、此桿ノ上端ニハ丁字架ヲ取リ着ケ、丁字架リニハ下文ニ解明スル如ク自在ニ調節シ得ヘキ庖丁ぬねヲ裝附シタリ

軸^{シャフト}ニ推引スル丁字架ニハ蓋^{カバー}ノ裏面ニ取リ着ケタル導桿^{ガイド}をニ適應スル減阻^{減阻}轉子^{轉子}を有ス、是レ此丁字架上下ノ際、摩擦^{摩擦}抵抗^{抵抗}ヲ極メテ少クセシカ爲メナリ

木造ノ組わノ下面ニハ、蓋^{カバー}ノ上面ニ設ケタル環

狀ノ溝^溝カニ適應シテ之ニ支撐セラルヘキ環狀ノ凸起^{凸起}ヲ具フ、環溝^{環溝}カノ深サハ一様ナラス一箇所以^{所以}上(茲ニハ假ニ二箇所トス)ニ於テ較^較深^深キ窪^窪ニ有リテ之ニ油ヲ貯フ、而シテ凸起^{凸起}ハ此油ニ觸レテ旋轉スルヲ以テ凸起^{凸起}ト溝^溝トノ間ニハ常ニ油ノ斷ユルコトナク甚^甚タ滑利ナルコトヲ得ルナリ、桿^桿ハ中央ノ架^架孔^孔ヲ貫通シ之ニ制^制導^導セラル、該架^架ノ下端^{下端}ハ蓋^蓋ニ取^取着^着ケ其上部^{上部}ハ組^組わ^わニ備^備レスシテ組^組中央^{中央}ナル孔^孔ヲ貫^貫キテ上方^{上方}ニ突出^{突出}シ蓋^蓋ニ置^置ハル、此蓋^蓋ハ組^組ニ取^取着^着ケ其中央^{中央}ノ孔^孔ニ肉片^{肉片}ノ落^落ツルヲ防^防クモノナリ、

前ニモ掲^掲ケ且第四圖ニ委^委シク示セル丁字架^{丁字架}リハ桿^桿ニ貨^貨カ^カレ其位置^{位置}ハ桿^桿ニ從^從ヒ垂直^{垂直}ノ方向^{方向}ニ於テ任意^{任意}ニ之ヲ移動^{移動}シ以テ適切^{適切}ニ之ヲ調節^{調節}スルコトヲ得、而シテ其調節^{調節}整頓^{整頓}シタルトキハ止^止螺^螺旋^旋ツヲ以テ之ヲ緊^緊注^注スヘシ、又桿^桿チノ上端^{上端}ニハ此螺^螺旋^旋ヲ日^日嵌^嵌スルタメニ螺^螺絲^絲ヲ刻^刻メリ、此此螺^螺旋^旋ハ丁字架^{丁字架}ノ上^上ニ在^在リテ庖^庖丁^丁カ組^組上^上ノ肉^肉ニ突^突當^當リタルトキ丁字架^{丁字架}ノ力^力爲^爲ニ啟^啟シテ開^開リ上^上ルヲ押^押ヘ止^止ムルノ用^用ヲナスモノナリ、

庖^庖丁^丁ぬね^{ぬね}ハ右ノ丁字架^{丁字架}ニモ關係^{關係}ナク又相互^{相互}ニモ關係^{關係}ナク各獨立^{各獨立}ニ其位置^{位置}ヲ調節^{調節}スルコトヲ得、故^故ニ何^何レノ庖^庖丁^丁ノ刃^刃ヲモ常^常ニ組^組ノ上面^{上面}ニ恰^恰モ相^相合^合ハシムルヲ得ヘキナリ

上文^{上文}ノ庖^庖丁^丁調節^{調節}方^方ニ付^付テ予^予ハ第四圖^{第四圖}ノ裝置^{裝置}ヲ用^用フルヲ以^以テ最^最良^良ノ注^注ト爲^爲ス、即^即チ兩^兩庖^庖丁^丁ノ上端^{上端}ニ各^各二條^{二條}ノ螺^螺絲^絲桿^桿ね^ねヲ固^固着^着シ、此桿^桿ヲ丁字架^{丁字架}ノ耳^耳ニ嵌^嵌ムルニ在^在リ、斯^斯裝^裝置^置ニ依^依ルトキハ各^各此螺^螺旋^旋ヲ回^回轉^轉シテ以^以テ極^極メテ精密^{精密}ニ庖^庖丁^丁ヲ調節^{調節}シ得ヘシ

組^組ノ周邊^{周邊}ニ圓筒^{圓筒}狀^狀ノ版^版ヲ附^附着^着シテ槽^槽ヲ形成^{形成}セシメ以^以テ肉片^{肉片}ノ組^組外^外ニ落^落ツルヲ防^防ク又組^組ノ下面^{下面}ト環^環狀^狀ノ凸^凸起^起トノ周圍^{周圍}ニハ小齒^{小齒}輪^輪ヲニ組合^{組合}シヘキ齒^齒輪^輪ヲ刻^刻ス、此小齒^{小齒}輪^輪ハ軸^軸ニヨリ適^適宜^宜ノ聯^聯動^動機^機ヲ經^經テ之ヲ運^運轉^轉セシムヘシ、別紙圖面^{別紙圖面}ニ示セル聯^聯動^動機^機ノ若^若キハ此發明^{此發明}ノ一部分^{一部分}トシテ示^示レタルモノニアラス

軸^軸ニハ滑車^{滑車}ノ二個^{二個}ヲ掛^掛ケテ以^以テ之ヲ旋轉^{旋轉}セシムルモノナリ、亦一端^{一端}ニ把手^{把手}ノ具^具ヘ一端^{一端}ニハ軸^軸ニニ設^設ケタル小齒^{小齒}輪^輪ニ組合^{組合}シヘキ齒^齒輪^輪ヲ備^備ヘタル軸^軸ヲ裝^裝置^置シテ之ヲ旋轉^{旋轉}スルモノナリ

蓋^蓋ノ一方^{一方}ニ螺^螺釘^釘ニテ板^板ヲ据^据附^附ケ以^以テ細^細切^切シ

タル肉^肉ヲ入^入ル、器物^{器物}ヲ載^載スルノ用^用ニ供^供スルモノ可^可ナリ、此板^{此板}ヲ有用^{有用}ノトキ支^支柱^柱シ不用^{不用}ノトキ除^除クニ最^最モ便利^{便利}ナルノ方^方ヲ第一圖^{第一圖}ニ示^示セリ

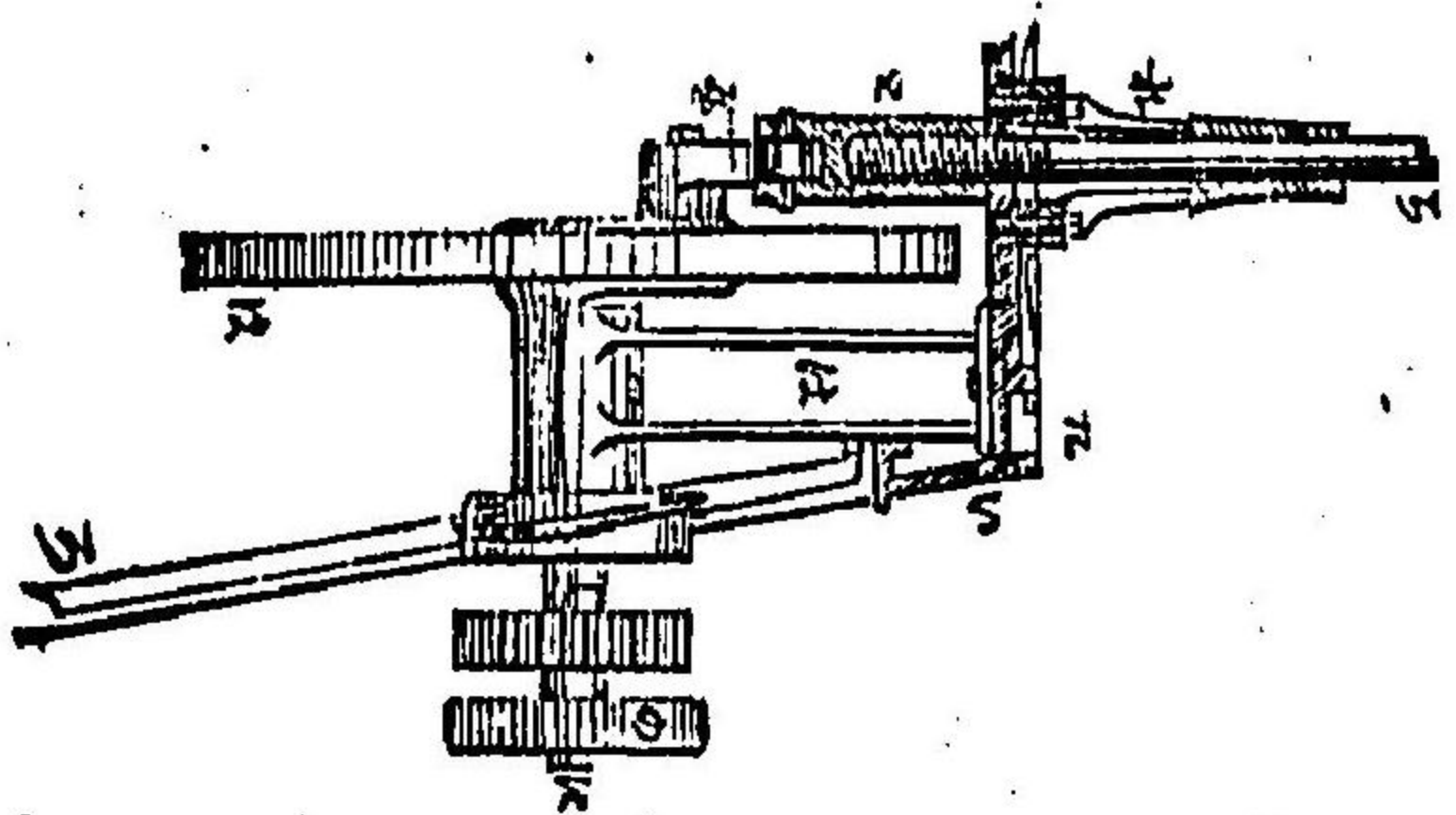
此發明^{此發明}以前^{以前}ニ旋轉^{旋轉}スル組^組上下^{上下}スル庖^庖丁^丁ト相^相須^須テ作用^{作用}スル肉^肉切^切器^器アリタルコトハ予^予之ヲ知^知レリ、故^故ニ予^予ハ汎^汎ク斯^斯ノ如^如キ組合^{組合}ヲ取^取リテ悉^悉ク予^予ノ發明^{發明}ナリトセズ左^左ニ予^予ノ發明^{發明}トシテ其特^{其特}性^性ヲ講^講求^求スル區^區域^域ヲ掲^掲ク

- 一 肉類^{肉類}細切^{細切}器^器中^中、環^環狀^狀ノ凸^凸起^起ヲ具^具ソル旋^旋轉^轉組^組ト環^環溝^溝カ并^并ニ之^之ト連^連續^續セル油^油窪^窪ヲ設^設ケタル蓋^蓋トノ組合^{組合}
- 二 肉類^{肉類}細切^{細切}器^器中^中、各獨立^{各獨立}ニ自在^{自在}ニ上下^{上下}シテ調節^{調節}シ得^得ヘキ庖^庖丁^丁ぬね^{ぬね}ヲ裝^裝附^附シタル上下^{上下}スル丁字架^{丁字架}架^架ト旋^旋轉^轉組^組トノ組合^{組合}
- 三 本器^{本器}ニ記^記シタル目的^{目的}ヲ以^以テ、上端^{上端}ニ二條^{二條}ノ螺^螺絲^絲桿^桿ね^ねヲ固^固着^着シタル庖^庖丁^丁ぬね^{ぬね}
- 四 肉類^{肉類}細切^{細切}器^器中^中、庖^庖丁^丁ぬね^{ぬね}ヲ裝^裝附^附シタル上下^{上下}スル桿^桿チト、此桿^{此桿}ニ取^取着^着ケ且^且ツ減^減阻^阻轉子^{轉子}を有^有スルヲ以^以テ丁字架^{丁字架}ニ取^取着^着シ、此轉子^{此轉子}ニ適^適應^應スル導^導桿^桿を有^有スルノ組合^{組合}

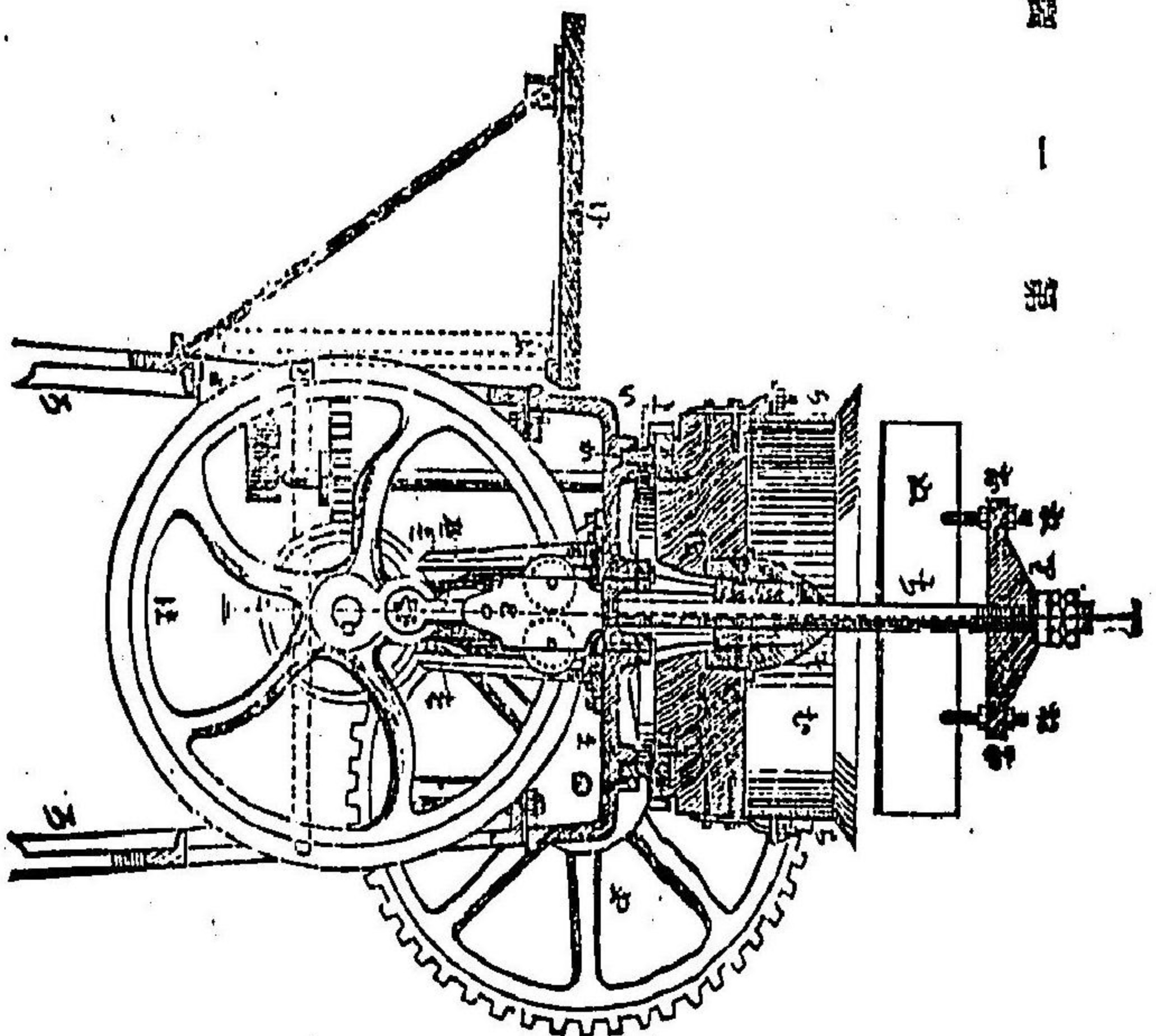
八百十八

氏名印

圖三

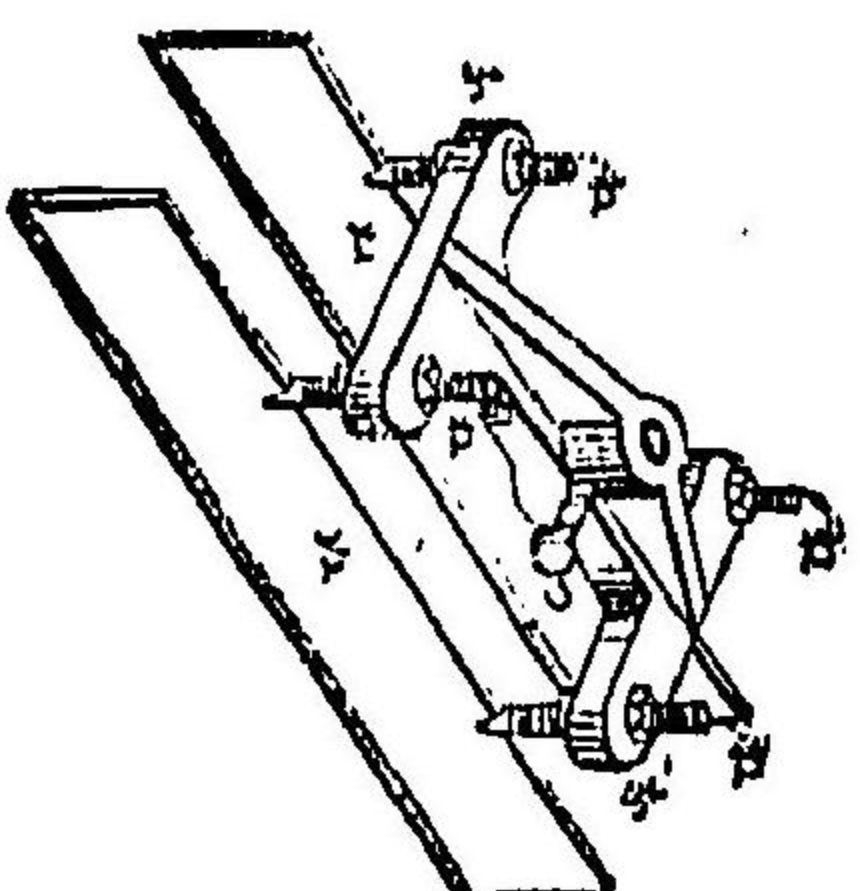


圖一

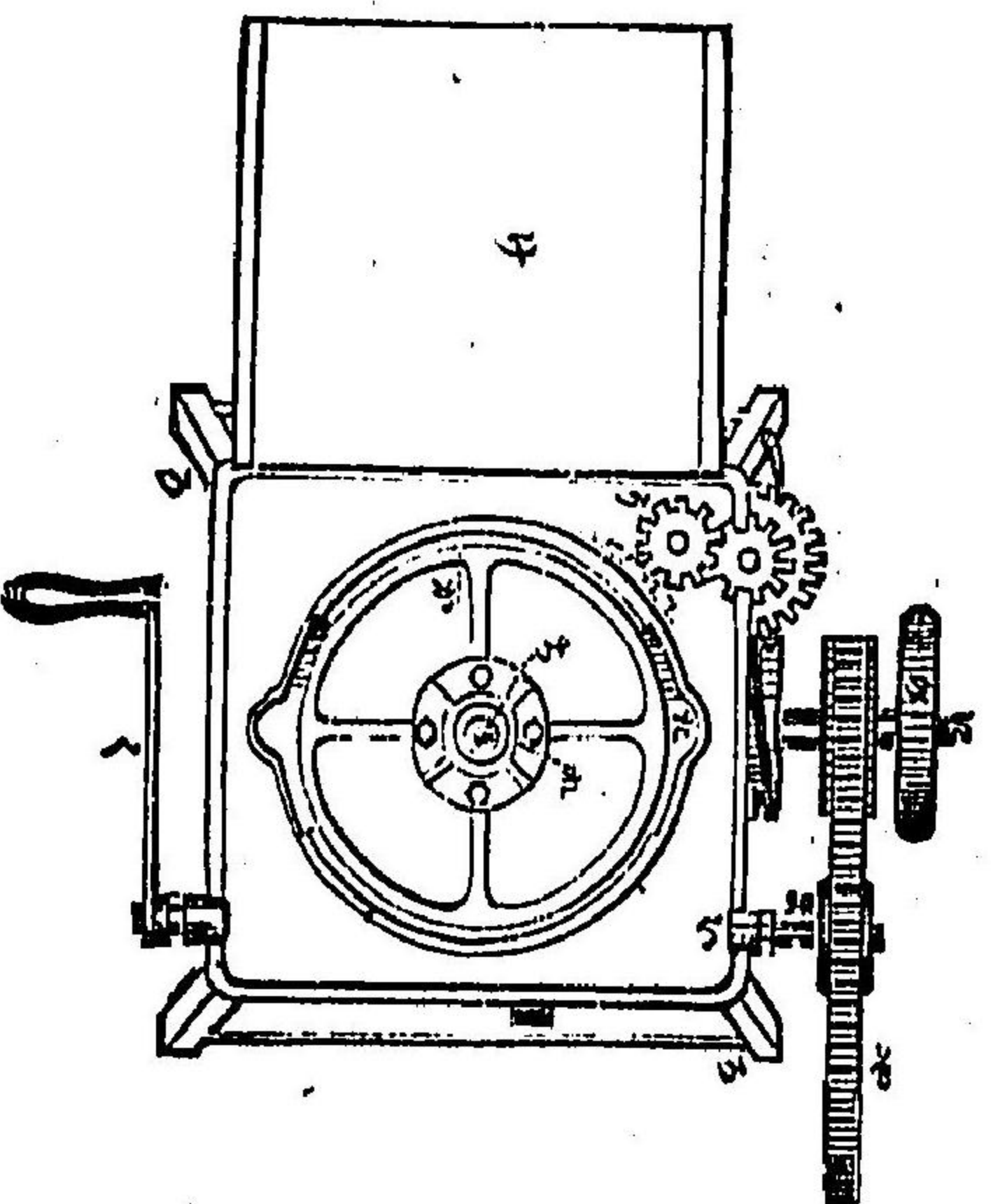


氏名印

圖四



圖二



第十六類 第一章 特許

八百十九

明細書
旋轉齒刷

此發明ハ柄ノ頭部ノ四方ニ刷毛ヲ具ヘ柄ノ中心線ヲ軸トシテ旋轉シ以テ齒ヲ磨クノ用ヲナス齒刷ニ係リ、其目的トスル所ハ刷毛ヲテ垂直ノ方向ニ即チ齒ノ長サノ方向ニ作用セシメ以テ齒ノ表面ヲ掃除スルノ効用ヲ完全ナラシムルニ在リ
別紙圖面中第一圖ハ此旋轉齒刷ノ全體ノ斜視圖第二圖ハ刷毛齒ヲ開キタル圖第三圖ハ柄ノ頭部第四圖ハ推引サル、柄子ヲ示ス、此等諸圖ニ於テ同シ符號ハ同シ部分ヲ示スモノトス
柄ハ金屬象牙、鹿角骨等ノ如キ隨意ノ材料ヲ以テ之ヲ造リテ可ナリ、然レトモ骨ヲ用フルトキハ其價ヲシテ最モ廉ナラシムルヲ得ヘシ、其形ハ圓圓環トナスヲ可トス、其周圍ニハ二三回之ニ螺絲スル螺絲ノ狀ニ於テ溝ヲ穿ツ、柄ノ頭部ニハ四方ニ刷毛ヲ列植シ、此刷毛ヲ植タル部分ノ各端ニ於テ約ソ二分ヲ相距テ、環線ヲ設ケ、其間ヲ軸頭ヲトス、柄ノ溝ヨリ穿チタル部分ニハ鈕子

ヲ推引スルナリ、此鈕子ハ柄ト同シ材料ニテ造ルル便利トス然レトモ他ノ材料ヲ資ルモ固ヨリ不可ナシ、其形狀ハ外周ニ於テハ四角其他隨意ノ形トナシ内側ハ柄ノ適應スル形トナシ且ツ溝ヨリ嵌ルヘキ舌ツリ具フ、故ニ此鈕子ヲ前後ニ推引スルトキハ柄並ニ其頭部ニ植タル刷毛ヲシテ旋轉動リナシムルナリ
刷毛齒ハ柄ノ刷毛ヲ植タル部分ト大抵等シキ長サヲ有シ其橫斷面ハU字狀ニシテ其兩端ニ扇形ノ側板具ニ付具フ、但レ此側板ハ柄ノ頭部ト同一體ニ造ルヲ可トス、又兩側板ノ内一箇ニハ孔ヲ穿チ以テ刷毛ヨリ滴流スル水ヲ放流スルニ供ス、又中央ニ半圓狀ノ凹處ヲ穿チ以テ軸頭ヲ受持スル方面ヲ形成セシメ、軸頭ヲ此凹處ニ置キタル後ハ蓋ヲ閉チテ刷毛ヲ齒中ニ安定セシムルナリ
蓋ハ種々ニ之ヲ構造シ得ヘシ、別紙圖面ニ其最モ簡單ナル構造ヲ示ス、即チ微シク彎曲セル版ニト側板チリトヨリ成リ、側板チリハ蓋ヲ閉チタルトキ蓋ハ側板ニ相重ナル如クス、蓋及ハ其一邊ニ於テ齒ハニ螺絲シ他ノ一邊ニ於テ柄子ニ付具フ、此柄子ハ蓋ヲ閉チタルトキ柄ノ齒子ヲ

相符合スル如クス、刷毛齒及ヒ蓋ハ金屬若クハ磁器ヲ以テ之ヲ造ルヲ可トス

此齒刷ヲ使用スルニハ一手ヲ以テ柄子ぬるヲ摘ミ刷毛ヲ齒ニ接觸セシメ他ノ一手ヲ以テ鈕子ヲ前後ニ推引スルナリ、爾ルトキハ縱令ヒ鈕子ノ動ハ稍、徐ナリトモ刷毛ハ迅速ニ旋轉スヘシ、故ニ刷毛ハ極メテ周密ニ齒ノ端邊ヲ掃除スルコトヲ得ルナリ、蓋シ齒ヲ損スルコトナクシテ之ヲ滑掃スルノ最良方ハ唯リ齒ノ長サノ方向ニ於テ之ニ刷毛ヲ加フルニ在リトイフコトハ世ノ理學家ガ疑ハサル事實ナリ

此發明ノ精神ヲ變スルコトナクシテ刷毛齒ノ構造ニ多少ノ變更ヲ加ヘ若クハ爾他ノ部分ノ形狀及ヒ構造ヲ少シク變スルコトヲ得ヘキコト實ヲ須タス、故ニ予ハ此發明ノ區域ヲ上文ニ記述シタル特別ノ構造ノミニ限ルヲ欲セス、左ニ予ガ發明ノ特許ヲ請求スル區域ヲ掲ク

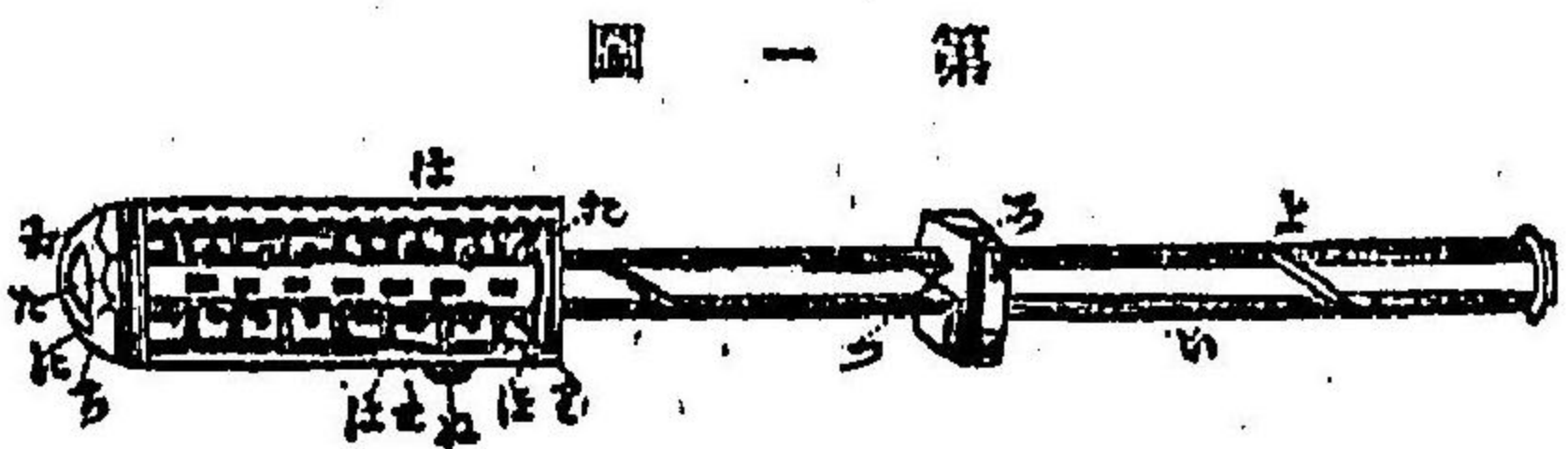
一 蝶紋ニテ蓋ヲ裝附シ以テ旋轉スル刷毛ヲ保持スルノ用ヲナスヘキ刷毛齒ト、螺絲狀ノ溝ヲ穿チタル柄ト、此柄ノ溝ニ適合シ推引サレテ柄ヲ旋轉スヘキ舌ヲ具フル鈕子トヨリ成ル旋

轉齒刷

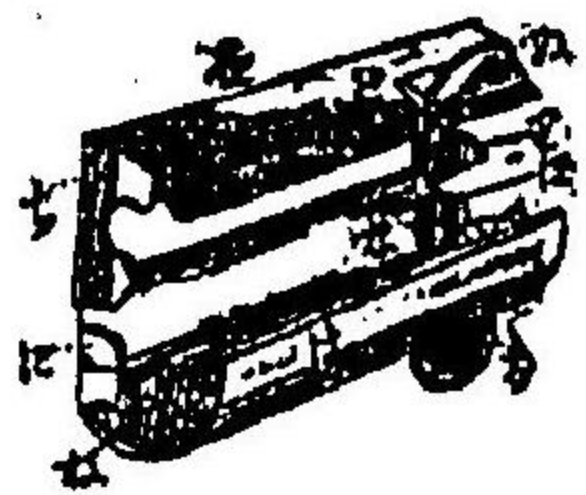
二 旋轉齒刷中、柄子附キノ蓋ヲ螺絲シタル柄子附キノ刷毛齒ト、之ニ軸頭ヲ委スル旋轉スヘキ刷毛ト、此刷毛ヲ旋轉セシムル柄トノ組合
三 旋轉齒刷中、凹處ヲ具ヘ之ニ刷毛ノ軸頭ヲ入レ蓋ノ側板ノ凹處ト相須テ刷毛ノ軸頭ヲ形成スヘキ側板ヲ有スル齒ト、螺絲狀ノ柄子及ヒ此柄子ニ適合シ推引サレテ旋轉動リ生スヘキ鈕子ヲ具フル柄トノ組合

四 旋轉齒刷中、一面開放セル刷毛齒ニ軸頭ヲ委スル刷毛ト、此刷毛ニ固着シテ同一體ヲ成シ且ツ表面ニ螺絲狀ノ溝ヲ穿チタル柄ト、此柄ノ溝ニ適合シテ刷毛ヲ操作スヘキ舌ヲ具フル鈕子トノ組合

氏 名 印



第一圖



第二圖



第三圖



第四圖

第三工術ノ發明ヲ記
軟鐵及銅鐵製造方

明細書

此發明ノ目的ハ溶解シタル粗鐵ヨリ燐ト硫黃トヲ除去スルニ在リ、其方法ハ鹽基性物即チ硅酸ヲ含有セサル物料ヲ内面ニ塗布シタル顯回爐ニ鐵ヲ投入シ、硅素ヲ奪除センカ爲メニ大氣ヲ吹キ入レテ之ニ作用セシメ、從テ化生スル所ノ含硅熔滓ヲ該爐ヨリ放排シ、然ル後燐ト硫黃トヲ奪除センカ爲メニ大氣ト燄石即チ弗化カルシウムトヲ爐中ノ鐵ニ加ヘテ之ニ作用セシムルニ在リ

此發明ヲ施行スルニハ、先ツ熔鐵ヲ熔爐鐵ヨリ顯回爐ニ移送シ、顯回爐ノ底若クハ側部ヨリ吹キ入ル大氣ヲ之ニ加ヘ、奪硅作用ノ至ク終ルニ至リテ大氣ノ吹入即チ衝風ヲ斷チ、次ニ顯回爐ヲ傾欹シテ其熔滓ヲ流放シ、次ニ又衝風ヲ吹キ入レ且ツ顯回爐ヲ直立ノ地位ニ復セシメテ後直チニ燄石ヲ之ニ入ル、但シ其入レ方ハ之ヲ細粉トナシテ衝風ト共ニ熔鐵中ニ吹キ入ル、ヲ可トス亦熔滓ヲ去リタル後顯回爐ノ口部ヨリ其小塊ヲ投入スルモ可ナリ、斯クシテ入レタル燄石ハ熱ノ爲メニ分解シ弗素ト

第十六類 第一章 特許

石灰トヲ化生シテ以テ硫黃ト燐トヲ蒸氣及ヒ溶解トナシテ除去スル(硅素ノ殘留スルモノアルトキハ亦之ヲ去ル)カ故ニ爐中ノ鐵ハ奪硅作用完カラサルトキハ化シテ鋼鐵トナリ、其作用完キトキハ軟鐵トナルナリ

顯回爐ノ壁ノ内面ニ塗附スルニハ石灰若クハ苦土質石灰ヲ用フルヲ良シトス、然レトモ亦他ノ適當ナル石灰質ノ塗被料ヲ用フルモ妨ナシ

上文ノ粗鐵ハ普通ノベッセマー法ニ於テ通常用フルモノ即チ百分中硅素二分、炭素三乃至四分ヲ含有シ且ツ之ニ若干ノ燄石ヲ加フルニアラサレハ長質ノ鋼鐵ヲ成ス能ハサル程ニ過量ノ燐ヲ含有スルモノニテ可ナリ

粗鐵中ニ多量ノ燐僉存スルトキハ其含有スル硅素ノ量或ハ較ト少カルヘシ(然レトモ較ト多量ノ硅素ヲ含有スルモ放チ奪ナレ)予ハ百分中三分乃至五分ノ燐僉ヲ含有スル粗鐵ヲ用フルヲ良シトス兩ル時ハ衝風吹入ノ終リニ當リテ燐僉ヲ加フルコトヲ要セス、然レトモ若シ粗鐵ニ燐僉ヲ含有セザルトキハ奪硅作用終リテ直チニ一分乃至一分半ノ鋼鐵

スビーゲルアイゼン

ヲ投入スルヲ可トス是レ予ハ森林作用ノ間ニ滿庵存在スルトキハ其鐵ノ質ヲシテ良好ナラシムルノ效甚大ナルコト之後ニ至リテ加フルノ比ニアラサルコトヲ發見シタルニ由ル、然リト雖モ鐵ヲ精製スル間ニ滿庵ノ存スルト否トハ必スシモ鋼鐵ノ生成ニ須要アリトセス何トナレハ衝風ヲ吹入ルノ際滿庵アリタリト否トニ關セス衝風ヲ止ムルニ臨テ滿庵ヲ入ル、モ亦可ナレハナリ

爐中ニ加フヘキ磁石ノ量ハ應ニ粗鐵中ニ含有スル磁素ト燐ト硫黃トノ目方ノ三乃至五倍タルヘシ石灰若クハ酸化鐵ヲ磁石ト混和シテ爐中ニ入ル、モ可ナリ、亦當初森林作用ヲ施ス前ニ石灰ヲ粗鐵ト共ニ爐ニ投入スルモ可ナリ、然レトモ斯ク石灰若クハ酸化鐵ヲ使用スルハ敢テ緊要ノ事ナリトセ

磁石ヲ森林作用ノ前ニ用ヒシテ之ヲ其後ニ用フルノ利益タル所以ハ他ナシ、若シ「セマー」注ノ始メニ當テ之ヲ用フルトキハ大ニ熔鐵ヲ冷却シテ之ヲ流放シ難カラシメ且ツ尚小懸ニ多量ノ磁石ヲ要スルノ憂アルヲ以テナリ、森林作用後直チニ含磁熔滓ヲ除去スルノ利益タル所以ハ他ナシ、之ヲ去ルトキハ磁石ヲシテ之ヲ中和センガ爲メニ耗費

セシムルノ憂ナケレハナリ若シ否セスシテ之ヲ久シク爐中ニ留滞セシムルトキハ磁石ノ多量ハ無益ニ熔滓ト相化合スヘシ

「セマー」注ニ於テ鋼鐵ヨリ燐ヲ森林セシカ爲メニ磁石ト大氣トヲ使用スルコトハ予カ既ニ何年何月何日附ヲ以テ第何號特許ヲ得タル所ナルヲ以テ今況ク斯ノ如キ方法ヲ取テ本發明ノ權利ヲ請求スル區域ト爲マス、畢竟本發明ハ右ノ方法ニ加ヘタル改良ニシテ其主眼トスル所ハ少量ノ磁石ヲ費シテ以テ鐵ヲ精製スルコトヲ得ルニ在リ

特許條例ニ依リ本發明ノ特許ヲ請求スル區域ヲ左ニ掲ク

本特許ニ詳記シタル軟鐵皮鋼鐵製造方ニ加ヘタル改良、即チ適當ノ「鹽基性物」ヲ以テ内面ヲ塗被シタル圓筒爐内ニ於テ先ツ粗鐵ヨリ磁素ヲ森林セシカ爲メニ之ニ衝風ヲ加ヘ、次ニ生成シタル含磁熔滓ヲ流放シ、又次ニ鐵中ノ硫黃ト燐トヲ森林セシカ爲メニ磁石若クハ之ニ齊シキ作用ヲナスヘキ鹽基性物ヲ加フルヨリ成ル方法

氏 名 印

第四合成物ノ發明ヲ記載シタル一例

明細書

脫毛媒助劑
此發明ハ毛皮ヲ糲化スルニ先チ豫メ其毛ト脂肪トヲ除去スルニ供用スヘキ合成劑ニ係ル

此合成劑ハ左記ノ資料ヲ左記ノ割合ニ合セテ成ル

清水 拾貳石五斗
生石灰 八斗
炭酸曹達 拾貳貨目
硝石 貳貨四百目
硫黃花 壹貨貳百目

以上ノ資料ヲ普ク攪拌シテ混和セシムルナリ

此合成劑ノ用方ハ先ツ毛皮ヲ水中ニ漬スコト、生皮ノレハ一日間、粘乾シタル皮ナレハ八日間ニシテ其毛皮ニ存スル鹽類及ヒ汚物ヲ悉ク除去シ以テ之ヲ清淨ニシ次ニ之ヲ此合成劑ノ液中ニ漬スコト四十八時間ニシテ之ヲ取出シ爾後通常ノ方ニ

糲リテ其毛ヲ脫除スルニ在リ

此合成劑ヲ毛皮ニ施ストキハ忽チ其毛ヲシテ極メテ脫除シ易カラシメ且ツ皮中ニ存スル脂肪其外糲化ヲ妨クヘキ有害ノ物質ハ悉ク之ヲ去リ而シテ其化シテ革ト成ルヘキ精良ノ物質ニ至テハ能ク之ヲ留存スルナリ

炭酸曹達ト水ト石灰ト硫黃トヨリ成ル合成劑ヲ上文ニ同シキ目的ニ供スルコト並ニ硝石ヲ脫毛劑ニ用フルコトハ世人ノ既ニ知ル所ナルハ予之ヲ知レリ然レトモ予ノ合成劑ノ資料ヲ悉ク用ヒ且ツ之ヲ混合スルニ前記ノ割合ヲ以テシタルハ予ノ未タ知ラサル所ナリ

左ニ予カ發明ノ特許ヲ請求スル區域ヲ掲ク

毛皮ノ毛ヲ脫除シ易カラシメ及ヒ該皮ヲシテ糲化スルニ適切ナラシムルノ目的ニ供用スヘキ水ト生石灰ト炭酸曹達ト硝石ト硫黃花トヨリ前記ノ割合ニテ成ル合成劑

氏 名 印

○特許料登錄料及手数料ハ登記印紙ヲ用ユ

二十一年十二月二十五日 附令第二十三號

特許條例意匠條例ノ特許料登錄料及特許條例第三十條意匠條例第十八條商標條例第十七條ノ手数料ハ登記印紙ヲ以テ之

第十六類 第一章 特許

八百二十五

○農商務省特許局ニテ登録セル特許意匠及商標登録方 二十三年十月 農商務省告示第九號

本年九月法律第七十八號ヲ以テ登記法第一條ニ追加規定ノ農商務省特許局ニ於テ登録シタル特許意匠及商標ノ登記ハ常省特許局ヨリ本人ノ居住地ヲ管轄スル登記所ニ通知シテ之ヲ爲スヘキニ付本人ニ於テ其登記ヲ登記所ニ請求スルヲ要セス

○特許發明ノ明細書特許公報商標公報ノ拂下代價並ニ書類原本圖面調製ノ手数料及請求手續ヲ定ム 二十二年一月四日 農商務省告示第一號

特許條例意匠條例及商標條例ニ依リ特許發明ノ明細書特許公報商標公報ノ拂下代價並ニ書類原本圖面調製ノ手数料及請求手續ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一條 印刷書類拂下代價ハ明細書一部ニ付金貳錢五厘特許公報一部ニ付金拾五錢商標公報一部ニ付金貳錢五厘トス

第二條 書類ノ原本手数料ハ三行二十五字詰一枚ニ付金拾錢トス但字數一枚ニ滿リルモノハ一枚ヲ以テ算ス

第三條 圖面調製手数料ハ一枚ニ付金貳拾錢以上金五圓以下ニ於テ調製ノ難易ニ從ヒ特許局長ノ定ムル所ニ依ル(二十三年三月農商務省告示第一號)

第四條 印刷書類ノ拂下ヲ望ム者ハ帝制人東京市京橋區八宮町十三番地彦根正三ニ就テ購入スヘシ(二十一年四月農商務省告示第三號ヲ以テ本條ヲ改正ス)

第五條 書類ノ原本又ハ特許條例第三十三條ニ依リ圖面ノ調製ヲ請求スル者ハ請求書ヲ提出スヘシ但圖面ノ調製ヲ請求スル者ハ其發明ノ雛形見本又ハ粗圖ニ明細書ヲ添ヘテ提出スヘシ尤モ審査用ノ爲メ既ニ其發明ノ雛形見本又ハ粗圖並明細書ヲ提出シタルモノハ之ヲ添フルニ及ハス(上同)

第六條 意匠條例第二十五條ニ依リ圖面ノ調製ヲ請求スル者ハ其意匠登錄證ノ番號及日附ヲ請求書ニ記載シテ提出スヘシ

第七條 手数料ハ現金又ハ爲換券ヲ以テ當省會計局ヘ納ムヘシ但東京市内ニ限リ納入告知書ヲ發送スヘシ(上同)

●沿革要領

明治四年四月七日布告ヲ以テ專賣規則ヲ定ム○五年三月第百五號布告ヲ以テ新發明品專賣免許ノ布告ヲ停止ス○明治十八年四月第七號布告ヲ以テ專賣特許條例ヲ制定シ四年四月七日布告專賣規則及五年三月第百五號布告ヲ廢止ス○同月第五號布告ヲ以テ專賣特許手續ヲ定ム○四月農商務省告示第六號ヲ以テ專賣特許ニ關スル諸願書及明細書文例ヲ定ム○同月同省告示第七號ヲ以テ專賣特許發明品標記方ヲ定ム○十九年九月同省告示第十號ヲ以テ前布告中ヲ改正ス○同月同省告示第十七號ヲ以テ十八年告示第六號中ヲ改正ス○二十年四月勅令第八號ヲ以テ條例第七條中ヲ改正ス○同年五月農商務省告示第一號ヲ以テ十八年第五號布告中ヲ改正ス○同月同省告示第三號ヲ以テ專賣特許ニ關スル諸願書式明細書及圖面用紙格式等ヲ定ム十八年告示第六號ヲ廢止ス○同月同省告示第八號ヲ以テ專賣特許ノ通知ヲ得タルトキ取扱方ヲ北海道府縣ニ令ス○二十一年十二月勅令第八十四號ヲ以テ特許條例ヲ頒布シ專賣特許條例ヲ廢止ス○同月勅令第二十三號ヲ以テ特許條例意匠條例商標條例ノ特許料登錄料及手数料ハ登記印紙ヲ以テ納メシム○二十二年一月農商務省告示第一號ヲ以テ特許條例施行細則ヲ定ム

○意匠條例 二十一年十二月十八日 勅令第八十五號

朕意匠條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第八十五號

意匠條例

第一條 工業上ノ物品ニ應用スヘキ形狀摸樣若クハ色彩ニ係ル新規ノ意匠ヲ按出シタル者ハ此條例ニ依リ其意匠ノ登録ヲ受ケ之ヲ專用スルコトヲ得

第十六條 第一章 意匠

第二條 左ニ掲クル意匠ハ登録ヲ受クルコトヲ得サルモノトス

一 風俗ヲ害スヘキモノ

二 登録出願以前公ニ知ラレ又ハ公ニ用ヒラレタルモノ

第三條 意匠ノ登録ヲ受ケント欲スル者ハ一意匠毎ニ明細書及圖面ヲ添へ農商務大臣ニ出願スヘシ但其願書明細書及圖面ハ特許局ニ差出ヌヘシ

第四條 意匠ノ登録ヲ出願スル者アルトキハ特許局長ハ特許局審査官ヲシテ其意匠ヲ審査セシメ登録ヲ許スヘシト査定シタルモノハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ意匠原簿ニ登録シ其登録證下付ノ手續ヲ爲スヘシ

第五條 登録證ハ農商務大臣之ニ署名シ特許局長之ニ副署シ明細書及圖面ヲ添へ之ヲ下付スルモノトス

第六條 意匠専用ノ年限ハ三年五年七年及十年ノ四種ト爲シ原簿登録ノ日ヨリ起算ス

第七條 意匠ノ専用ハ農商務大臣ノ定ムル物品類別ニ於テ出願人ノ指定シタル物品ニ限ルモノトス

第八條 二人以上同一又ハ類似意匠ノ登録ヲ出願スル者アルトキハ願書日附ノ先ナルモノヲ登録ス其日附同キモノハ共ニ之ヲ登録セサルモノトス但出願人協議ノ上連名ニテ其登録ヲ出願スルトキ又ハ其出願ヲ取消ス者アリテ出願者一人トナリタルキハ此限ニ在ラス
第九條 意匠ノ登録ヲ受ケタル者又ハ之ヲ受ケントスル者死亡シタルトキハ其權利ハ相續

者ニ屬スルモノトス

第十條 他人ノ委託又ハ雇主ノ費用ヲ以テ按出シタル意匠ノ登録出願ノ權利ハ其委託者若クハ雇主ニ屬ス但別ニ契約アル場合ニ於テハ此限ニ在ラス

第十一條 登録ヲ受ケタル意匠ト雖モ第二條ニ該ルコトヲ發見セラレタルモノ又ハ第八條第十條ニ違ヒ登録ヲ受ケタルコトヲ發見セラレタルモノハ其登録ヲ無効トス

第十二條 意匠ノ審査査定審判ニ關スル事項ハ總テ特許條例ヲ適用ス

第十三條 意匠専用權ハ制限ヲ附シ若クハ附セスシテ賣與讓與シ若クハ共有トナシ又ハ書入ト爲スコトヲ得此場合ニ於テハ特許局ニ請求シ契約ノ登録ヲ受クヘシ登録ヲ受ケサル契約ハ第三者ニ對シ法律上其効ナキモノトス

第十四條 特許局ノ官吏ハ在職中意匠ノ登録ヲ出願シ又ハ意匠専用權ヲ新ニ有スルコトヲ得ス但相續ニ由リ意匠専用權ヲ新ニ有スルハ此限ニ在ラス

第十五條 登録意匠主其登録證ヲ毀損若クハ亡失シタルトキハ事由ヲ具シ再下付ヲ出願スルコトヲ得

第十六條 登録意匠主其明細書若クハ圖面ノ不完全ナルコトヲ發見シタルトキハ登録ノ効力ヲ全クスル爲メ改訂明細書若クハ圖面ヲ添へ登録證ノ改訂ヲ出願スルコトヲ得但其意匠ニ變更ヲ生スルモノハ此限ニ在ラス

第十七條 登録意匠主ハ其意匠ヲ應用シタル物品ニ農商務大臣ノ定メタル登録標記ヲ爲ス

ヘシ

第十八條 意匠ニ關シ出願又ハ請求スル者ハ左ノ手数料ヲ納ムヘシ

一 意匠ノ登録ヲ出願スル者

一 意匠ニ付物品一類毎ニ 金五拾錢

二 登録意匠ノ賣與讓與共有又ハ借入契約ノ登録ヲ請求スルトキ

一 意匠ニ付物品一類毎ニ 金三圓

三 登録證ノ再下付ヲ出願スルトキ

證書一枚毎ニ 金壹圓

四 登録證ノ改訂ヲ出願スルトキ

一 意匠ニ付物品一類毎ニ 金貳圓

五 審判ヲ請求スルトキ

一 事件毎ニ 金七圓

第十九條 意匠登録證又ハ其改訂登録證ヲ受クル者ハ意匠ヲ應用スル物品一類毎ニ左ノ區別ニ從ヒ登録料ヲ納ムヘシ

一 三年ノ専用 金壹圓

二 五年ノ専用 金貳圓

三 七年ノ専用 金四圓

四 十年ノ専用

金八圓

第二十條 登録意匠ニ關スル書類ノ謄本若クハ圖面ノ翻製ヲ要スル者ハ特許局ニ之ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ相當ノ手数料ヲ納ムヘシ

第二十一條 登録意匠ノ専用權ヲ侵シタル者ハ其意匠主ニ對シ損害賠償ノ實ニ任スヘシ

第二十二條 前條損害賠償ノ實ハ三年ヲ以テ期滿免除ノ期トス

第二十三條 他人ノ登録意匠ナルコトヲ知り之ヲ同一物品ニ應用シテ之ヲ販賣シタル者又ハ情ヲ知リテ其物品ヲ受託販賣シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

登録意匠主ノ權利ヲ侵スヘキ物品ナルコトヲ知り之ヲ外國ヨリ輸入シテ販賣シタル者又ハ情ヲ知り其物品ヲ受託販賣シタル者ハ罰前項ニ同シ

詐欺ノ所爲ヲ以テ登録證ヲ受ケタル者又ハ登録ヲ受ケサル意匠ヲ應用シタル物品ニ登録標記若クハ類似ノ標記ヲ爲シテ販賣シタル者又ハ情ヲ知り其物品ヲ受託販賣シタル者ハ罰前項ニ同シ

第二十四條 前條第一項第二項ノ場合ニ於テハ其犯罪ノ物件ヲ沒收シテ登録意匠主ニ給付シ其既ニ賣捌キタルモノハ代價ヲ追徴シテ之ヲ給付ス

第二十五條 第二十三條第一項第二項ノ犯罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス
前項ノ場合ニ於テ告訴人ノ請求ニ依リ裁判官ハ假ニ其告訴ニ係ル物品ノ販賣ヲ差止ムル

第十六類 第一章 意匠

コトヲ得

第二十六條 登録意匠主第十七條ノ登録標記ヲ爲スコトヲ怠リタルトキハ告訴又ハ要償ノ訴ヲ爲スコトヲ得ス

第二十七條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪併發ノ例ヲ用ヒス

第二十八條 此條例施行ノ細則ハ農商務大臣之ヲ定ム

第二十九條 此條例ハ明治二十二年二月一日ヨリ施行ス

○意匠條例施行細則 農商務省令第二號

意匠條例施行細則ヲ定ムルコト別冊ノ如シ

(別冊)

意匠條例施行細則

第一條 意匠條例ニ依リ差出ス願書ハ第一號ヨリ第七號ニ至ル書式ニ從ヒ之ヲ認メ同條例第十八條ノ手数料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用スヘシ

第二條 明細書ニハ明細書支例ニ準シ左ノ諸件ヲ記載シ圖面ニ通テ添フヘシ

- 一 意匠ノ名稱
 - 二 意匠ヲ應用スル物品ノ類別及名稱
 - 三 意匠ノ詳細説明
 - 四 專用權請求ノ區域
- 第三條 圖面ニハ製圖例ニ準シ意匠ヲ明テ示シムルニ必要ナル部分ヲ示スヘシ
寫眞ヲ以テ意匠ヲ示スコトヲ得ルモノハ之ヲ圖面ニ代用スルコトヲ得

第四條 意匠登録願書ハ其意匠ヲ應用スヘキ物品類別一類毎ニ各別ニ差出スヘシ

第五條 意匠登録願書及明細書圖面ヲ受理シタルトキハ特許局長ハ出願人ニ領收證ヲ送付シ願書ノ日附ヨリ三十日ヲ經タル後願書日附ノ順ニ從ヒ審査官ヲシテ其審査ニ着手セシムヘシ

第六條 意匠條例第十六條ニ依リ意匠登録證ノ改訂ヲ願出ルトキハ其理由ヲ記載シタル願書ニ改訂明細書一通若クハ圖面二通ヲ添ヘ現意匠登録證並ニ附屬ノ明細書圖面ト共ニ差出スヘシ

第七條 審査官ニ於テ願書明細書圖面等ニ關シ訂正又ハ照會ヲ要スルトキハ特許局長ハ其旨ヲ出願人ニ通知シ通知ノ日附ヨリ六十日以内ニ訂正書訂正圖面又ハ回答書ヲ差出サシムヘシ此期限内ニ差出サハルトキハ出願ヲ無効トス(三十日農商務省令第八號)ヲ以テ本條ヲ改正ス

第八條 出願人其出願中ニ係ル願書明細書圖面等ニ過誤アルコトヲ發見シタルトキハ意匠ニ變更ヲ生セサルモノニ限リ其訂正ヲ請求スルコトヲ得但査定書若クハ登録通知書ヲ發シタル後及審判中ニ係ルモノ、訂正ハ特許局長ニ於テ必要ト認メタルモノ、外之ヲ許サス

第九條 再審査及審判ニ關スル事項ハ總テ特許條例施行細則ヲ適用ス

第十條 意匠ノ登録ヲ許可スルトキハ特許局長ハ登録料納付用紙ヲ添ヘテ登録通知書ヲ出願人ニ送付スヘシ

出願人前項ノ通知書ヲ受ケタルトキハ登録料納付用紙ニ意匠條例第十九條ノ登録料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シ明細書二通圖面二通ヲ添ヘ通知書ノ日附ヨリ六十日以内ニ差出スヘシ此期限内ニ差出サハルトキハ出願ヲ無効トス

第十一條 出願人登録料ヲ納付シタルトキハ特許局長ハ其納付ノ日ヲ以テ意匠原簿ニ登録シ其旨ヲ出願人ニ通知シ十五日以内ニ意匠登録證ヲ送付スヘシ

第十二條 意匠登録證ハ第八號書式ニ依リ調製シ意匠原簿登録ノ日ヲ以テ其日附ト爲シ改訂意匠登録證ハ第九號書式ニ

第十六類 第一章 意匠

依リ調製シ許可ノ日ヲ以テ其日附ト爲ス(同上)追加)

意匠條例第十五條ノ場合ニ於テ意匠登録證ヲ下付スルトキハ特許局長ハ其事由並ニ下付ノ年月日ヲ取替シ之ニ署名ス(同上ヲ以テ本) (項中削除ス)

第十三條 出願人他人ノ記名又ハ他人ト連名ニテ意匠登録證ヲ受ケント欲スルトキハ意匠原簿登録ノ日マテニ其旨ヲ申出ツヘシ

第十四條 意匠條例第十三條ニ依リ賣與、讓與共有又ハ借入ノ登録ヲ請求スルトキハ第十號及第十一號書式ニ從ヒ請求書ヲ認メ同條例第十八條ノ手数料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シ約定書ヲ添ヘテ提出スヘシ(同上ヲ以テ本) (條中訂正ス)

前項ノ請求アルトキハ特許局長ハ其約定書ヲ契約原簿ニ登録シ約定書ニ登録済ノ證印ヲ捺シテ之ヲ請求人ニ送付スヘシ

第十五條 登録意匠主ハ意匠條例第十七條ニ依リ其意匠ヲ應用シタル物品又ハ其上包等ニ登録意匠ノ四字意匠登録證ノ日附及專用ノ年限ヲ標記スヘシ

第十六條 意匠專用權ヲ相續シタルトキ又ハ登録意匠主氏名ヲ變換シタルトキハ三十日以内ニ其旨ヲ届出ツヘシ

第十七條 意匠ノ登録又ハ意匠登録ノ改訂ヲ許可シタルトキ又ハ意匠ノ登録ヲ無効トシタルトキ其他登録意匠ニ關シ必要ノ場合ニ於テハ特許局長ハ官報並ニ特許公報ヲ以テ之ヲ廣告スヘシ

第十八條 意匠條例第七條ノ物品類別ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 第一類 衣服
- 衣裳、外套、褌、衣、帶、領、領飾、領卷、肩掛等
- 第二類 頭飾、服飾帽子
- 飾、髮、假掛等○胸飾、胸環、指環、釦、釦等○各種ノ帽子
- 第三類 時計及其附屬品

秋時計、置時計、掛時計、鎖下ケ物等

第四類 傘、杖及履物類

各種ノ傘、杖○下駄、草履、靴等

第五類 携帶品

烟具、肩懷中物、手提等

第六類 家具

棚、箆、机、椅子、卓子、寢蓆等

第七類 敷物

段道、油圓、花蓆其他各種ノ敷物

第八類 燈燭及其附屬品

火鉢、燈燭、烟草盆、炭取、石炭入、火箸等

第九類 點燈器

行燈、燭燐、手燭、燈籠、ランプ、瓦斯燈、電氣燈等

第十類 建築附屬品

障戸、扇、柵、柵干等

第十一類 織物及他類ニ屬セサル織物製品

絹、綿、麻、毛等各種ノ織物○服紗、手巾、窓掛、車被等

第十二類 他類ニ屬セサル編物組物

レース、打紐、飾絲等

第十三類 他類ニ屬セサル漆器(假漆、油、漆、油、漆等)ニ屬ス

第十六類 第一章 意匠

- 飲食器、手箱、香合等
- 第十四類 他類ニ屬セサル陶器(煉化石瓦等モ之ニ屬ス)
- 飲食器、花瓶、香爐等
- 第十五類 他類ニ屬セサル玻璃
- 飲食器、教様玻璃等
- 第十六類 他類ニ屬セサル七寶
- 花瓶、香爐、手箱、香合等
- 第十七類 他類ニ屬セサル金屬製品
- 貴金屬、賤金屬及合金ノ各種製品
- 第十八類 他類ニ屬セサル石材製品
- 寶石其他石類ノ各種製品
- 第十九類 他類ニ屬セサル木、竹、牙、角類製品
- 盆箱、花器、籠籠、籠籠、柱、茶托、箸、碗、屏、墨、筆、筆筒等
- 第二十類 紙及他類ニ屬セサル紙製品
- 教紙、摺草紙、襖紙、壁紙、表紙、色紙、短冊、紙、箋等○掛簡筒、文匣、一閑張等
- 第二十一類 皮革及他類ニ屬セサル皮革製品
- 各種ノ教草○文匣、馬具等
- 第二十二類 他類ニ屬セサル物品
- 第十九條 特許條例施行細則第十三條第四十四條第四十五條第四十六條第四十七條第四十八條第四十九條第五十條及第五十一條ハ此細則ニモ之ヲ適用ス(同上ヲ以テ本條中加除ス)

書式用紙、美濃紙十三行二十五字詰

第一號 意匠ノ登録ヲ願出ルトキ

意匠登録願

一何々 意匠ノ名稱 此處ニ登記印紙ヲ貼用シテ消印スヘシ

右ハ別紙明細書及圖面(寫眞)ノ通ノ意匠ニシテ私(私共)ノ按出候モノニ有之意匠條例ニ觸レサルモノト確信候間何箇年ノ登録相受度此段相願候也

本籍(及現住所)

年月日 按出者 氏 名 印

二名以上ナルトキハ各署名捺印スヘシ以下總テ此例ニ依ル

農商務大臣氏名殿

第二號 意匠按出者他人ト連名ノ意匠登録證ヲ受ケントシテ登録ヲ願出ルトキ

意匠登録願

一何々 意匠ノ名稱 此處ニ登記印紙ヲ貼用シテ消印スヘシ

右ハ別紙明細書及圖面(寫眞)ノ通ノ意匠ニシテ私

第十六類 第一章 意匠

(私共)ノ按出候モノニ有之意匠條例ニ觸レサルモノト確信候間何箇年ノ登録相受度尤登録證ノ儀ハ何某本籍ヲモ

年月日 按出者 氏 名 印

本籍(及現住所)

農商務大臣氏名殿

第三號 意匠按出者他人ノ記名ニテ意匠登録證ヲ受ケントシテ登録ヲ願出ルトキ

意匠登録願

一何々 意匠ノ名稱 此處ニ登記印紙ヲ貼用シテ消印スヘシ

右ハ別紙明細書及圖面(寫眞)ノ通ノ意匠ニシテ私(私共)ノ按出候モノニ有之意匠條例ニ觸レサルモノト確信候間何箇年ノ登録相受度尤登録證ノ儀ハ何某本籍ヲモ

年月日 按出者 氏 名 印

本籍(及現住所)

農商務大臣氏名殿

第四號 相續者ヨリ意匠ノ登録ヲ願出ルトキ

意匠登録願

一 何々 意匠ノ名稱 此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ

右ハ七何某ノ按出ニ係リ私相續候處別紙明細書及圖面(寫眞)ノ通ノ意匠ニシテ意匠條例ニ觸レサルモノト確信候間何箇年ノ登録相受度此段相願候也

本籍(及現住所)

按出者七何某相續者

年月日 登録願人 氏 名 印

農商務大臣氏名殿

八百三十八

第五號 他人ノ按出ニ係ル意匠ノ登録ヲ願出ルトキ

意匠登録願

一 何々 意匠ノ名稱 此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ

右ハ別紙明細書及圖面(寫眞)ノ通ノ意匠ニシテ私(私共)當會社(當組合)ヨリ何某(本籍ヲモ記スヘシ)ニ託シ按出セシメタルモノニ有之意匠條例ニ觸レサルモノト確信候間何箇年ノ登録相受度此段相願候也

本籍(及現住所)

年月日 登録願人 氏 名 印

農商務大臣氏名殿

第六號 意匠登録証ノ再下付ヲ願出ルトキ

意匠登録証再下付願

一 第何號意匠登録証

一 何々 登録意匠ノ名稱ヲ掲クヘシ

一 按出者氏名

右私(私共)所有意匠登録証何々(事由ヲ記スヘシ)ニ依リ毀損(亡失)候ニ付意匠登録証再下付相成度此段相願候也

本籍(及現住所)

年月日 登録意匠主 氏 名 印

農商務大臣氏名殿

第七號 意匠登録証ノ改訂ヲ願出ルトキ

意匠登録証改訂願

一 第何號意匠登録証

一 何々 意匠ノ名稱ヲ掲クヘシ

一 按出者氏名

右私(私共)所有意匠登録証附屬ノ明細書(圖面又ハ寫眞)中何々(事由ヲ記ノ爲メ登録ノ效力ヲ全クシ難キニ付別紙之通改訂致度尤之カ爲メ意匠ノ要部ニ變更ヲ生スル儀無之候間改訂意匠登録証下付相成度別紙改訂明細書(改訂圖面又ハ寫眞)並ニ現意匠登録証及附屬明細書(圖面又ハ寫眞)相添此段相願候也

本籍(及現住所)

年月日 登録意匠主 氏 名 印

農商務大臣氏名殿

第八號 意匠登録(同上ヲ以テ)願出式(書式中削除)

第何號 意匠登録願

第十六類 第一章 意匠

表

何々(意匠ノ名稱) 氏 名

意匠條例ニ據リ前記ノ意匠ヲ登録シ本證附屬明細書ノ請求區域ニ對シ右記名ノ者ニ何年間專用權ヲ與フルモノ也

年月日 農商務大臣 氏 名 印

特許局長 氏 名 印

裏

何々下付ノ申由

年月日 特許局長 氏 名 印

第九號 改訂意匠登録証書式

(二十三年八月農商務省令第九號ヲ以テ追加ス)

八百三十九

第何號

改訂意匠登錄證

本籍(及現住所)

何々(意匠ノ名稱)

氏 名

意匠條例ニ據リ(何某ニ)明治何年何月何日何年間ノ專用權ヲ與ヘタル登錄意匠ニ對シ本館附屬明細書圖面ノ通改訂ヲ許可スルモノ也

年月日

農商務大臣 氏 名 印

特許局長 氏 名 印

第十號 登錄意匠ノ賣與(讓與)共有又ハ(同上ヲ以テ)第... 書入ノ登錄ヲ請求スルトキ (十號ト改ム)

登錄意匠賣與(讓與)共有此處ニ登記印紙ヲ又ハ書入(登錄)請求書 貼用シ消印スヘシ

一 第何號意匠登錄證

一 何々(登錄意匠ノ名稱)ヲ掲クヘシ

一 按出者氏名

右私(私共)所有登錄意匠ヲ別紙約定書之通賣與(讓與)共有又ハ書入(候間)登錄相成度約定書相添此段請求候也

本籍(及現住所)

年月日

登錄意匠主 氏 名 印

本籍(及現住所)

買受(讓與)共有 人 氏 名 印

特許局長 氏 名 印

第十一號 書入中ノ登錄意匠ノ賣與(讓與)共有(同上ヲ以テ)第... 有又ハ書入ノ登錄ヲ請求スルトキ (十一號ト改ム)

登錄意匠賣與(讓與)共有此處ニ登記印紙ヲ又ハ書入(登錄)請求書 貼用シ消印スヘシ

一 第何號意匠登錄證

一 何々(登錄意匠ノ名稱)ヲ掲クヘシ

一 按出者氏名

右私(私共)所有登錄意匠ハ何年何月何日附ノ約定書ニ依リ何某(本籍ヲモ)書入致置候處今般別紙約定書之通賣與(讓與)共有又ハ書入(候間)登錄相成度約定書相添此段請求候也

本籍(及現住所)

年月日

登錄意匠主 氏 名 印

本籍(及現住所)

買受(讓與)共有 人 氏 名 印

特許局長 氏 名 印

明細書文例

(備考)

一 明細書ハ美濃紙ニツ折ニシテ上部曲尺一寸下部八分左二分綴料一寸ヲ餘シ楷行ノ内ヲ以テ十三行二十五字詰ニ認ムヘシ

二 明細書ニハ此細則第二條ニ掲ケタル諸件ノ外必要ナラサル事項ヲ記載スヘカラス

三 明細書ハ書損ナキ様認ムヘシ若シ書損アリテ挿入又ハ削除スルトキハ其上部ニ存スル餘白ニ第何行第何字目何々ノ下何々ノ上何々ノ何字ヲ加ヘ又ハ除クトカ或ハ何々ノ字ヨリ何々ノ字ニ至ル何字ヲ何々ノ何字ニ改ムト記シテ認印スヘシ紙ヲ糊付シテ書損ノ部分ヲ掩ヒ其上ニ書改ムル等ノコトヲ爲スヘカラス但削除スヘキ文字ニハ一ノ縦線ヲ引キ其字體ヲ存スヘシ

四 明細書ニハ其末尾ニ出願人署名捺印スヘシ本館現住所年月日及宛名ハ之ヲ記載スヘカラス

製圖例

(備考)

第十六類 第一章 意匠

- 一 圖面ハ禁水引ノ純白ナル美濃紙ヲ用ヒ凡ソ其上部曲尺一寸下部八分左三分右一寸五分ヲ餘シ際曲尺七寸二分横四寸六分ノ内ニ之ヲ認メ其内左右ノ下部ニ於テ圖面ニ妨ケナキ所ニ出願人署名捺印スヘシ本籍(現住所)年月日及宛名ハ之ヲ記載スヘカラス
- 二 圖面ヲ製スルニ其紙ノ横ヲ際ニ用フルハ妨ケナシト雖モ同一ノ紙面ヲ堅横混合シテ用フヘカラス
- 三 圖面ハ成ルヘク一枚ニ認メ已ムヲ得サル場合ノ外其紙數ヲ増加スヘカラス
- 四 意匠ノ名稱ハ圖面中ニ記載スヘカラス
- 五 圖面ハ色彩ニ係ルモノ、外一切着色スヘカラス
- 六 圖ノ離レタルモノハ一箇毎ニ第一圖第二圖ト番號ヲ付シ又一部分ニシテ數圖ニ互ルモノアレハ必ス同一ノ符號ヲ用フヘシ但番號及符號ハ圖ノ妨ケトナラサル様濃墨ニテ明瞭ニ記スヘシ
- 七 符號ヲ直ニ圖ニ施スコト能ハサル場合ニハ其部分ヨリ少シク離シテ符號ヲ記シ極小ノ點線ヲ以テ其部分ト符號トヲ接續スヘシ陰ヲ施シタル上ニ符號ヲ記スヘカラス已ムヲ得スシテ陰ノ上ニ施ストキハ其部分

明細書

燧爐ノ意匠

此意匠ヲ應用スル物品ハ第八類中襖狀燧爐トス
 此意匠ハ別紙圖面ニ示シ且ツ左ニ逐一記載スル如
 キ新規ナル各部分其組合トヲ包括ス
 一 部ヲ扉ハノ裝飾方トス即チ圓狀ノ通風版ニ下
 部兩隅ノ菊花形ト上部兩隅ノ葉形ト中間ナル
 四分菊花形ノ裝飾トヨリ成ルモノナリ
 一 部ハ燧爐中ノナル部分ノ形狀ト裝飾方トニ係リ
 突縁ト上ニ向テ漸ク歛小スル凸曲面ヲ有シ且ツ
 上端ニ鋸齒狀ノ模様ヲ附ケタル帶ハヲ具フル部分
 リト截頭圓錐狀ノ環ト四分圓狀凹曲面ヲ有スル
 環ト半圓狀菊花形ヲ並列シタル環ト四分圓狀
 凸曲面ヲ有スル環トト環版トヨリ成ル
 一 部ハ燧爐ノ脚ノ形狀ト裝飾方トニ在リ即チ葉形
 ねヲ有シ且ツ相會シテ角ヲ成ス所ノ上部側版トト
 菊花形及ヒ葉形ノ裝飾ヲ有スル下部トヨリ成
 ル
 燧爐ノ體部ニ屬スル意匠ハ別紙圖面ニ示シタル如

八 燧爐ノ意匠ハスニハ線間凡ソ三厘ヲ離シタル平行線
 ヲ斜ニ引クヘシ又裁斷面中部分ヲ異ニスルモノハ各
 方向ノ差ヒタル斜線ヲ用フヘシ
 九 活版ニ應用スヘキ文字及記號ノ形狀ニ係ル意匠ノ圖
 面ヲ製スルニハ左ノ心得ニ依ルヘシ
 一 片假名平假名數字若クハ羅馬字ノ如キ數ニ定限
 アル文字等ノ形狀ニ係ル意匠ナルトキハ其各字形等
 ノ全體ヲ示スヘシ
 一 漢字ノ如キ數ニ定限ナキ文字ノ形狀ニ係ル意匠
 ナルトキハ其各字形ノ全體ヲ示スヲ要セス唯之ヲ構
 成スル部分即チ偏旁冠冠等ノ各種類ヲ舉ケテ其形
 狀ヲ示スヘシ若シ又偏旁等ノ一部分ヲ以テ示シ難
 キ文字全體ノ形狀ニ係ル意匠ナルトキハ其全體ヲ推
 知スルニ足ルヘキ若干ノ字例ニ依テ之ヲ示スヘシ
 一 文字ノ全體又ハ偏旁等ニ關セス唯其點畫ニ屬ス
 ル形狀ニ係ル意匠ナルトキハ各種點畫ノ形狀並ニ之
 ヲ以テ組成セル文字ノ全體數種ヲ示スヘシ

第一類ノ意匠ヲ記
載シタル一例

キ形狀ト裝飾トヲ具フルものは兩部分ヨリ成リ其は
 ナル部分ハこれヲノ諸部分ヲ有ス
 本意匠ノ全體ハ扉ハト是は兩部分ト脚トヲ包含ス
 但シ此等諸部分ノ形狀及ヒ裝飾方ハ燧爐ノ全體ヲ
 シテ恰モ別紙圖面ニ示シタル觀ヲ呈セシムル如ク
 スルモノトス
 此意匠ノ專用權ヲ請求スル區域ヲ左ニ掲ク

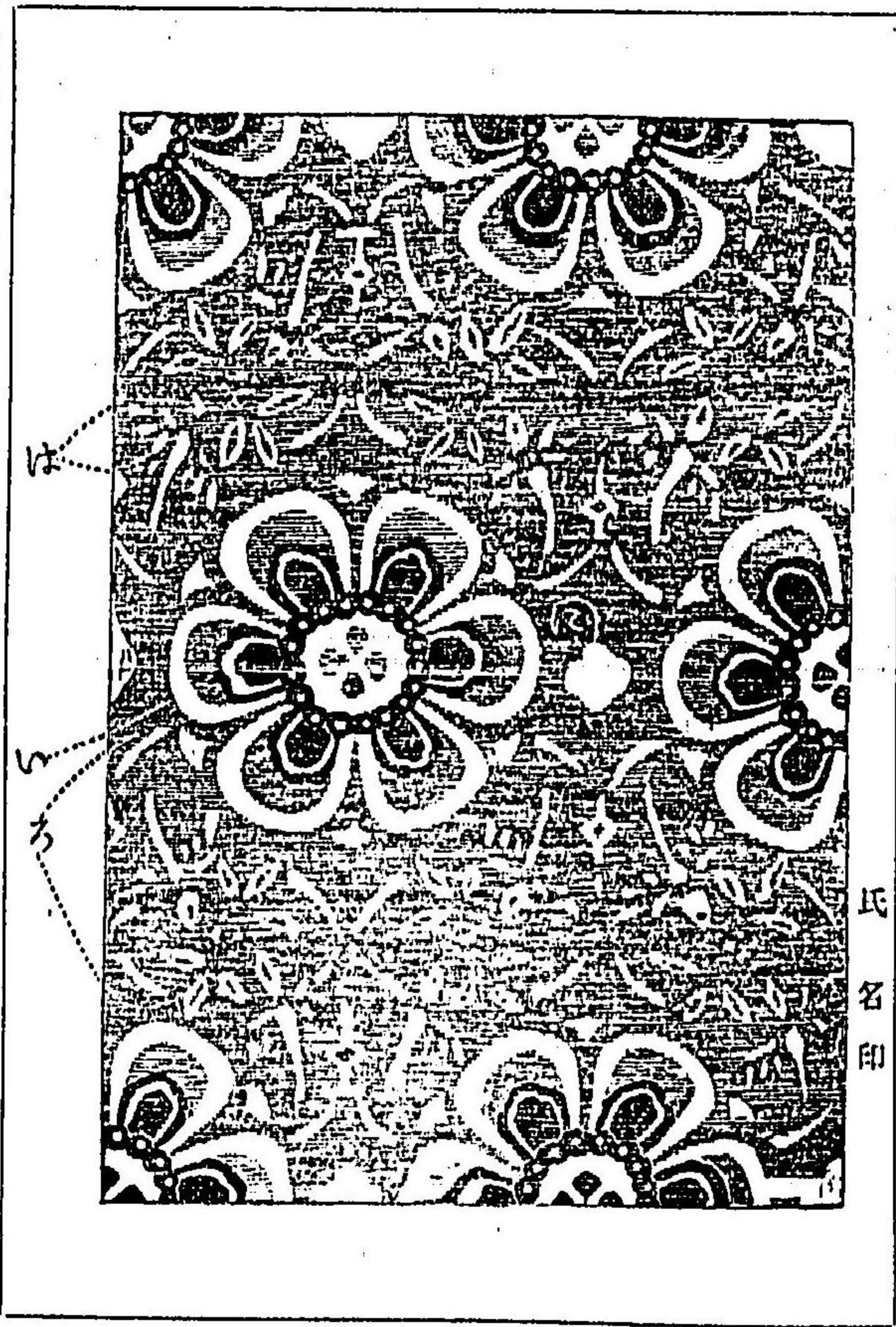
- 一 燧爐ノ意匠中別紙圖面ニ示ス如ク通風版ニト
 菊花形ト葉形ト四分菊花形トヨリ成ル
 扉ハノ裝飾方
- 二 燧爐ノ意匠中前記ノ如クちりぬるをわかよノ
 諸部分ヨリ成ル部分ノ形狀及ヒ裝飾方
- 三 燧爐ノ意匠中別紙圖面ニ示シ且ツ前記スル
 如キつねならノ諸部分ヨリ成ル脚ノ形狀及ヒ
 裝飾方
- 四 前記ノ如キ形狀及ヒ裝飾ヲ有スルものは兩部分
 ヲヨリ成ル燧爐ノ體部ノ意匠
- 五 前記ノ如キ形狀及ヒ裝飾ヲ有スル扉ハト是は
 兩部分ト脚トヨリ成ル全體ノ意匠

氏 名 印

第十六類 第一章 意匠

又ハ

會社(組合)名 社 印
 社(組)長又ハ重役 氏 名 印
 會社又ハ組合ヨリ抽出ス明細書及
 圖面ノ署名方ハ總テ此例ニ依ル



係ル
此意匠ノ専用權ヲ請求スル區域ヲ左ニ掲ク
一別紙圖面ニ示シ且ツ前ニ記スル如キ唐草ヲト
寫ハトヨリ成ル際キ模様

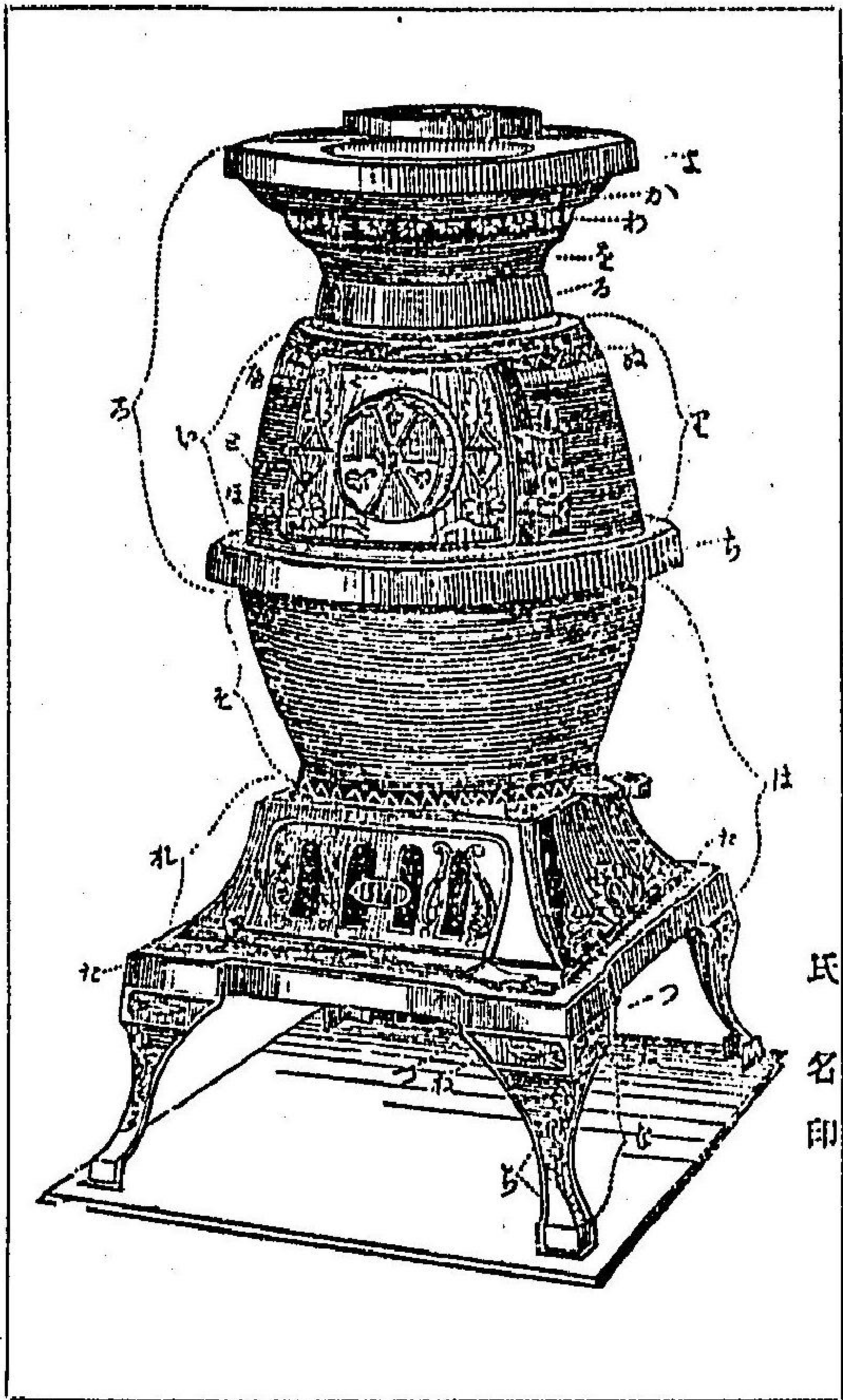
氏名印

二前記ノ二重六瓣花紋ハ前起ノ模様ニテ際キ
且ツ横列セル花紋ノ間ニ木瓜形にテ置キテ成
ル全體ノ意匠

氏名印

第二模倣ノ意匠ヲ記
載シタル一例

明細書
織物模倣ノ意匠
此意匠ヲ應用スル物品ハ第十一類中一切ノ織物ト
ス



氏名印

此模倣ハ別紙圖面ニ示ス如ク形状相同シク且ツ大
イサ相等シキニ重六瓣ノ花紋ハノ縦列スル距離ヲ
其横列スル距離ノ二倍トシ相隣接セル四花毎ニ菱
形ヲ爲スノ位置ニ之ヲ配リ唐草模様及ヒ一對ツ
ハ斜メニ向ヒ合ヒタル鳥模倣ハニテ之ヲ際キ更ニ
木瓜形にテ横列セル花紋ノ間ニ置キテ成ルモノニ

第三時繪ノ意匠ヲ記
載シタル一例

明細書
時繪ノ意匠

此意匠ヲ應用スル物品ハ第十三類中香合トス
此時繪ハ九香合ノ裏裏ニ施スモノニシテ拾遺和歌
集ニ載スル所ノ賀之ノ歌「おもひかねいもかりゆ
けは冬の夜の川かせざむかちざりなかり」ノ意
ヲ畫ト文字トニテ表ハシタルモノニ係ル
此圖様ハ蓋ノ裏面(通常黒漆地)ニ時繪(通常金ノ
平時繪)ニテ三羽ノ千鳥ノ飛フ狀ヲ別紙圖面中
いゝノ如ク描キ其下ニ時繪(通常金ノ平時繪)ニ
テ小波ヲ圖中ノ如ク顯ハシ其直上ニ右歌ノ中ノ
詞「冬の夜」ノ三字ヲ(通常平嵌ノ銀金買ニテ)圖中
ハノ如ク嵌入シテ成ル又蓋ノ裏面ニハ表面ノ千鳥
ト同一ノ時繪ニテ三羽ノ千鳥ノ飛フ狀ヲ圖中
ノ如ク描クナリ
此意匠ノ専用權ヲ請求スル區域ヲ左ニ掲ク
一前記ノ如ク香合ノ蓋ノ裏面ニ三羽ノ千鳥ノ飛
フ狀ヲ描キ其下ニ小波ヲ顯ハシ小波ノ直上ニ
「冬の夜」ノ三字ヲ記シタル圖様

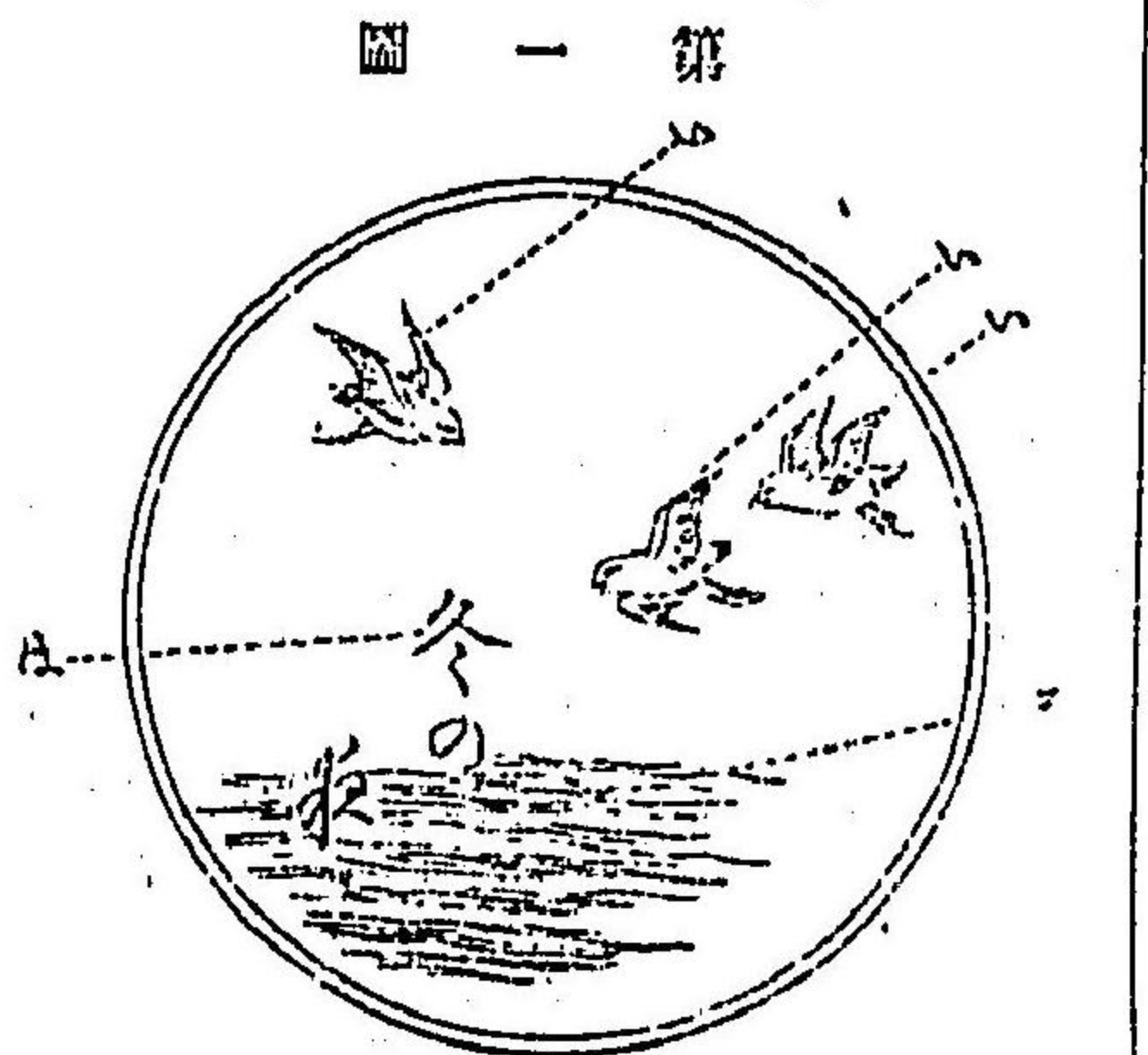
二第一項ノ意匠ヲ施シタル香合ノ蓋ノ裏面ニ前
記ノ如ク三羽ノ千鳥ノ飛フ狀ヲ描キタル圖様
氏名印

第四色彩ノ意匠ヲ記
載シタル一例

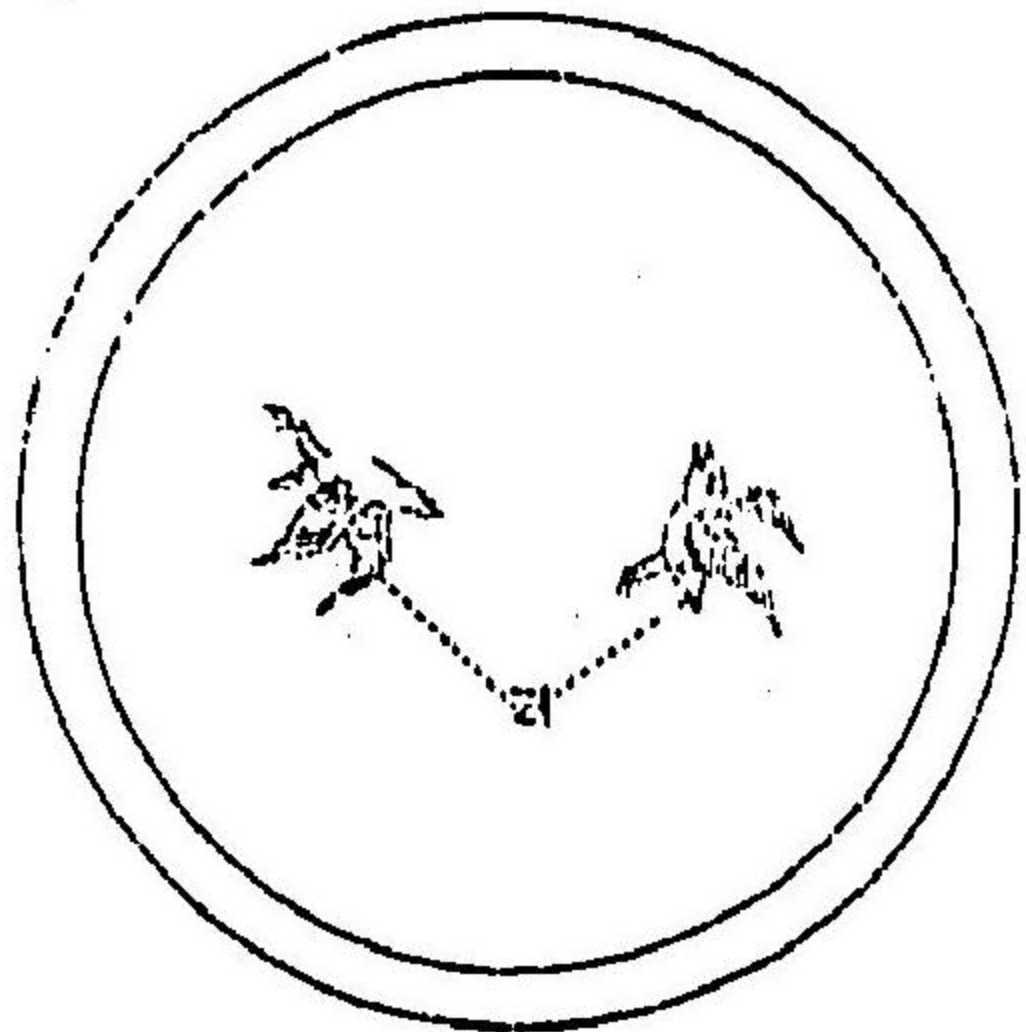
明細書

織物色彩ノ意匠
此意匠ヲ應用スル物品ハ第十一類中絹織物、綿織
物及ヒ交織物トス

第十六類 第一章 意匠



第一圖

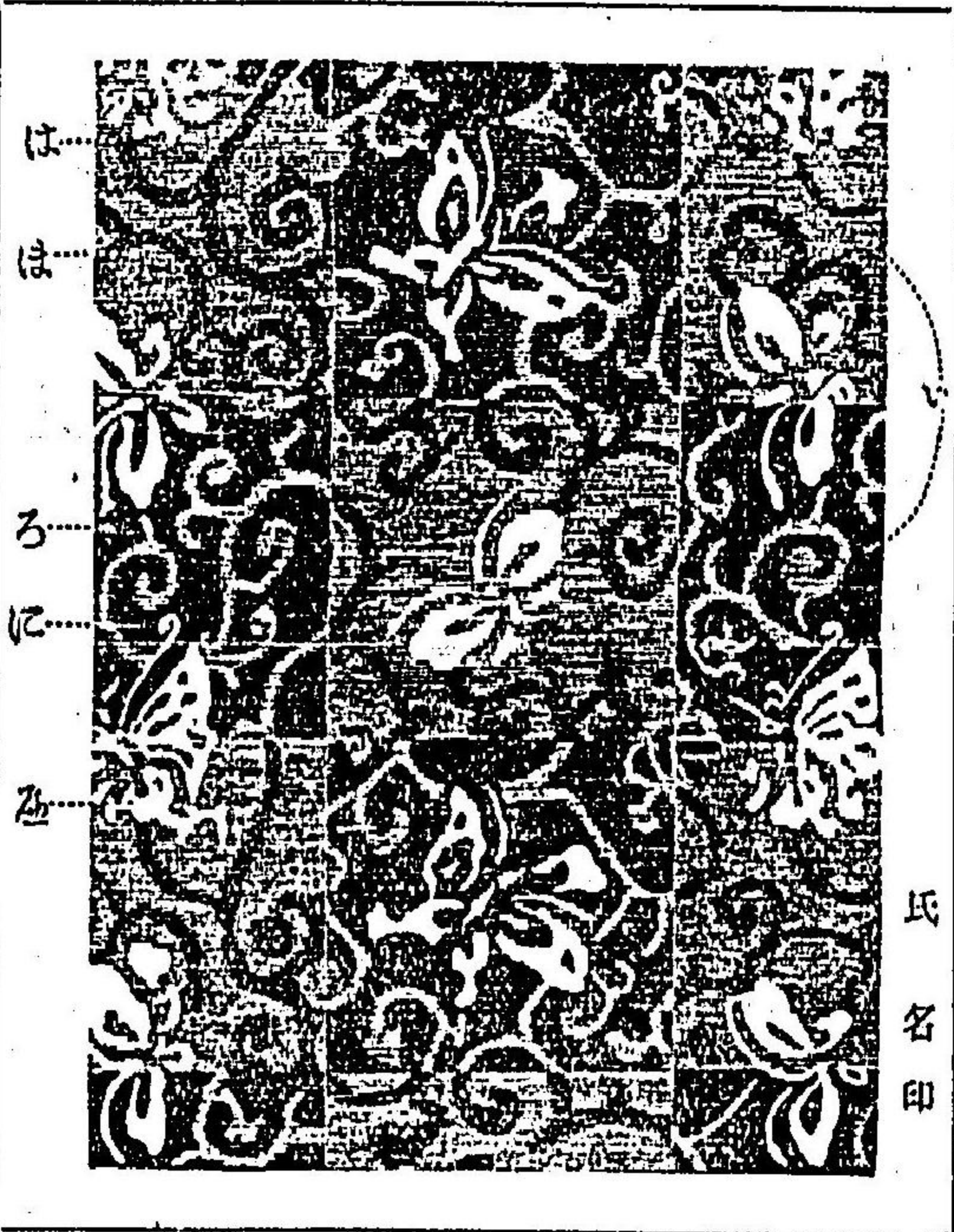


第二圖

此意匠ハ市松形ノ上ニ唐草ト蝶トヲ附シタル在來
ノ模樣ヲ用ヒテ之ニ新規ノ色彩ヲ施シタルモノニ
係リ其色ノ配合ハ別紙圖面ニ示ス如ク市松形イ
一ツ合キニ淡藍ト白茶トノ二色ニ分チ其淡藍
地ノ所ニハ唐草トシハニ同シキ白茶ニテ出シ白茶
地ノ所ニハ唐草トシハニ同シキ淡藍ニテ出シ又唐
草ノ間ニ在ル蝶模樣ハ總テ黃色ニスルモノトス

此意匠ノ専用權ヲ請求スル區域ヲ左ニ掲ク
一前記ノ如ク市松形ヲ一ツ含キニ淡藍ト白茶ト
ノ二色ニ分子其淡藍地ノ所ハ唐草ヲ白茶ニ白

茶地ノ所ハ唐草ヲ淡藍ニ出シテ唐草ノ間ニ在
ル蝶模樣ヲ黃色ニシタル全體ノ色彩
氏名印



第五字形ノ意匠ヲ記
帳シタル一列

明細書

平假名文字ノ意匠
此意匠ヲ應用スル物品ハ第二十二類中活版トス
此意匠ハ別紙圖面ニ示ス如ク一條ノ平綴ヲ屈曲シ
テ各字體ヲ形成セシメ更ニ其首尾ノ兩端ヲ捲キタ
ル狀ノモノニ陰ヲ施シテ成ルモノナリ

此意匠ノ専用權ヲ請求スル區域ヲ左ニ掲ク
一前記ノ如ク平綴ヲ以テ字體ヲ成シ首尾兩端ヲ
捲キ之ニ陰ヲ施シテ成ル平假名文字ノ意匠
氏名印

い り り い
ろ め ろ め
は は は
に に に
ほ ほ ほ
へ へ へ
と と と
ち ち ち
い り り い
ろ め ろ め
は は は
に に に
ほ ほ ほ
へ へ へ
と と と
ち ち ち
い り り い
ろ め ろ め
は は は
に に に
ほ ほ ほ
へ へ へ
と と と
ち ち ち

氏名印

○農商務省特許局ニテ登録セル特許意匠及商標登録方(特許條例ノ部ニ掲ク)

○特許料登録料及手数料ハ登記印紙ヲ用ユ(特許條例ノ部ニ掲ク)

○特許發明ノ明細書特許公報商標公報ノ拂下代價并ニ書類謄本圖面調製ノ手数料及請求手續ヲ定ム(特許條例ノ部ニ掲ク)

○商標條例二十一年十二月十八日勅令第八十六號

商標條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第八十六號

商標條例

第一條 自己ノ商品ヲ表彰スル爲メ商標ヲ使用セント欲スル者ハ此條例ニ依リ其商標ノ登録ヲ受ケ之ヲ専用スルコトヲ得

商標ハ特別著明ナル圖形字體又ハ其結合ヲ以テ要部ト爲スヘシ

第二條 左ニ掲クル商標ハ登録ヲ受クルコトヲ得サルモノトス

- 一 風俗ヲ害スヘキモノ
- 二 商品普通ノ名稱若クハ内外國ノ旗章ノミヲ以テ要部ト爲スモノ
- 三 他人ノ登録商標又ハ登録出願以前ヨリ他人ノ使用スル商標ト同一若クハ類似ニシテ同一商品ニ使用セントスルモノ

第三條 商標ノ登録ヲ受ケント欲スル者ハ一商標毎ニ明細書及見本ヲ添へ農商務大臣ニ出願スヘシ但其願書明細書及見本ハ特許局ニ差出スヘシ

第四條 商標ノ登録ヲ出願スル者アルトキハ特許局長ハ特許局審査官ヲシテ其商標ヲ審査セシメ登録ヲ許スヘシト査定シタルモノハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ商標原簿ニ登録シ其登録證下付ノ手續ヲ爲スヘシ

第五條 登録證ハ農商務大臣之ニ署名シ特許局長之ニ副署シ明細書及見本ヲ添へ之ヲ下付スルモノトス

第六條 商標専用ノ年限ハ二十年ト爲シ原簿登録ノ日ヨリ起算ス

第七條 商標ノ専用ハ農商務大臣ノ定ムル商品類別ニ於テ出願人ノ指定シタル商品ニ限ルモノトス

第八條 二人以上同一又ハ類似ノ商標ヲ同一商品ニ使用セントシテ登録ヲ出願スル者アルトキハ願書日附ノ先ナルモノヲ登録ス其日附同キモノハ共ニ之ヲ登録セサルモノトス但其出願ヲ取消ス者アリテ出願者一人トナリタルトキハ此限ニ在ラス

第九條 商標ノ登録ヲ受ケタル者又ハ之ヲ受ケントスル者死亡シタルトキハ其權利ハ相續者ニ屬スルモノトス

第十條 登録ヲ受ケタル商標ト雖モ第二條ニ該ルコトヲ發見セラレタルモノ又ハ第八條ニ違ヒ登録ヲ受ケタルコトヲ發見セラレタルモノハ其登録ヲ無効トス

第十一條 商標ノ審査査定審判ニ關スル事項ハ總テ特許條例ヲ適用ス

第十二條 登録商標主其營業ヲ賣與讓與シ又ハ他人ト其營業ヲ共ニスル場合ニ限り其商標
專用權ヲ賣與讓與シ若クハ共有トナスコトヲ得此場合ニ於テハ特許局ニ請求シ契約ノ登
録ヲ受クヘシ登録ヲ受ケサル契約ハ第三者ニ對シ法律上其効ナキモノトス

第十三條 登録ヲ受ケタル商標ト雖モ左ノ場合ニ於テハ登録ノ効ヲ失フモノトス
一 登録商標主相當ノ事故ナクシテ商標登録ノ日附ヨリ六箇月ヲ經テ其商標ヲ使用セザ
ルトキ

二 登録商標主相當ノ事故ナクシテ其商標ノ使用ヲ一箇年間中止シタルトキ

三 登録商標主其商標ヲ使用スル營業ヲ廢止シタルトキ

四 登録商標主其商標ヲ使用スル商品ノ數量產地品質等ニ關シ不實ノ事項ヲ附記シタル
トキ

五 登録商標主磨滅若クハ缺損シタル商標ヲ使用シタルトキ

第十四條 登録商標主其専用年限満期ノ後其商標ヲ續用セント欲スル者ハ更ニ其登録ヲ出
願スルコトヲ得

第十五條 登録商標主其登録證ヲ毀損若クハ亡失シタルトキハ事由ヲ具シ再下付ヲ出願ス
ルコトヲ得

第十六條 登録商標主其明細書若クハ見本ノ不完全ナルコトヲ發見シタルトキハ登録ノ効

カヲ全クスル爲メ改訂明細書若クハ見本ヲ添へ登録證ノ改訂ヲ出願スルコトヲ得但其商
標ノ要部ニ變更ヲ生スルモノハ此限ニ在ラズ

第十七條 商標ニ關シ出願又ハ請求スル者ハ左ノ手数料ヲ納ムヘシ

一 商標ノ登録ヲ出願スルトキ 金壹圓

一 商標ニ付商品一類毎ニ 金壹圓

二 登録商標ノ賣與讓與又ハ共有契約ノ登録ヲ請求スルトキ 金參圓

一 商標ニ付商品一類毎ニ 金參圓

三 登録證ノ再下付ヲ出願スルトキ 金壹圓

證書一枚毎ニ 金壹圓

四 登録證ノ改訂ヲ出願スルトキ 金貳圓

一 商標ニ付商品一類毎ニ 金貳圓

五 審判ヲ請求スルトキ 金七圓

一 事件毎ニ 金七圓

第十八條 商標登録證又ハ其改訂登録證又ハ其續用登録證ヲ受クル者ハ其商標ヲ使用スル
物品一類毎ニ登録料金拾圓ヲ納ムヘシ

第十九條 特許局ハ時々商標公報ヲ印刷シ衆庶ノ縦覽ニ供スヘシ其請求者アルトキハ相當
代價ヲ以テ之ヲ拂下クルコトヲ得

第二十條 登録商標ニ關スル書類ノ謄本ヲ要スル者ハ特許局ニ之ヲ請求スルコトヲ得此場
合ニ於テハ相當ノ手数料ヲ納ムヘシ

第二十一條 登録商標ノ専用權ヲ侵シタル者ハ其商標主ニ對シ損害賠償ノ責ニ任スヘシ

第二十二條 前條損害賠償ノ責ハ三年ヲ以テ期滿免除ノ期トス

第二十三條 他人ノ登録商標ナルコトヲ知り之ト同一又ハ類似ノ商標ヲ同一商品ニ使用シ
テ之ヲ販賣シタル者又ハ情ヲ知り其商品ヲ受託販賣シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重
禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

詐欺ノ所爲ヲ以テ登録證ヲ受ケタル者又ハ登録ヲ受ケサル商標ニ登録ノ文字ヲ記シタル
者又ハ情ヲ知り其商品ヲ受託販賣シタル者ハ罰前項ニ同シ

第二十四條 前條ノ場合ニ於テハ違犯ノ商標ヲ沒收ス其商品ト分離スヘカラサルモノハ商
品ヲ破毀セシム

第二十五條 第二十三條第一項ノ犯罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

前項ノ場合ニ於テ告訴人ノ請求ニ依リ裁判官ハ假ニ其告訴ニ係ル物品ノ販賣ヲ差止ムル
コトヲ得

第二十六條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十七條 此條例施行ノ細則ハ農商務大臣之ヲ定ム

第二十八條 此條例ハ明治二十二年二月一日ヨリ施行ス

○商標條例施行細則ヲ定メ商標登録願手續ヲ廢止ス 二十二年一月四日 農商務省令第三號
商標條例施行細則ヲ定ムルコト別冊ノ如シ但明治十七年^六大政官第十三號布達商標登録願手續ハ明治二十二年二月一日
ヨリ廢止ス

(別冊)

商標條例施行細則

第一條 商標條例ニ依リ差出ス願書ハ第一號ヨリ第五號ニ至ル書式ニ從ヒ之ヲ認メ同條例第十七條ノ手数料金額ニ相當
スル登記印紙ヲ貼用スヘシ

第二條 明細書ニハ明細書文例ニ準シ商標ノ見本一箇ヲ掲ケ左ノ諸件ヲ記載シテ別ニ商標ノ見本一箇ヲ添フヘシ
一 商標全部構造ノ詳細説明

二 商標ノ要部
三 商標ヲ使用スル商品ノ類別及名稱

四 商標使用ノ方法

第三條 商標登録願書ハ其商標ヲ使用スヘキ商品類別一類毎ニ各別ニ差出スヘシ

第四條 商標登録願書明細書及見本ヲ受理シタルトキハ特許局長ハ出願人ニ領收書ヲ送付シ願書ノ日附ヨリ三十日ヲ經
タル後願書日附ノ順ニ從ヒ審査官ヲシテ其審査ニ着手セシムヘシ

第五條 商標條例第十六條ニ依リ商標登録證ノ改訂ヲ願出ルトキハ其事由ヲ記載シタル願書ニ改訂明細書一通ヲ添フヘシ
本二箇ヲ添ヘ現商標登録證並ニ附屬ノ明細書ト共ニ差出スヘシ

前項ノ出願ヲ許可スルトキハ特許局長ハ此細則第九條及第十條ノ手續ニ依リ改訂商標登録證ヲ送付スヘシ

第六條 審査官ニ於テ願書明細書見本等ニ關シ訂正又ハ照會ヲ要スルトキハ特許局長ハ其旨ヲ出願人ニ通知シ通知書ノ
日附ヨリ六十日以内ニ訂正書訂正見本又ハ回答書ヲ差出サシムヘシ此期限内ニ差出サハルトキハ出願ヲ無効トス (十二
三年八月二十九日農商務
省令第九號ヲ以テ改正)

第七條 出願人其出願中ニ係ル願書明細書見本等ニ過誤アルコトヲ發見シタルトキハ商標ノ要部ニ變更ヲ生セサルモノニ限リ其訂正ヲ請求スルコトヲ得但査定書若クハ登録通知書ヲ發シタル後及審判中ニ係ルモノハ訂正ハ特許局長ニ於テ必要ト認めタルモノノ外之ヲ許サス

第八條 再審査及審判ニ關スル事項ハ總テ特許條例施行細則ヲ適用ス

第九條 商標ノ登録ヲ許可スルトキハ特許局長ハ登録料納付用紙ヲ添ヘテ登録通知書ヲ出願人ニ送付スヘシ

出願人前項ノ通知書ヲ受ケタルトキハ登録料納付用紙ニ商標條例第十八條ノ登録料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シ明細書ニ通見本一箇及商標ノ印版ヲ添ヘ通知書ノ日附ヨリ九十日以内ニ差出スヘシ此期限内ニ差出サハルトキハ出願ヲ無効トス

第十條 出願人登録料ヲ納付シタルトキハ特許局長ハ其納付ノ日ヲ以テ商標原簿ニ登録シ其旨ヲ出願人ニ通知シ十五日以内ニ商標登録証ヲ送付スヘシ

第十一條 商標登録証ハ第六號書式ニ依リ開製シ商標原簿登録ノ日ヲ以テ其日附ト爲シ改訂商標登録証ハ第七號書式ニ依リ開製シ許可ノ日ヲ以テ其日附ト爲ス(同上本項)
(中追加)
商標條例第十五條ノ場合ニ於テ商標登録証ヲ下付スルトキハ特許局長ハ其由並ニ下付ノ年月日ヲ記載シ之ニ署名スヘシ(同上本項)
(中別除)

第十二條 商標條例第十二條ニ依リ賣與、讓與又ハ共有ノ登録ヲ請求スルトキハ第八號書式ニ從ヒ請求書ヲ認メ同條例第十七條ノ手数料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シ約定書ヲ添ヘテ差出スヘシ(同上本項)
(中改正)
前項ノ請求アルトキハ特許局長ハ其約定書ヲ契約原簿ニ登録シ約定書ニ登録済ノ印印ヲ捺シテ之ヲ請求人ニ送付スヘシ

第十三條 商標專用權ヲ相續シタルトキ又ハ登録商標主氏名ヲ變換シ若クハ其商標ノ使用ヲ廢止シタルトキハ三十日以内ニ其旨ヲ届出ツヘシ

第十四條 商標ノ登録又ハ商標登録証ノ改訂ヲ許可シタルトキ又ハ商標ノ登録ヲ無効トシタルトキ其他登録商標ニ關シ必要ノ場合ニ於テハ特許局長ハ官報並ニ商標公報ヲ以テ之ヲ廣告スヘシ

第十五條 特許局ニ差出シタル商標ノ印版ハ保管中亡失毀損スルモ賠償ノ責ニ任セス(二十二年十月農商務省令)
(第十號ヲ以テ本項ヲ改ム)

第十六條 商標條例第七條ノ商標類別ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一類 化學品及藥劑
酸類鹽類アルカリ、漂白粉、鹽酸、石鹼、酒精、グリセリン、キナエン、モルヒチ、丁酸、合利別、煎劑、丸藥、膏藥、油膏、香水、丁香、食鹽、石灰、艾草

第二類 染料及顔料
藍玉、藍靛、紫根、紅、朱、丹、綠、青、燒、青、洋、靛、白、粉、胡、粉、藤、黃、等

第三類 塗料
漆、假、漆、油、漆、油、漆、靴、墨、等

第四類 香料及燻料
香油、髮、膏、香、水、炷、香、線、香、線、香、等

第五類 金屬及其半加工品
銑、鐵、鍍、鐵、銅、鍍、條、鐵、葉、鐵、板、鐵、線、銅、板、銅、線、鉛、板、鉛、線、鋅、板、鋅、線、錫、合、金、等

第六類 金屬ノ製品
鑄、物、打、物、彫、金、品、及、編、物、等

第七類 利器及尖刃器
鐵、錐、鑿、錐、針、釘、剪、刀、小、刀、剃、刀、庖、丁、鋸、等

第八類 貴金屬及其製品(アルミニウム、金、ニツケル銀ノ製品モ之ニ屬ス)

第十六類 第一章 商標

- 黃金銀四分一紫銅其他貴金屬ノ合金鍍品彫鍍品等
- 第九類 珠玉及其彫鍍品
- 珊瑚珠、眞珠、瑪瑙、水晶、寶玉、碧玉等及其模造品
- 第十類 鐵物類(但石炭ハ第五十一類ニ屬ス)
- 第十一類 石材及其製品並彫鍍品
- 版石、大理石、砗磲石、石器等及其模造品
- 第十二類 漆喰類
- 漆喰、セメント、石膏等
- 第十三類 陶磁器類
- 諸種ノ陶磁器、土器、埴塼、瓦、煉化石等
- 第十四類 七寶燒
- 第十五類 玻璃及其製品
- 玻璃壺、玻璃管、彩色玻璃等
- 第十六類 機械類
- 紡績機、裁縫機、製糖機、印刷機、其他諸製糖機械、汽機、汽鍋等
- 第十七類 農工器具
- 犁、鋤、鋤、馬具、耙、釘拔、鐵槌、繩墨等
- 第十八類 學術上ノ器械
- 理化學、醫術及測量等ノ器械
- 第十九類 度量權衡

- 第二十類 運送用ノ車類
- 荷車、馬車、人力車、自轉車等
- 第二十一類 樂器
- 琴、三味線、胡弓、笛等
- 第二十二類 時計及其附屬品
- 第二十三類 銃砲、彈丸、火藥、烟火等
- 第二十四類 襪、紙、麻
- 第二十五類 眞綿及木棉綿
- 第二十六類 生絲、絹絲及天羅絲(琴絲、金絲、銀絲等之ニ屬ス)
- 第二十七類 綿絲
- 第二十八類 毛絲
- 第二十九類 麻絲
- 第三十類 絹織物
- 第三十一類 木綿織物
- 第三十二類 毛織物
- 第三十三類 麻織物
- 第三十四類 絹、綿、麻、毛外ノ織物及各種ノ交織物
- 第三十五類 絲類ノ編物及組物
- レース、打紐網等
- 第三十六類 被服
- 第十六類 第一章 商標

- 諸種ノ衣服織物製帽子、手套、足袋織物製雨衣袴、目利安等
- 第三十七類 醸造物及飲料
- 諸種ノ酒、酢、醬油、密柑水、曹達水、水等
- 第三十八類 砂糖類
- 諸種ノ砂糖、糖蜜、蜂蜜等
- 第三十九類 菓子及麵包類
- 干菓子、菓子、掛ケ物、西洋菓子、餡、砂糖漬等
- 第四十類 茶及咖啡類
- 第四十一類 烟草類
- 第四十二類 穀菜種子及菜物類
- 五穀、蔬菜、豆、菜實、種子、根、球、粉、種、モヤシ等
- 第四十三類 挽粉、澱粉及其製品
- 諸種ノ挽粉、澱粉、麩類、湯波、蒟蒻、凍豆腐、凍蒟蒻類
- 第四十四類 味噌、醬物及漬物類
- 第四十五類 貯藏食品
- 鹽、節、錫、乾、鮑、海、苔、昆、布、佃、煮、餅、詰、雲、丹、諸種ノ鹹製品等
- 第四十六類 牛乳製品
- 凝乳、乳油、乳餅、乳粉等
- 第四十七類 烟具及袋物
- 諸種ノ烟管、烟袋、烟筒、懷中物等

- 第四十八類 紙及其製品
- 諸種ノ紙、台紙、短冊、擬單紙、壁紙、油紙、游紙、書簡、筒、張、文、匣、一、四、張、五、綴、等
- 第四十九類 筆、墨類
- 筆、墨、朱、墨、印、肉、墨、汁、石、筆、鉛、筆、ペン等
- 第五十類 皮革及其製品
- 馬具、草包、文匣、草帶、靴、唐弓、弦等
- 第五十一類 燃料類
- 諸種ノ炭、附木、摺附木、燈心等
- 第五十二類 油、蠟類
- 諸種ノ油、蠟、蠟燭、脂肪等
- 第五十三類 肥料
- 干、胡、餅、粕、油、粕、骨、粉、等
- 第五十四類 木竹材
- 第五十五類 木、竹、藤、製、品、及、其、漆、塗、蒔、繪、品、類
- 指物、挽物、曲物、桐類、編物、組物等
- 第五十六類 角、甲、牙、類、製、品
- 第五十七類 藥、及、草、製、品
- 藥、裹、莖、編、笠、繩、麥、藥、細、工、等
- 第五十八類 傘、杖、杖、履、物
- 諸種ノ傘、杖、下、靴、草、履、藤、鞋、等
- 第十六類 第一章 商標

第五十九類 扇子及團扇
 第六十類 提燈及ランプ類
 第六十一類 肉磨及洗粉
 第六十二類 刷子及毬類
 第六十三類 玩具類
 花贊物、若將基人形、獨樂、楊弓、押繪、造花、骨牌等
 第六十四類 錦繪及寫真類
 第六十五類 書籍新聞紙、雜誌類
 第六十六類 他類ニ屬セサル商品
 第十七條 特許條例施行細則第四十四條第四十五條第四十六條第四十七條第四十八條及第五十條ハ此細則ニモ之ヲ適用ス

書式用紙、美濃紙十三行二十五字詰

第一號 商標ノ登録ヲ願出ルトキ

商標登録願

別紙明細書ニ記載ノ商標ハ商標條例ニ觸レサルモノト確信候間登録相受度此段相願候也

本籍(及現住所)
 營業名 山頭商標ヲ使用スル
 業名以下此例ニ依ル

此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ

年月日 登録願人 氏 名 印
 農商務大臣氏名殿

第二號 會社又ハ組合ヨリ商標ノ登録ヲ願出ルトキ

商標登録願

別紙明細書ニ記載ノ商標ハ商標條例ニ觸レサルモノト確信候間登録相受度此段相願候也

此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ

所在地 營業名

年月日 登録願人 會社(組合)名 社印
 社(組)長又ハ重役 氏 名 印

會社又ハ組合ヨリ發出ス書面ノ署名方ハ總テ此例ニ依ル

農商務大臣氏名殿

第一號商標登録證

右私所有商標登録證何々(申由ヲ記スヘシ)ニ依リ毀損(亡失)候ニ付商標登録證再下付相成度此段相願候也

本籍(及現住所)

年月日 登録願人 氏 名 印
 農商務大臣氏名殿

第五號 商標登録證ノ改訂ヲ願出ルトキ

登録商標續用登録願

第一號商標登録證

右私所有登録商標來ル明治何年何月何日ニテ專用年限満期之處尙引續キ專用致度ニ付更ニ登録相受度此段相願候也

本籍(及現住所)

年月日 登録願人 氏 名 印
 農商務大臣氏名殿

此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ

商標登録證改訂願

第一號商標登録證

右私所有商標登録證附屬ノ明細書(見本)中何々(申由ヲ記ス)ノ爲メ登録ノ効力ヲ全クシ難キニ付別紙之通改訂致度尤之ガ爲メ商標ノ要部ニ變更ヲ生スル義無之候間改訂商標登録證下付相成度別紙改訂明細書(改訂見本)並ニ現商標登録證及附屬明細書(見本)相添此段相願候也

本籍(及現住所)

年月日 登録願人 氏 名 印
 農商務大臣氏名殿

此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ

第四號 商標登録證ノ再下付ヲ願出ルトキ

前商標登録證再下付願

第十六類 第一章 商標

第六號 商標登錄式

第何號		商標登錄證	
本籍(及現住所)		營業名	
氏名	氏名	氏名	氏名
年月日	農商務大臣 氏名印	年月日	農商務大臣 氏名印
何々(下付) 申山		特許局長 氏名印	

第七號 改訂商標登錄式 (農商務省令第九號ヲ以テ追加ス)

第何號		改訂商標登錄證	
本籍(及現住所)		營業名	
氏名	氏名	氏名	氏名
年月日	農商務大臣 氏名印	年月日	農商務大臣 氏名印
何々(下付) 申山		特許局長 氏名印	

第八號 登錄商標ノ賣與、讓與又ハ共(同上ヲ以テ)有リ登錄ヲ請求スルトキ (第九號ニ改ム)

一 第何號商標登錄證

此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ

右私所有登錄商標ヲ別紙約定書之通營業ト共ニ賣與(讓與又ハ共有)候間登錄相成度約定書相添此段請求候也

本籍(及現住所) 登錄商標主 氏名印

明細書文例 (備考)

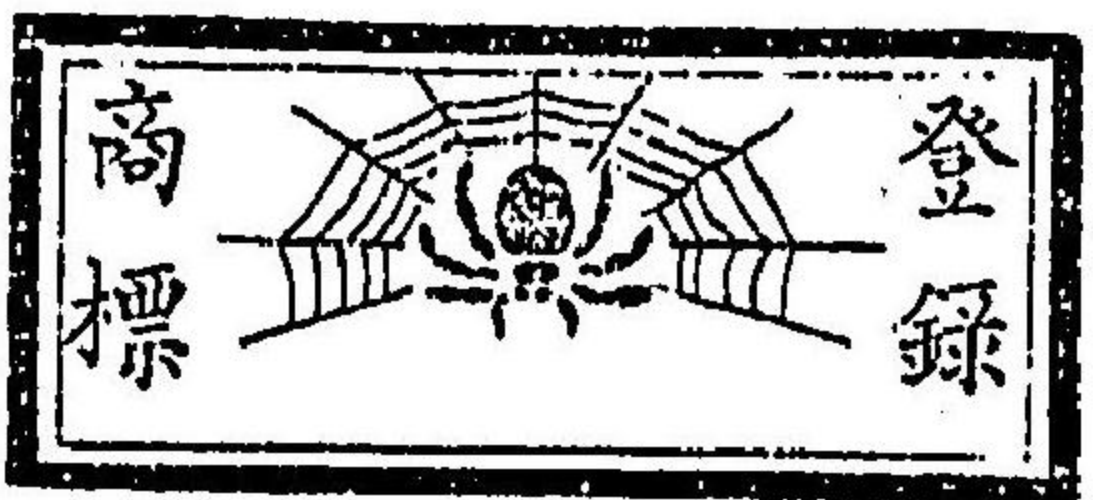
- 一 明細書ハ美濃紙ニツ折ニシテ上部曲尺一寸下部八分左二分綴料一寸ヲ餘シ楷行ノ内ヲ以テ十三行二十字詰ニ認ムヘシ
- 二 明細書ニハ此細則第二條ニ掲ケタル條件ノ外必要ナラサル事項ヲ記載スヘカラス
- 三 明細書ニ見本ヲ掲グルニハ其商標全部ノ眞形ヲ撰寫シ又ハ印刷シ又ハ模寫若クハ印刷セルモノヲ附スヘシ但シ之ヲ貼附シタルトキハ商標ト明細書用紙トニ懸ケテ捺印スヘシ
- 四 明細書ハ書損ナキ様認ムヘシ若シ書損アリテ挿入又ハ削除スルトキハ其上部ニ存スル餘白ニ第何行第何字目何々ノ下何々ノ上何々ノ何字ヲ加ヘ又ハ除クトカ成ハ何々ノ字ヨリ何々ノ字ニ至ル何字ヲ何々ノ何字ニ改ムト記シテ認印スヘシ紙ヲ糊付シテ書損ノ部分ヲ掩ヒ其上ニ書改ムル等ノ事ヲ爲スヘカラス但シ削除スヘキ文字ニハ一ノ縦線ヲ引キ其字體ヲ存スヘシ

特許局長 氏名印

買受(讓受)人 氏名印

明細書

五 明細書ニハ其末尾ニ出願人署名捺印スヘシ本籍、現住所、年月日及宛名ハ之ヲ記載スヘカラス



- 商標見本
- 一 此商標ハ子母線ヲ以テ横長方形ノ欄ヲ設ケ其正中ニ蜘蛛ノ巢中ニ栖メル蜘蛛ヲ撰キ其右側ニ登録左側ニ商標ト楷書ニテ記シタルモノナリ
 - 一 此商標ノ要部ハ蜘蛛ノ巢中ニ栖メル蜘蛛ナリ
 - 一 此商標ハ商標條例施行細則第十六條第三十類ノ絹織物ニ使用ス

一此商標ハ厚紙ノ小牌ニ印刷シテ絹織物ニ粘ヒ附
ケ又ハ絹織物ノ上包ニ印刷シテ使用ス

又ハ 氏 名 印

八百六十六

會社(組合)名 社印

社(組)長又ハ重役 氏 名 印

○農商務省特許局ニテ登録セル特許意匠及商標登録方(特許條例ノ部ニ掲ク)

○特許料登録料及手数料ハ登記印紙ヲ用ユ(特許條例ノ部ニ掲ク)

○特許發明ノ明細特許書公報商標公報ノ拂下代價并ニ書類謄本圖面調製ノ手数料及請求手續ヲ定ム(特許條例ノ部ニ掲ク)

●沿革要領

明治十七年六月第十九號布告ヲ以テ商標條例ヲ制定ス○同月第十三號ヲ以テ右登錄手續ヲ布達ス○十九年九月農商務省令第十號ヲ以テ前布達中ヲ改正ス○二十年四月勅令第九號ヲ以テ條例第十四條ヲ改正ス○同年五月農商務省令第二號ヲ以テ十七年第十三號布達等ヲ加除改正ス○同月同省告示第四號ヲ以テ商標ニ關スル諸願書式及明細書文例等ヲ定ム○二十一年十二月勅令第八十六號ヲ以テ商標條例ヲ改正ス○二十二年一月農商務省令第三號ヲ以テ商標條例施行細則ヲ定メ商標登錄手續ヲ廢止ス

第二章 會社 銀行 兌換銀行券 爲替 約束手形

○米商會所條例九年八月一日 布告第百五號

從來各地方ニ於テ差許置候米油限月賣買一切差止メ自今米穀賣買相場取引致度者ハ會社規則取調可願出旨明治七年^{十二}月^{十二}日 第百二十八號ヲ以テ布告候處今般更ニ米商會所條例別冊ノ通相定候條營業致度者ハ右ニ照準可願出此旨布告候事

(別冊)

米商會所條例

第一條 緒言

第一節 米商會所ハ米穀流通ノ爲メ米商人ノ集會シテ賣買取引ヲ爲ス所ナリ而シテ協同結社之ヲ創立セントスル者ハ農商務卿ノ免許ヲ請フヘシ(十四年第三十一號布告ヲ以テ(內務省內務卿大藏省)トアルヲ(農商務及農商務卿)ト改ム以下皆同)

第二節 農商務卿ハ地方ノ景狀ヲ察シ之ヲ創立スルノ緊要ナルヤヲ考定シ之ヲ許可スルト否トノ權ヲ有ス

第三節 米商會所營業ハ五ヶ年ヲ以テ一期ト定ム右滿期ノ際猶之ヲ保續セント望ム者ハ更ニ其趣ヲ申立農商務卿ノ免許ヲ乞フヘシ

第二條 會所創立ノ手續

第一節 米商會所ヲ創立スルニハ發起人十八人以上ニシテ資本金ノ總額三萬圓以上タルヘシ

第十六類 第二章 會社

八百六十七

第二節 資本金ハ百圓ヲ以テ一株ト定メ發起人總員ニテ必資本金總高ノ半額以上ニ當ル株數ヲ所持スヘシ

第三節 會所ノ發起人ハ創立願書ニ此會所ヲ創立セントスル地方ノ從來米穀聚散ノ實況及ヒ將來賣買ノ目的ヲ詳悉シ各記名關印シ區戶長ノ稟書ヲ得會所創立證書及定款申合規則等ヲ添ヘ之ヲ地方官廳ヘ差出スヘシ

但創立證書中株主ノ責任ニ於テ有限或ハ無限ナルコトヲ明記スヘシ(十二年第四號布告ヲ以テ但書ヲ追加ス)

第四節 地方官廳ニ於テハ願人共ノ身元行狀ヲ檢知シ且ツ其目的ノ利害障得ノ有無ヲ識別シ又會議所等ノ設ケアル地方ニ於テハ其衆議ヲ取り併セテ之ヲ參酌シ相當ト思量スルトキハ意見書ヲ添ヘ農商務卿ヘ具申スヘシ

第三條 開業ノ手續

第一節 發起人等ニ於テ會所創立ノ許可ヲ受ケタル時直ニ其旨ヲ新聞紙又ハ其他ノ方法ヲ以テ世上ニ公告シテ他ノ株主ヲ募ルコトヲ得

第二節 發起人ハ其募ニ應シタル株主等ト共ニ集會ヲ爲シ第五條ノ程限ニ從ヒ五人以上ノ肝煎及ヒ正副頭取ヲ撰任シ其住所姓名年齢等ヲ詳記シタル書面ヲ以テ地方廳ヲ經由シ農商務卿ノ認許ヲ受クヘシ農商務卿ハ時トシテ其改撰ヲ命スルコトアルヘシ(十三年第十九號布告ヲ以テ至前ヲ改ス)

第三節 此頭取肝煎等ハ資本金總高ノ三分二ニ當ル現金或ハ日本政府ノ公債證書此公債證書ハ時々相場

ノ地位ヲ以附減スヘシト雖モ明治七年大藏省ノ第二十八號達ノ假限ヨリ減少スヘカラス 其地方官廳或ハ國立銀行ニ預ケ公正ナル預リ證書ヲ乞受ケ其寫ヲ農商務卿ニ差出シ開業免狀ヲ請求スヘシ

第四節 會所ニ於テ開業免狀ヲ受ケタル上ハ其免狀ノ寫ヲ添ヘ何月何日ヨリ其商業ヲ創ムヘキ旨ヲ新聞紙又ハ其他ノ方法ヲ以テ世上ニ公告シ始メテ之ニ從事スルコトヲ得

第四條 社印ノ用方并印鑑差出方等ノ手續

第一節 開業免狀ヲ得テ其商業ヲ創メントスルニ當リ會所ノ印ヲ刻シ頭取以下諸役員ノ印ト共ニ其印影ヲ一纏メニシテ農商務卿ニ差出スヘシ若シ改刻スル者アルキハ其都度之ヲ差出スヘシ

第二節 會所ノ諸願伺届又ハ諸證書約定書及ヒ往復ノ文書等ニ至ルマテ會所一般ニ關スル事ハ其會所ノ名義ヲ用非會所ノ印ヲ捺シ頭取肝煎等之ニ署名加印スヘシ

第五條 役員ノ程限

第一節 會所ノ役員ト稱スル者左ノ如シ

頭取

副頭取

肝煎

以下支配人書記等ノ名義ヲ以テ役員ヲ定ムルハ會所ノ都合ニ任ス

第二節 會所ノ役員タル者ハ該會所ニ於テ賣買本人又ハ仲買人トナルコトヲ許ルカス

第三節 右役員ハ株主ノ定例總集會ノ節投票ヲ以テ十株以上ヲ所持シタル株主中ヨリ肝煎ヲ選舉シ肝煎ハ共同僚中ヨリ正副頭取ヲ推撰シ共ニ其住所姓名年齢等ヲ詳記シタル書面ヲ以テ地方廳ヲ經由シ農商務卿ノ認許ヲ受テ新舊交代セシムヘシ農商務卿ハ時トシテ其改撰ヲ命スルコトアルヘシ(十三年第十九號布告ヲ以テ全節改正ス)

第六條 役員ノ職務

第一節 頭取ハ會所ノ事務ヲ總轄シ他ノ役員ヲ指揮シ會所一切ノ責ニ任ス

第二節 頭取ハ肝煎分掌ノ事務ヲ定ムヘシ

第三節 副頭取ハ頭取ヲ助ケテ其事務ヲ共成シ時トシテハ其代理ノ任ニ當ルヘシ

第四節 肝煎ハ支配人書記等ノ役名ヲ議定シ其者等分掌ノ課程及ヒ俸給ヲ定メ社中差継ノ事ヲ判決シ金穀ノ出納ヲ管理シ株主ノ衆議ヲ取ラントスル事柄アル時ハ之ヲ招集スルコトアルヘシ

第五節 肝煎ハ毎月何回ト定メタル會議ノ議員トナルヘシ

第六節 肝煎ハソノ同僚中又ハ頭取ニ於テ職任ニ不適當ノ行ヒアルカ又ハ之ヲ怠ル者アルトキハ臨時委員ヲ定メ次ノ肝煎會議ノ日ニ無名投票ヲ以テ三分ノ二以上ノ説ニ從ヒ之ヲ退職セシムルコトヲ得

第七條 株主ノ權利制限及株式讓渡ノ手續

第一節 株主ハ會所ノ本主ニシテ會所資本ノ一部ヲ入金シ其入金高ニ應シタル株券ヲ所持

シ以テ株數相當ノ權利ヲ有シ營業上ノ損益ヲ負擔スル者ナルカ故ニ時々ノ景況ニ着目シ金員及ヒ出納勘定帳簿ヲ檢閲セント求ムルノ權アリ

第二節 株主ハ肝煎ノ承諾ヲ得テ仲買人ト爲ルヲ得其場合ニ於テハ別段證人ヲ要セスト雖モ通常仲買人タルノ條件ニ適應スルヲ要ス(同上全節ヲ改正ス)

第三節 株主ハ何等ノ事故アルトモ會所解散ノ期ニ至ラサル時間ハ其株金ヲ取戻スコトヲ得ス

第四節 株主ハ肝煎ノ承認ヲ受ケタル上ニテ其所持ノ株式ヲ賣渡シ讓與ヘ又ハ質入抵當ト爲スコトヲ得ヘシ但シ其質入抵當ト爲シタル時間ハ總會議事ノ時發言ノ權ナク又役員ノ選舉ニ應スルコトヲ許サス

第五節 株主其所持ノ株式ヲ賣渡シ又ハ讓與ヲ爲ス時ハ其賣買授受雙方ヨリ連印ノ證書ヲ會所ニ差出スヘシ會所ハ此證書ヲ請取リタル時ニ株主帳ノ姓名ヲ書改ムヘシ若シ右手續ヲナサハル間ハ證書賣買授受ノ効ナキ者トス

第八條 仲買人入社ノ手續

第一節 仲買人タルヲ得ヘキ者ハ丁年ニシテ會所所在ノ地ニ於テ滿一年以上米商營業ヲ爲シタル者ニ限ル而テ仲買人トナラント欲スル者ハ身元金千圓以上ヲ出シ株主二名以上ノ保證ヲ以テ肝煎ニ申出テ其承認ヲ得タル上地方廳ヲ經由シテ仲買人トナラントスル願書ヲ農商務卿ニ捧ケテ其認許ヲ受クヘシ

身元金ハ現金又ハ日本政府ノ公債證書ヲ以テ會所ニ預ケ置クヘシ(上)

第二節 仲買人タルモノハ他人ノ依頼ヲ受ルニアラサレハ賣買取引ヲ爲スコトヲ得ス其賣買取引ニ付會所ニ對シ自己ノ名義ヲ以テシ其賣買取引上一切ノ責任ヲ負擔スヘシ但一口ノ取引ニ付賣買雙方ノ依頼ヲ受クルヲ得ス(十三年第十九號布告ヲ以テ全節ヲ改メ十五年第二十六號布告ヲ以テ全節ヲ改メ)

第三節 仲買人ハ五名ヲ一組トシ組合中ヨリ一名ヲ推撰シ肝煎ノ承認ヲ得テ組頭トナシ組合中一切ノ取締ヲ爲サシムヘシ(十三年第十九號布告ヲ以テ全節ヲ改正ス)

第四節 仲買人退社セントスルキハ其旨趣ヲ書面ヲ以テ肝煎ニ申出ヘシ肝煎ハ之ヲ受ケテ十日間之ヲ會所ニ張出シ置キ會所ニ連帶シタル計算上ノ關係ナキヲ認マル上ニテ其退社ヲ許シ身元金ヲ返付シテ證人ノ責任ヲ解クヘシ

第九條 米商會所一般ノ規則

第一節 外國人ヲ株主并仲買人ト爲スコトヲ得ス(十五年第二十六號布告ヲ以テ第一節第二節ヲ改正シ第三節以下ヲ追加ス)

第二節 會所ニ於テ賣買取引ヲ爲スモノハ其會所ノ仲買人ニ限ルヘシ

第三節 會所ニ於テハ貸附金ヲナスヘカラス又仲買人ノ身元金及證據金ヲ使用スヘカラス

第四節 會所ハ此條例ノ旨趣ニ基キ賣買主雙方ノ約定ヲ履行セシムルノ責任アルモノトス

第五節 會所ハ左ノ場合ニ於テハ賣買ノ違約人トシテ會所限處分スルコトヲ得

第一 賣買主雙方若クハ一方其會所ニ差入ヘキ證據金ノ差入方ヲ怠リタルトキ

第二 賣買主雙方若クハ一方其取引約定ノ期日ニ至リ其約定ヲ執行セサルトキ

第三 會所ニ於テ定メタル現米検査ノ方法及受渡上ノ期約ニ背キタルトキ

第六節 會所ニ於テ違約人ヲ處分スルハ其違約ニ依リ會所ノ取引上ニ於テ失ヒタル利得ト蒙リタル損害トヲ其者ノ證據金及身元金ヲ以テ償ハシメ其者ヲ除名スルニ止ルヘシ而シテ仍ホ其損失ヲ償フコト能ハサルトキハ會所ニ於テ其實ニ任スヘシ

第十條 賣買取引ノ手續

第一節 會所ニ於テ爲ス所ノ賣買取引ハ現米直取引ト定期トノ二様ニ分チ又其定期ヲ二種ト爲シ其一ヲ約定ノ期限ニ至リ現米金ノ受渡ヲ爲スモノトシ其二ヲ豫定ノ期限内ニ其取引ヲ完結シ又ハ解約スルモノトス(十三年第十九號布告ヲ以テ以下四節ヲ改正ス)

第二節 現米直取引ハ見本米ヲ以テ會所内ニ於テ賣買ヲ爲シ其現石受渡ノ順序ハ會所ノ規則ニ從フヘシ

第三節 定期賣買ヲ約定シタルキハ會所ノ役員ニ届出テ賣買主雙方ヨリ約定ノ證據金ヲ會所ニ差入ルヘシ此證據金ハ少クトモ約定代金高十分ノ一ヨリ下ルヘカラス又此證據金ノ外ニ時々相場ノ高低ニ因テハ追證據金或ハ期日前ニ至リ猶ホ其約定ヲ確固ナラシムル爲メ增證據金ヲ差入シムヘシ(十五年第六十六號布告ヲ以テ更ニ(十分ノ二)ヲ(二)ト改ム)

第四節 定期賣買約定ノ期限ハ三ヶ月ヨリ永カルヘカラス而シテ其期日ニ至レハ會所ノ役員立會ノ上必ス現米金ノ受渡シヲ爲シ其取引ヲ完結スヘシ但約定濟ノ分ヲ雙方ノ都合ニヨリ其期限内ニ買戻シ又ハ買受ケタル分ヲ他人ヘ賣渡スコトヲ得

第十一條 手数料ノ定期(十三年第九號布告ヲ以テ本條中第一節ヲ改正シ第二節中ヲ加)

第一節 會所ニ於テ賣買者雙方ヨリ領收スヘキ手数料ハ會所ニ於テ相當ノ額ヲ定メ大藏卿農商務卿ノ認許ヲ受クヘシ

第二節 手数料ハ其決算ノ時ニ至リ賣買取引ニ關係スル他ノ債主ニ先ツテ收受スルコトヲ得

第十二條 會議ノ規則

第一節 會所ノ會議ヲ分ツテ肝煎會議ト株主總集會トノ二類トス

第二節 肝煎會議ハ毎月何回ト定メ頭取ヲ以テ議長ト爲ス此會議ニ於テ發言ノ權ハ一人ニ付一説ト定メ衆說ヲ取リテ其議事ノ可否ヲ決ス若シ可否ノ數相半ハスルハ議長ノ判決ニ任カス

第三節 右會議ニ當リ出席定員ノ半ハニ充タサルハ其議事ヲ始ムヘカラス但シ急遽ノ事件ハ格別ナリトス

第四節 株主ノ總集會ハ毎年一度又ハ數度例日ヲ定メテ之ヲ開ク此集會ハ頭取肝煎ノ撰舉及ヒ會所營業ノ實況計算ノ得失ヲ議スルヲ主務トス

第五節 株主五分ノ一以上ノ請求又ハ肝煎ノ衆議ニ依リテハ臨時總集會ヲ開クコトヲ得

第六節 總集會ニ於テノ發言ノ權利決議ノ方法ハ便宜ニ從テ之ヲ定ムヘシ

第七節 總集會ニ於テノ議長ハ頭取又ハ株主中ヨリ撰舉スルモ妨ケナシ

第十三條 資本金増減ノ手續

第一節 會所ニ於テ資本金高ヲ増減セントスル時ハ總集會ノ決議案ヲ具シ頭取肝煎其次第

ヲ詳記シ農商務卿ノ指揮ヲ受クヘシ

但其資本金賣買取引ノ景況ニ對シ不適當ト認ルトキハ農商務卿ハ其適當ノ金額ニ増加スヘキ旨ヲ命スルコトアルヘシ(十五年第廿六號布告ヲ以テ但書ヲ追加ス)

第二節 右増減ノ許可ヲ得タル上ハ直チニ世上ニ公告シ其増減セシ名前書ヲ取纏メタル上農商務卿ニ届出且地方官廳或ハ銀行ニ預ケタル營業保證ノ金額ヲ増減スヘシ

第十四條 損益金計算ノ定規

第一節 頭取肝煎ハ毎年兩度以上營業ノ總決算ヲ爲シ其内税金並ニ積立金其他一切ノ社費ヲ引去リ残り損益高ヲ以テ株數ニ割り合セ之ヲ株主ニ分賦スヘシ

第二節 右計算表ハ株主ニ分賦ノ日ヨリ十五日内農商務卿ニ届出且世上ニ公告スヘシ

第十五條 納税ノ手續及ヒ積金ノ規則

第一節 會所ハ政府ニ於テ制定施行スル所ノ收稅規則ニ遵ヒ税金ヲ納ムヘシ(同上市布告ヲ以テ第六十六號布告ヲ以テ本節中ヲ改正シ十八年十一月第三十六號布告ヲ以テ全條ヲ改正ス)

第二節 株主等ヘ配當スヘキ純益金一ケ年一割即百分ノ十以上ノ利息ニ當ルハ肝煎ノ衆議ヲ以テ制賦高ノ幾分ヲ引去リ之ヲ積立テ以テ非常準備金ト爲スヘシ

第十六條 報告ノ定規

第一節 會所及仲買人ハ毎日取扱ノ事項并金穀出納等凡テ之ヲ詳明正確ニ記載シ且其簿記

第十六類 第二章 會社

ノ方法ニ於テハ農商務卿ノ差圖アルキハ其差圖ニ從フヘシ(十三年第十九號布告ヲ以テ全節ヲ改正シ十五年第廿六號布告ヲ以テ又全節改正ス)

第二節 會所及仲買人ニ於テ使用スル所ノ諸帳簿ハ其名目用法ヲ詳記シ之ヲ農商務卿ニ届出ヘシ(十五年第廿六號布告ヲ以テ本節以下追加)

第三節 會所ハ賣買實際ノ景況及金穀出納其他役員ノ進退並株主ノ異同仲買人ノ退社ヲ農商務卿ニ報告スヘシ

第十七條 官員検査規則

第一節 地方長官ハ時々官員ヲ派出シ會所及仲買人營業ノ摸樣其他諸帳簿并現米ノ所在其受渡ノ實況及會所ノ現金等ヲ查覈セシムヘシ又時トシテ農商務省ヨリ官員ヲ派出シ之ヲ検査セシムルコトアルヘシ若シ右検査官員ヨリ疑問等アルトキハ會所ノ役員及仲買人等ハ逐一答辯ヲ爲サハルヘカラス(同上全節改正)

第十八條 諸願書其他ノ書類上達ノ定規

第一節 會所ヨリ農商務卿ニ差出スヘキ文書中諸願ハ二通其他ハ一通宛ニシテ其差出方ハ地方廳ヲ經由スヘシ(同上)

第十九條 罰則

第一節 會所ノ役員及株主仲買人等此條例ヲ犯スカ又ハ役員タル者株主仲買人ノ條例ニ背犯シタルヲ不問ニ措キ又ハ背犯セシメタル實證アルキハ役員并ニ本人共其輕重ニヨリ三

拾圓以上千圓以下ノ罰金ニ處ス(十三年第十九號布告ヲ以テ全節ヲ改正ス)

第二節 (十三年第十九號布告ヲ以テ追加シ十六年第三十號布告ヲ以テ删除ス)

第三節 官員検査ノ節簿冊書類ヲ差出スコトヲ拒ミ又ハ疑問ニ答辯ヲ爲サハル者アルキハ頭取又ハ其主任者へ五十圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ(十三年第十九號布告ヲ以テ第二節ヲ三節トシ第三節ヲ四節ト改ム)

第四節 會所ノ規約ニ背犯シタル役員株主仲買人ヲ會所限リ處分スルハ之ヲ除名スルカ或ハ過怠料ヲ取立ルニ止ルモソトス但其過怠料ハ株金身元金ノ高二超ルヲ得ス(十五年第廿六號布告ヲ以テ全節改正)

第二十條 營業停止及禁止(同上布告ヲ以テ本條ヲ追加シ同年四月十五日)

○米穀金銀貨幣等竊ニ取引ヲ爲ス者處分方(十三年四月十五日)
法律定規ニ遵ヒ官許ヲ得タル米商會所株式及ヒ積濱取引所外若クハ内タリニ竊ニ米穀并金銀貨幣及株式ノ限月若クハ現場(定期ヨリ起リテ現場ヲ云フ)賣買其他之ニ類似シタル取引ヲ爲シタル者及情ヲ知テ賣買取引ノ場所ヲ給與シタル者若クハ其賣買取引ヲ誘助シタル者ハ拾圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處シ其賣買取引ハ無効ト爲スヘシ

但本條ヲ犯シタル者ヲ告發シタル者ニハ其告發ニ因テ科シタル罰金ノ全部ヲ給ス其自ラ犯シタル者事未タ發覺セサル前ニ於テ自首シタルキハ其罪ヲ問ハス
右布告候事

○米商會所及株式取引所ノ賣買上ニ關スル處分方(十五年八月十九日)

第十六類 第二章 會社

米商會所及ヒ株式取引所ノ賣買ニ不正惡弊アルカ又ハ賣買取引上ノ景況穩當ナラサル爲メ公共ニ妨害ヲ及ホスト認ムルトキハ農商務卿ハ其會所及ヒ取引所又ハ仲買人ノ營業ノ一部又ハ全部ヲ停止若クハ禁止シ又ハ役員ヲ退罷セシムルコトアルヘシ
但本年第貳拾六號布告米商會所條例追加第二十條ハ削除ス

右奉 勅旨布告候事

○米商會所株式取引所ノ方法ニ倣ヒ又ハ類似ノ方法ヲ用ヒ取引ヲ爲ス者處分方十六年一月十五日 布告第四號

米商會所株式取引所ノ限月若クハ現場賣買ノ方法ニ倣ヒ又ハ之ニ類似ノ方法ヲ用ヒ諸物品ノ賣買取引ヲ爲シタル者及情ヲ知テ賣買取引ノ場所ヲ給與シタル者若クハ其賣買取引ヲ誘助シタル者ハ總テ明治十三年四月第貳拾壹號布告ニ據リ處分スヘシ
右奉 勅旨布告候事

○米商會所株式取引所ノ仲買人竊ニ米穀金銀貨幣公債證書株式ノ賣買ヲ爲ス者處分方十六年八月六日 布告第貳拾九號

米商會所及株式取引所ノ仲買人ニシテ竊ニ米穀并金銀貨幣公債證書株式ノ限月若クハ現場定期ヨリ起リテ賣買又ハ其類似ノ取引ヲ爲シタル者及情ヲ知テ賣買取引ノ場所ヲ給與シタル者若クハ其賣買取引ヲ誘助シタル者ハ五十圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ其賣買取引ハ米商會所條例及株式取引所條例ノ手續ヲ爲サシム

右奉 勅旨布告候事

○米商會所株式取引所收稅規則十八年十一月二十八日 布告第三十八號

米商會所并株式取引所收稅規則左ノ通制定シ明治十八年十二月一日ヨリ施行ス
但明治十一年九月第貳拾號布告明治十五年十二月第拾五號布告及同年同第拾七號布告ハ明治十八年十二月一日ヨリ廢止ス

米商會所並株式取引所收稅規則

第一條 會所並取引所ノ税金ハ左ノ割合ニ從ヒ每一ヶ月分ヲ翌月十日マテハ地方廳ニ上納スヘシ

賣買各約定代金高

萬分ノ六(二十一年十一月十二日勅令第七十五號ヲ以テ(千分ノ二)ヲ(萬分ノ六)ニ改ム)

賣買各約定代金高

萬分ノ三

賣買各約定代金高

萬分ノ六

公債證書定期賣買

諸株式定期賣買

第二條 定期内ニ轉賣又ハ買戻ヲ爲ス者ハ其轉賣買戻ニ係ル税金ハ免除ス

第三條 賣買ヲ解約スルコトアルモ其税金ハ之レヲ還付セズ

第四條 大藏卿ハ地方廳ニ委任シ又ハ隨時官吏ヲ派出シ納稅ノ精算ヲ檢査セシムヘシ

第十六類 第二章 會社

第五條 會所并取引所ニ於テ賣買約定ノ代金高ヲ詐リ脱税シタルトキハ頭取ヲ百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其會所并取引所ヨリ其脱税ニ係ル金額ヲ徴收スヘシ

右奉 勅旨布告候事

○米商會所株式取引所仲買人認可料 十六年八月六日 太政官布達第二十八號

米商會所及株式取引所仲買人ト爲ラント欲スル者農商務卿ノ認可ヲ得タルトキハ認許料トシテ金三拾圓ヲ農務省ニ納ムヘシ

右布達候事

○米穀現月并現場賣買ハ米商會所内ニ限ル 十三年三月十三日 大藏省布達甲第三拾貳號

米穀現月賣買ノ儀ハ明治九年第五百五號公布ノ趣有之該條例ニ遵ヒ會所ヲ設ケ營業候儀ハ其處ニ依リ許可相成候處右限月并ニ現場起ル現場ヲ云 賣買取引ハ米商會所内ニ限リ差許サレ候儀ニテ會所ノ支社出張所ヲ取設ケ又ハ仲買人ノ分店代理人取次人等ヲ置候儀不相成ハ勿論準テ會所外ニ於テハ仲買人タリトモ其業務取扱候儀一切不相成筋ニ候條心得違無之様可致此旨布達候事 (十三年同省甲第三十八號布達ヲ以テ(俄ニテ)ノ下五字ヲ删除ス)

○製茶砂糖反物等竊ニ現月若クハ現場賣買類似ノ商業ヲ爲ス者處分方 十三年九月二十二日 太政官布達第四十九號

〔使〕府

近來竊ニ製茶砂糖反物薪炭等種々ノ物品ヲ以テ限月若クハ現場賣買類似ノ商業ヲ爲ス者有之趣右ハ總テ本年四月第貳拾壹號布告ニ依リ處分スヘキ儀ト心得ヘシ此旨相達候事

○米穀金銀貨幣等竊ニ取引ヲ爲ス者取締方 十三年四月十六日 大藏省達乙第拾八號府縣

今般第廿一號公布ノ趣モ有之候ニ付テハ取締尙一層嚴重ニ可相立因テハ金銀米穀賣買取引ヲ爲ス業體ノ者并ニ兩營店爲替店又ハ穀物問屋ノ類ヘハ時々主務ノ官吏ヲ派遣シ篤ト爲相改自然若公布ニ違反候者ハ速ニ取糾シ裁判所ヘ求刑

可致此旨相達候事

○米商會所株式取引所仲買人定員 十六年八月十八日 農務省告示第七號

米商會所株式取引所仲買人員ノ備米商會所ハ東京百名大阪七十五名其他ハ一箇所三十名株式取引所ハ東京横濱ハ一箇所七十名大阪神戸ハ一箇所六十名ヲ以テ定限トシ其餘ハ自今不及認許候條此旨告示候事 (十七年農務省第九號告示ヲ以テ京都市株式取引所仲買人員ハ六拾名ヲ以テ定限トス)

○米商會所仲買人認許規程 十六年八月十八日 農務省告示第六號

米商會所株式取引所仲買人認許料之儀本年八月廿八號ヲ以テ布達相成候ニ付テハ認許規程左之通相定候條此旨告示候事 株式取引所仲買人認許規程

第一項 米商會所仲買人及株式金銀貨仲買人凡營業認許願ハ各其條例ニ依リ從前會所及取引所ニ於テ慣行ノ手續ニ從フヘシ

第二項 仲買人ニ認許ヲ與ヘタルトキハ左ノ雛形ノ如キ認許ヲ下付スヘシ

第三項 米商會所並株式取引所仲買人へ認許証ヲ下付シタルトキハ認許料ヲ地方廳ヘ納付シ地方廳ヨリ農務省ヘ上納スヘシ (十八年十二月農務省告示第(二十四號)ヲ以テ本項ヲ改正ス)

第四項 株式仲買人及金銀貨仲買人へ認許証ヲ下付スルキハ認許料ヲ其株式取引所ヘ納付シ株式取引所ヨリ農務省ヘ上納スヘシ

第五項 從前會所及取引所ノ定款ニ定メタル年限中認許ヲ與ヘタルモノハ其期限中ハ認許証下付セサルニ付滿期ニ至リ第一項ノ手續ニ從フヘシ

第六項 仲買人左ノ場合ニ於テハ會所及取引所ヲ經由シテ認許証ヲ農務省ヘ返納スヘシ

但本人執行成リ難キ場合ニ於テハ親戚又ハ組合仲買人ニ於テ返納ノ手續ヲ爲スヘシ

第十六類 第二章 會社

- 第一 廢禁シタル片
- 第二 死亡シタル片
- 第三 營業禁止ノ命ヲ受タル片
- 第四 納稅規則ニ違犯シ認許ノ効ヲ失ヒタル片
- 第五 會所及取引所ノ規約ニ違ヒ除名ノ處分ヲ受タル片
- 第六 身代限リノ處分ヲ受タル片
- 第七項 認許證若シ盜火水難其他ノ事故ニ因テ紛失シタル片ハ其事由ヲ詳悉シテ更ニ認許證ノ下附ヲ請願スヘシ
- 第八項 氏名ヲ改メタル片ハ認許證ヲ農商務省ニ差出シ替替ヲ請願スヘシ

●沿革要領

明治七年十二月第百三拾八號布告ヲ以テ從來各地方ニ於テ許可セシ米油現月賣買ヲ禁止メ自今會社ヲ結ヒ米穀賣買相場取引ヲ望ム者ハ本年第百七號布告株式取引所條例ノ方法ニ倣ヒ其管轄廳ヲ經テ大藏省ヘ出願シ許可ヲ受シム○九年八月第五號布告ヲ以テ更ニ米商會所條例ヲ定ム○九年八月内務省甲第二十九號布達ヲ以テ米商會所成規ヲ定メ八年大藏省甲第十六號第十九號及同年六月心得違ノ趣ヲ取消ス○十八年十一月第三十號布告ヲ以テ米商會所株式取引所收稅規則ヲ定ム

明治七年十月第百七號布告株式取引條例相應シ更ニ別冊ノ通相定候條此旨相達候事

(別冊) 株式取引所條例

第一章 株式取引所創立及開業ノ事

- 第一條 株式取引所ハ株式仲買人ノ集會シテ日本政府ノ諸公債證書及日本政府ノ條例ヲ遵奉シテ發行シタル銀行並諸會社ノ株券等ヲ賣買取引スル所ナリ而シテ之ヲ創立セントスルモノハ其創立願書ハ其地方長官ノ與書ヲ受ケ之ヲ農商務省ヘ差出シ農商務卿ノ允許ヲ請フヘシ(十四年第四十三號布告ヲ以テ(大藏省大藏卿)トアルヲ(農商務省農商務卿)ト改ム以下同シ)
- 第二條 此條例ヲ遵奉シテ株式取引所ヲ創立スルニハ其發起人少クトモ十名以上ニシテ其資本金額ハ十萬圓以上タルヘシ而シテ其資本金總高ノ半數以上ニ當ル金額ヲ右發起人總員ニテ出スヘシ(十三年第五十七號布告ヲ以テ(二十萬圓)ヲ(十萬圓)ト改ム)
- 第三條 農商務卿ハ此創立願書ヲ受領シテ其許可スヘキヤ否ヲ考案シ或ハ之ヲ許可シ或ハ之ヲ許可セサルヲアルヘシ
- 第四條 發起人右創立許可ヲ受クルニ於テハ諸般ノ規程ヲ議定シテ創立證書及定款申合規則各二通ヲ製シ株主一同記名調印ノ上地方長官ノ與書證印ヲ受ケ之ヲ農商務省ヘ差出スヘシ
- 但創立證書及定款等ハ創立許可ヲ得タル日ヨリ遅クトモ三ヶ月間ニ差出スヘシ若シ右期限内ニ差出サハル片ハ其許可ハ無効ニ屬スヘシ
- 第五條 右創立證書及定款申合規則ハ左ノ主旨ニ從ヒ各取引所ノ便宜ニ依テ之ヲ製定スヘシ然レモ必ス此條例ノ旨趣ニ抵觸スルヲ得サルヘシ

創立證書ハ取引所ヲ創立スルニ付株主一同決定シタル綱領ノ條件及ヒ其實任ノ有限或ハ無限有限責任トハ負債償却ノ義務ニ於テ該取引所ノ株券限リ或ハ其株券ノ二倍等其守踐行スヘキ旨ヲ政府ニ對シ保證スルモノナリ

定款ハ取引所ヲ創立スルニ付株主一同其取引所ノ便宜ヲ商量決定シテ互相確守スヘキ約東條款ヲ記載スルモノナリ

申合規則ハ賣買取引ニ付賣買主雙方ノ間ニ於テ取引所ニ對シ確守スヘキ規程ヲ記載スルモノナリ

第六條 農商務卿ハ右創立證書及定款申合規則ヲ檢按シテ不都合ナシト思考スルニ於テハ之ニ與證書印ヲ加ヘ免狀ト共ニ之ヲ其取引所ニ下付シテ開業ヲ許スヘシ

但爾后取引所ノ都合ニヨリ其創立證書及ヒ定款申合規則ヲ改正加除セントスルキハ其時々農商務卿ノ認許ヲ受クヘシ

第七條 取引所ハ開業前ニ於テ其營業保證ノ爲メ資本金高ノ三分二以上ニ當ル現金又ハ公債證書大藏省ヨリ指定スル價格ヲ以テ農商務省ニ差出シ預置クヘシ

但シ開業免狀ヲ得タル後滿五ヶ月ニ至リ猶本文ノ手續ヲナサス又ハ開業セサルコトアルトキハ其免狀ハ取消タルヘシ

第八條 取引所ハ開業ノ日ヨリ滿五ヶ年ノ間其營業ヲ保續スルヲ得ヘシ右滿期ニ至リ尙ホ營業セント欲スルキハ更ニ允許ヲ受クヘシ

第九條 取引所ニ於テ開業免狀ヲ受ケタル上ハ其免狀並ニ創立證書ノ寫ヲ添ヘ何月何日ヨリ其商業ヲ創ムヘキ旨ヲ新聞紙又ハ其他ノ方法ヲ以テ世上ニ公告スヘシ

第二章 株主並ニ株手形ノ事

第十條 各株主ヨリ入金シタル金額ハ分テ百圓以上一定ノ株式トナシ株手形ヲ製シ其株主タルモノヘ之ヲ交付スヘシ

第十一條 株主ハ其取引所ノ營業時間ハ何時ニテモ其金員及ヒ諸帖簿ヲ檢閱スルコトヲ得ヘシ

第十二條 株主ハ何等ノ事故アルトモ其取引所解散ノ期ニ至ラサル間ハ其株金ヲ取戻スコトヲ得ス

第十三條 株主ハ其取引所ノ承認ヲ得タル上其所持ノ株式ヲ賣渡シ又ハ讓渡シヨナスコトヲ得ヘシ

第十四條 株主タルモノハ其取引所ノ役員タラサル時間ニ何時ニテモ仲買人タルヲ得ヘシト雖モ仲買人トナリタルキハ仲買人ノ規則ヲ遵守スヘシ而シテ賣買上ニ於テハ之ヲ仲買人ト稱スヘシ

第三章 仲買人ノ事

第十五條 丁年ニシテ仲買人トナラント欲スル者ハ次條ニ定ムル身元金ヲ差入レ取引所ノ承認ヲ得タル上仲買人トナラントスル願書ヲ農商務卿ニ捧ケ其認許ヲ受クヘシ

仲買人ハ他人ノ委託ヲ受ケテ賣買取引ヲ爲スト自己ノタメニ爲ストヲ問ハス取引所ニ對シテハ其賣買取引上一切ノ責任ヲ負フヘシ(十三年第廿號布告ヲ以テ全條改正)

第十六條 株式仲買人ノ身元金ハ貳百圓以上金銀仲買人ノ身元金ハ千圓以上タルヘシ(同上)
第十七條 仲買人ハ丁年者ニ限ルヘシ且ツ一度身代限ノ處分ヲ受ケタル者ハ其負債ノ義務ヲ免レタル實證アルニ非サレハ入社ヲ許サ、ルヘシ

第四章 役員ノ事

第十八條 取引所ノ役員ト稱スルモノハ左ノ如シ

頭取 肝煎

其他支配人書記方計算方等ノ名義ヲ以テ役員ヲ定ムルハ取引所ノ便宜ニ任ス

第十九條 取引所ノ肝煎ハ五名以上トシ株主ノ總會ニ於テ取引所ノ定規ニ從ヒ現ニ三十株以上ヲ所持スル株主中ヨリ之ヲ撰舉シ肝煎ハ其同僚中ヨリ頭取壹人ヲ推舉シ其住所姓名年齡等ヲ農商務大藏卿ニ具申シテ其認許ヲ受クヘシ農商務大藏卿ハ時トシテハ其改撰ヲ命スルコアルヘシ

支配人以下ノ役員ハ頭取肝煎ノ衆議ニ依リ株主又ハ株主ニアラサル者ヲ撰任スルコトヲ得(同上)

第二十條 取引所役員ノ在職年限ハ一ケ年タルヘシ

第二十一條 頭取ハ取引所ノ事務ヲ總轄シ取引所一切ノ實ニ任スヘシ

第廿二條 頭取肝煎ハ其仲買人賣買上ノ差繼レヲ解キ違約者ヲ處分スルノ責任アリトス

第廿三條 取引所諸役員職務上ノ責任權限等ハ其取引所ニ於テ適當ノ規程ヲ設ケ之ヲ定款中ニ記載スベシ

第五章 一般ノ規程

第廿四條 外國人ヲ取引所ノ株主並仲買人ト爲スコトヲ得ス

第廿五條 取引所ニ於テ株式賣買取引ヲナス者ハ其取引所ノ承認ヲ經タル仲買人ニ限ルヘシ

第廿六條 (十四年第廿八號布告ヲ以テ刪除)

第廿七條 取引所ノ役員タルモノハ其取引所ニ於テ賣買本人又ハ仲買人トナルヘカラス

第廿八條 取引所ノ役員及ヒ仲買人ハ他ノ株式取引ヲ爲ス會社ノ役員又ハ仲買人或ハ他ノ銀行並ニ諸會社(官許ヲ經タル合本會社)ノ役員タルヲ得ス

第廿九條 取引所ハ其營業ノ爲メ緊要ナル地所家屋ヲ除クノ外地所家屋ヲ所持スルヲ許サズ又之ヲ賣買スヘカラス

第三十條 政府ニ於テ賣買ヲ許シタル諸公債證書及ヒ政府ノ條例ヲ遵奉シテ發行シタル銀行並諸會社ノ株券等ノ賣買ヲ除クノ外此取引所ニ於テ一切他ノ物件ヲ賣買シ他ノ事業ヲ營ムヘカラス

但本條ニ掲載セサル諸會社ノ株券ト雖モ其營業確實ナリト認ムルモノハ農商務卿ニ於第十六類 第二章 會社

テ其賣買ヲ許可スルヲ得(十三年第五十七號布告但書追加)

第三十一條 取引所ハ第一章第七條ニ掲ケタル營業保證ノ爲メ農商務ヘ預ケヘキ公債證書ヲ除クノ外自ラ諸公債證書諸株券等ヲ賣買シ又ハ之ヲ所持スヘカラス

第三十二條 取引所ハ諸證據金ヲ使用スヘカラス又貸附金ヲナスヘカラス

第三十三條 取引所ニ於テ違約人ヲ處分スルハ其違約ニ依リ取引所ノ取引上ニ於テ失ヒタル利得ト蒙リタル損害トヲ其者ノ證據金及ヒ身元金ヲ以テ償ハシメ其者ヲ除名スルニ止ルヘシ而シテ仍ホ其損失ヲ償フコト能ハサルトキハ取引所ニ於テ其實ニ任スヘシ(十三年第十四號布告ヲ以テ又全條改正ス)

第三十四條 取引所ハ其取引所ニ於テ株式等ノ賣買ヲ認許シタル銀行並諸會社及ヒ新立會社ノ株式ヲ賣買スルコトノ依頼ヲ受ルト雖モ其事情ニヨリ之ヲ停止シ又ハ之ヲ許否スルノ權ヲ有ス

第三十五條 取引所ノ諸願同屆又ハ諸證書約定書及往復ノ文書等取引所一般ニ關スル事件ハ頭取肝煎等コレニ記名調印スヘキハ勿論ナレモ必ス其取引所ノ名ヲ署シ取引所ノ印ヲ捺スヘシ

第六章 賣買取引ノ事

第三十六條 取引所ニ於テ爲ス所ノ賣買取引ハ現場ト定期ノ二様ニ分チ必ス現物ノ受渡ヲ爲スヘシ

但三ヶ月ヨリ永キ定期ノ約定ヲナスヘカラス

第三十七條 凡取引所ニ於テ賣買ノ約定ヲナシ其定期ニ係ルモノハ約定金高百分ノ五宛ニ下ラサル證據金ヲ賣買雙方ヨリ差入ル可シ而シテ其期限中相庭ノ高低等ニヨリテハ追證據金増證據金等ヲ差入シムルコトヲ得ヘシ

第三十八條 約定取引ノ期限ニ至ツテハ其品種ニ依リ記名書替等其他受渡シノ手續ハ政府又ハ諸會社ノ成規ニ照シ之ヲ履行スヘシ

第三十九條 約定期限内ニ於テ之ヲ轉賣スルヲ得ヘシト雖モ其期日ニ至レハ必ス現物ノ受渡ヲ爲スヘシ

第四十條 賣買主ニ於テ諸證據金ノ差入レヲ怠リ又ハ期限ニ至リテ其約定ヲ履行セサル者ハ都テ之ヲ違約人ト爲スヘシ(十五年第六十四號布告ヲ以テ全條改正)

第七章 手数料ノ事

第四十一條 取引所ニ於テ賣買者雙方ヨリ領收スヘキ手数料ハ取引所ニ於テ相當ノ額ヲ定メ大藏卿農商務卿ノ認可ヲ受クヘシ(十八年十一月第三十七號布告ヲ以テ本條ヲ改正シ十八年十二月一日ヨリ施行ス)

第四十二條 取引所ニ於テ領收スヘキ手数料ハ賣買雙方ヨリ其賣買金高現場取引ハ千分ノ一定期取引ハ千分ノ二宛ニ超ユヘカラス

第四十三條 手数料ハ其決算ノ時ニ至リ賣買取引ニ關係スル他ノ債主ニ先ツテ之ヲ收受スルコトヲ得ヘシ

第八章 検査ノ事

第四十三條 農商務卿ニ於テ要用ト思考スルキハ何時ニテモ官員ヲ派遣シ或ハ其地方長官ヘ達シテ其取引所ノ業體及ヒ金銀其他諸帖簿等ヲ検査セシムルコアルヘシ

第九章 帖簿ノ事

第四十四條 取引所ハ毎日取扱ノ事項ハ勿論金銀ノ出納等凡テ之ヲ詳明正確ニ記載シ且其簿記ノ方法ニ於テ農商務卿ノ差圖アルトキハ其差圖ニ從フヘシ

第四十五條 取引所ニ於テ製定使用スル處ノ諸帖簿ハ其名目用法詳記シ之ヲ農商務省ヘ届出ツヘシ

第十章 諸報告ノ事

第四十六條 取引所ハ賣買實際ノ報告及金銀出納表其他役員ノ進退並株主仲買人ノ姓名等ヲ農商務卿ノ指命スル處ニ從ヒ時々報告ヲナスヘシ

第十一章 納税ノ事

第四十七條 此取引所ハ追テ政府ニ於テ制定施行スル所ノ收税規則ニ遵ヒ相當ノ税金ヲ納ムヘシ

第十二章 罰則

第四十八條 取引所ノ役員及株主並仲買人等此條例ヲ犯スカ又ハ役員タルモノ株主並仲買人ノ此條例ニ背戾シタルヲ不問ニ措キ又ハ背戾セシメタル實證アルキハ役員並ニ本人ト

モ其事ノ輕重ニ依リ三十圓ヨリ少ナカラス千圓ヨリ多カラサル罰金ヲ科スヘシ

第四十九條 官員検査ノ節取引所役員及ヒ仲買人等簿冊書類ヲ差出スコトヲ拒ミ又ハ疑問ニ答辯ヲ爲サハル者アルトキハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ(同上)

第五十條 取引所ノ規約ニ背犯シタル役員及ヒ株主仲買人ヲ取引所限リ處分スルハ之ヲ除名スルカ或ハ過怠料ヲ取立ツルニ止ルモノトス(同上本條ヲ追加ス)

但其過怠料ハ株金身元金ノ高ニ超ユルヲ得ス

○株式取引所ニ於テ金銀貨幣取引ヲ禁ス十八年十一月廿八日 布告第三十九號

明治十二年九月第三拾七號第三拾八號布告及同十六年七月第貳拾五號布達ヲ以テ東京大阪橫濱神戸各株式取引所ニ於テ當分金銀貨幣取引差許置候處明治十九年一月一日ヨリ右取引ヲ禁止ス

右奉 勅旨布告候事

○横濱取引所ヲ横濱株式取引所ト改稱シ從來營業ノ外株式ノ賣買ヲ許ス十三年九月十三日 大藏省布達甲第百號

株式取引所ノ儀ハ當分ノ内東京大阪ニ於テ一ヶ所宛ニ相限リ候旨明治十一年五月甲第拾四號ヲ以テ及布達置候處陸海軍次第有之權横濱取引所ノ儀自今横濱株式取引所ト改稱シ從來營業ノ外株式賣買差許候條爲心得此旨布達候事

○兵庫縣下神戸港ニ於テ株式取引所一ヶ所ヲ許ス十六年七月三十日 大藏省布達第二十五號

明治十一年五月第八號布告株式取引所設立ノ儀更ニ今般兵庫縣下神戸港ニ於テ一箇所差許ス

右布達候事

○京都府下京都ニ於テ株式取引所一ヶ所ヲ許ス 十七年七月三日 大政官布達第十七號

明治十一年五月第八號布告株式取引所設立ノ備更ニ今般京都府下ニ於テ一箇所ヲ許ス 右布達候事

●沿革要領

明治七年十月第百七號布告ヲ以テ株式取引所條例ヲ制定ス○十一年五月第八號布告ヲ以テ前令ヲ廢シ更ニ株式取引所條例ヲ定ム○十八年十一月第三十八號布告ヲ以テ株式取引所收稅規則ヲ定ム○同年第三十九號布告ヲ以テ株式取引所ニ於テ金銀貨幣取引ヲ禁ス

○取引所條例 二十年五月十四日 公布勅令第十一號

朕取引所條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第十一號

取引所條例

第一章 總則

第一條 取引所ハ商業上ノ取引ヲ便利ニシ市價ヲ平準ニシ商業上公正直實ノ風ヲ養成シ商業上ノ慣習ヲ統一維持シ須要ノ報道ヲ傳播シ及取引所會員ノ間ニ生スル爭論ヲ仲裁スルヲ以テ目的トシ商業上便宜必要ノ地方ニ於テ其地方ノ商人農商務大臣ノ特許ヲ得テ設立

スルモノトス

第二條 取引所ニ於テ賣買取引スヘキ物件ハ重要ノ商品公債證書證券株式等ニシテ創立員又ハ取引所ノ出願ニ依リ農商務大臣ノ認可シタルモノニ限ル

第三條 取引所ヲ設立スルニハ東京大阪ニ於テハ三十人以上其他ノ地方ニ於テハ十五人以上會員タルヲ得ヘキ者創立員トナリ地方官廳ヲ經テ農商務大臣ニ願出ヘシ

第四條 取引所ハ其賣買取引スヘキ物件ニ就キ之ヲ各部ニ分チ又ハ數物件ヲ合セテ一部トシ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第五條 取引所ノ創立ニ係ル費用及之ヲ維持スルニ必要ナル費用ハ會員之ヲ負擔スヘシ 取引所ハ前項ノ費用ヲ補充スル爲メ賣買取引ニ就キ相當ノ手数料ヲ領收スルコトヲ得其手数料ノ割合ハ役員之ヲ議定シテ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ 前項ノ手数料ハ之ヲ分配スルヲ得サルモノトス

第六條 農商務大臣ハ取引所ヲ監督シ地方長官ヲシテ之ヲ監視セシメ其賣買取引法律命令ニ違反シ或ハ公衆ノ安寧ニ妨害アリト認ムルトキハ其全部又ハ幾部ヲ停止若クハ禁止シ其賣買取引ニ關涉シタル役員ヲ罷免シ仲買人ノ營業ヲ停止若クハ禁止シ及會員ヲ一時若クハ永久ニ除名スルコトヲ得

第七條 農商務大臣ハ必要ト認ムルトキハ取引所ノ規約ヲ改正セシメ又ハ決議及處分ヲ停止禁止若クハ取消スコトヲ得

第八條 農商務大臣ハ必要ト認ムルトキハ取引所ニ對シ委員ヲ命シ其一般ノ事務ヲ監察シ

取引所ニ關スル法律命令ノ施行ヲ監視シ且其役員ノ集會ヲ整理セシムルコトヲ得

第九條 取引所ハ毎日一定ノ時間ニ於テ商業上ノ集會ヲ開キ其時間外ハ賣買取引ヲ爲スコトヲ許サス

第十條 本條例施行ニ關スル細則ハ農商務大臣之ヲ定ム

第十一條 取引所ノ賣買取引ニ關スル稅則ハ別ニ之ヲ定ム

第二章 會員

第十二條 會員タルコトヲ得ル者ハ其取引所所在ノ地ニ居住スル兩人ニシテ會員タルノ義務ヲ盡スコトヲ得ル者ニ限ル會同ニ非サレハ取引所ニ集會シ賣買取引ヲ爲スコトヲ得ス

第十三條 會員タル者ハ身元保證金三百圓以上三千圓以下ヲ差出スコトヲ要ス

第十四條 左ニ掲クル者ハ會員タルコトヲ得ス

一 婦女及未丁年者

但婦女ノ代理人未丁年者ノ後見人ハ會員タルコトヲ得

二 公權剝奪若クハ停止中ノ者

三 身代限ノ處分ヲ受ケ未タ辨償ノ義務ヲ終ヘサル者

四 第六條第十五條ニ依リ除名セラレタル者

第十五條 會員ニシテ不當ノ舉動ヲ爲シ爲メニ取引所内ニ於テ紛擾爭論ヲ醸スカ法律命令

及規約ニ違反シタル不正ノ契約ヲ爲スカ又ハ故意ニ其商業上ノ責任ヲ果サハルトキハ役員ノ決議ヲ以テ百圓以内ノ過怠金ヲ科シ一時若クハ永久ニ之ヲ除名スルコトヲ得

第三章 役員

第十六條 取引所ニ役員ヲ置クコト左ノ如シ

一 理事長

一 理事

一 常置委員

第十七條 役員ハ一箇年ヲ以テ任期トシ會員中ヨリ投票ヲ以テ選舉シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ但理事長及理事ハ會員ノ決議ニ由リ會員外ヨリ選舉スルコトヲ得

役員任期中ト雖モ其職務ヲ盡サハルカ又ハ不正ノ所爲アルトキハ會員ノ決議ヲ以テ農商務大臣ノ認可ヲ受ケ退職セシムルコトヲ得

第十八條 理事長及理事ハ取引所ニ於テ賣買取引ヲ爲スコトヲ許サス

第十九條 役員ハ法律命令ノ範圍内ニ於テ農商務大臣ノ認可ヲ經其業務ニ關シ規約ヲ定ムルコトヲ得

第四章 仲買人

第二十條 取引所ニ仲買人ヲ置ク仲買人ハ他人ノ委託ニ由リ賣買取引ヲ爲スヲ以テ業トシ自己ノ爲メニ賣買取引ヲ爲スコトヲ得ス

第二十一條 仲買人ノ營業ハ一部ニ限り數部ヲ兼マルコトヲ得ス

第二十二條 仲買人タラント欲スル者ハ農商務大臣ノ免許ヲ受クヘシ之ヲ受ケタルトキハ
免許料金五十圓ヲ納ムヘシ

第二十三條 仲買人タルヘキ者ハ會員ニシテ營業保證金一千圓以上二萬圓以下ヲ差出スコ
トヲ要ス

第二十四條 仲買人ニシテ第十五條ニ掲クル所爲アルトキハ役員ノ決議ヲ以テ二百圓以內
ノ過怠金ヲ科シ其營業ヲ停止若クハ禁止スルコトヲ得但營業ヲ禁止スルトキハ農商務大
臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十五條 仲買人ハ自ら取引所ノ賣買取引ニ從事スヘシ代理人又ハ手代ヲ使用スルコト
ヲ得ス

第二十六條 仲買人口錢ノ額ハ役員會議ニ於テ議決シ農商務大臣ノ認可ヲ得テ之ヲ定ム

第五章 賣買取引

第二十七條 取引所ニ於テ爲ス所ノ賣買取引ハ直取引及定期取引ノ二様トス其方法ハ農商
務省令及取引所ノ規約ヲ以テ之ヲ定ム

第二十八條 取引所ニ於テ賣買取引スヘキ物件ノ種類ニヨリ農商務大臣ハ取引所外ニ於テ
取引所ノ賣買取引ト同一又ハ類似ノ方法ヲ以テ賣買取引ヲ爲スコトヲ禁止スルコトヲ得
第二十九條 取引所ニ於テ賣買取引シタル物件ノ相場ヲ以テ公定相場トス

第六章 仲裁

第三十條 取引所ニ於テ爲シタル賣買取引ニ關シ爭論ヲ生スルトキハ役員ニ申告シテ仲裁
ヲ受クヘシ但代言人ヲ出スコトヲ得ス

第三十一條 前條ノ場合ニ於テハ常置委員ノ多數決ヲ以テ其爭論ヲ仲裁スヘシ

第三十二條 法律上ノ見解ニ關スルモノヲ除クノ外前條ノ仲裁ニ對シテ裁判所ニ上訴スル
コトヲ得ス

第七章 罰則

第三十三條 第五條第三項第九條第十八條第二十條及第二十五條ヲ犯シ又ハ第二十七條ニ
依リ農商務省令ヲ以テ定メタル賣買取引法ニ違ヒ賣買取引ヲ爲シタル者ハ二十圓以上五
百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十四條 第二十八條ニ依リ農商務大臣ノ禁止シタル賣買取引ヲ爲シ又ハ第二十九條ノ
公定相場ヲ偽リタル者ハ十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

本條例ハ明治二十年九月一日ヨリ施行ス但米商會所條例及株式取引所條例ハ米商會所及株
式取引所ノ營業滿期ヲ待ツテ廢止スルモノトス

○取引所條例施行細則 二十年六月一日
農商務省令第三號

本年五月勅令第十一號取引所條例施行細則左ノ通相定ム

第十六類 第二章 會社

取引所條例施行細則

第一章 總則

第一條 取引所ヲ設立セントスル者ハ設立願書ニ左ノ事項ヲ詳記シ創立員各自署名捺印シ地方官廳ニ提出スヘシ

一 取引所ノ名稱及位置

二 設立ヲ要スル事由

三 取引所ノ部分ケ及其各部ニ於テ賣買取引スヘキ物件ノ種類

四 會員タルヲ得ヘキ商人ノ概數及其差入ルヘキ身元保證金額

五 各部仲買人ノ差入ルヘキ營業保證金額

六 賣買取引スヘキ物件事務ノ實況及將來賣買取引高ノ目算

七 取引所設立ニ關スル費用ノ豫算額及徵收ノ方法

第二條 地方長官前條ノ設立願書ヲ受ケタルトキハ其要否ヲ考ヘ創立員ノ身元ヲ糾シ意見ヲ具シ農商務省ニ進達スヘシ

第三條 農商務大臣取引所ノ設立ヲ特許シタルトキハ特許狀ヲ下付スヘシ

第四條 取引所設立ノ特許ヲ得タルトキハ創立員ニ於テ其創立員中ヨリ委員ヲ撰定シ其氏名ヲ農商務省ニ届出ツヘシ

委員ハ假ニ役員ノ事務ヲ執行シ取引所設立ノ特許ヲ得タル旨ヲ官報又ハ其地方重モナル新聞紙ヲ以テ廣告シ取引所ヲ

開クニ付必要ノ準備ヲ爲スヘシ

第五條 會員ノ員數第一條第四項規數ノ十分ノ一以上ニ達スルトキハ總會ヲ開キ役員ヲ選擧スヘシ

役員ハ取引所ノ業務ヲ經理スル爲メ規約ヲ作リ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第六條 規約ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ但自餘ノ事項ト雖モ必要ト認ムルモノハ掲載スルコトヲ得

一 取引所ノ名稱及位置

二 取引所各部ノ名稱

三 會員入退及除名ニ關スル規程

四 會員ノ權利義務

五 會員組合ニ關スル規程

六 會員ノ手代入場ニ關スル規程

七 役員ノ員數及其選舉ノ方法

八 役員ノ職務章程

九 仲買人開廢業及營業停止禁止ニ關スル規程

十 仲買人組合ニ關スル規程

十一 仲買人ノ補助員入場ニ關スル規程

十二 仲買口錢ニ關スル規程

十三 身元保證金及營業保證金ニ關スル規程

十四 賣買取引スヘキ物件ノ種類

十五 新株式賣買舉行ニ關スル規程

十六 直取引及定期取引ニ關スル規程

十七 賣買取引受託ニ關スル規程

十八 証拠金ニ關スル規程

十九 賣買取引ノ結了ニ關スル規程

二十 市場整理ニ關スル規程

二十一 休暇日及市場開閉時刻ノ定限

二十二 公定相場ニ關スル規程

第十六類 第二章 會社

- 二十三 會議ニ關スル規程
- 二十四 帳簿及記録ニ關スル規程
- 二十五 取引所ノ經費收支ニ關スル規程
- 二十六 仲裁ニ關スル規程
- 二十七 契約處分ニ關スル規程
- 第七條 役員規約ノ認可ヲ得タルトキハ農商務省ニ届出ノ上賣買取引ヲ開始スヘキモノトス
- 第八條 取引所ノ位置ヲ移轉セントスルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ
- 第九條 取引所ニ關スル一切ノ文書ハ所名ヲ著シ役員ノ印章ヲ捺スヘシ但願何屆其他重要ノ文書ハ理事長之ニ署名關印スヘシ

第二章 會員

- 第十條 會員ヲラント欲スルモノハ加入申込書三履歷書ヲ添付シ役員ニ提出スヘシ役員ハ其履歷ヲ糺シ身元保證金ヲ送スレシメタル上加入ヲ承諾シ會員名簿ニ記名關印セシメ會員ノ証ヲ交付スヘシ
- 第十一條 婦女ノ代理人若クハ未丁年者ノ後見人會員ヲラント欲スルトキハ加入申込書三履歷書及委任狀若クハ戸長ノ認證書ヲ添付シ役員ニ提出シ其承諾ヲ請フヘシ但條例第十四條ニ觸ルハ代理人若クハ後見人ハ會員タルコトヲ得ス
- 第十二條 前社ノ名義ヲ以テ會員ヲラント欲スルトキハ代表人ヲ定メ加入申込書ニ前社ノ規約及代表人ノ履歷書ヲ添付シ役員ニ提出シ其承諾ヲ請フヘシ但條例第十四條ニ觸ルハモノハ代表人タルコトヲ得ス
- 第十三條 會員退去セントスルトキハ其旨ヲ役員ニ申出ツヘシ役員ハ十日間其旨ヲ市場ニ揭示シ賣買取引其他計算上關係ナキヲ認メタル上承諾ヲ與ヘ身元保證金ヲ返付スヘシ
- 第十四條 會員ハ役員ノ承諾ヲ得手代ヲシテ入場セシムルコトヲ得

- 第十五條 會員ハ適宜人員ヲ定メテ組合ヲ爲シ組合中ヨリ委員一名ヲ撰定シ役員ニ届置クヘシ
- 委員ハ其組合會員ノ代議人トナリ取引所總會ニ列スルモノトス

第三章 仲買人

- 第十六條 仲買人ヲラント欲スルモノハ營業願書ヲ役員ニ提出スヘシ役員ハ役員會ヲ開キ過半数ノ同意ヲ得タル上地方官廳ヲ經由シテ其願書ヲ農商務省ニ進達スヘシ
- 第十七條 農商務大臣ニ於テ仲買人タルコトヲ免除スルトキハ役員ヲ經テ銀章ヲ下付スヘシ役員ハ免許料及營業保證金ヲ差山サレメタル上之ヲ本人ニ交付スヘシ
- 第十八條 仲買人ハ取引所ニ於テ賣買立會中銀章ヲ佩用スヘシ
- 第十九條 仲買人ハ自己ノ名義ヲ以テ賣買約定ヲ爲シ其賣買取引上一切ノ責任ヲ負フヘシ
- 第二十條 仲買人ハ其部内同業者中適宜人員ヲ定メテ組合ヲ爲シ組長一名ヲ撰定シ役員ノ認可ヲ受ケ組合中一切ノ取締ヲ爲サレムヘシ但組長ノ氏名ハ役員ヨリ農商務省ニ届出ヘシ
- 第二十一條 仲買人ハ其部ノ名稱ヲ冠シ其部仲買人ト稱スヘシ
- 第二十二條 仲買人ハ役員ノ承諾ヲ得一名若クハ二名ノ補助員ヲシテ取引上ニ於テ其業務ヲ補助セシムルコトヲ得但補助員ハ賣買契約ヲ爲シ又ハ之ヲ執行スルコトヲ得ス
- 第二十三條 仲買人應禁セント欲スルトキハ其履歷ヲ役員ニ提出スヘシ役員ハ十日間其旨ヲ市場ニ揭示シ賣買取引其他計算上關係ナキヲ認メタル上營業保證金ヲ返付シ地方官廳ヲ經由シテ其履歷ヲ農商務省ニ進達スヘシ
- 第二十四條 仲買人其資格ヲ失フタルトキハ本人又ハ相續人若クハ親族ヨリ役員ヲ經由シテ銀章ヲ農商務省ニ返納スヘシ
- 第二十五條 仲買人銀章ヲ紛失シタルトキハ其事由ヲ詳具シ役員ノ保證ヲ得テ更ニ銀章ノ下付ヲ請フヘシ但此場合ニ於テハ手数料トシテ金拾圓ヲ上納スヘシ

第十六類 第二章 會社

第四章 身元保証金及營業保証金

第二十六條 身元保証金及營業保証金ハ取引所ニ於テ其額ヲ定メ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ農商務大臣ハ時宜ニ由リ其種類ヲ命スルコトアルヘシ

營業保証金ハ名部ニ由リ其額ヲ定ムヘキモノトス

第二十七條 身元保証金及營業保証金ハ左ニ掲クル證書ヲ以テ代用スルコトヲ得但身元保証金ノ預リ證書ハ營業保証金中ニ合算スルコトヲ得

現金ヲ以テ差入レントスルトキハ役員ノ指命スル銀行ニ預ケスレ其預リ證書ヲ以テ役員ニ差入ルヘシ

一預金局ノ預リ證書

一公債證書

一政府ノ保證アル會社ノ株券

(公債證書ハ農商務大臣株券ハ役員ノ指定スル價格ニ據ルヘシ)

第二十八條 身元保証金及營業保証金ヲ差出シタルトキハ役員ハ預リ證書ヲ付與スヘシ其證書ハ質入書入其他低當ト爲スコトヲ許サス

第二十九條 身元保証金ニ缺額ヲ生シタルトキハ之ヲ補填スルニアラサレハ會員タルノ權利ヲ失フモノトス又營業保証金ニ缺額ヲ生シタルトキハ之ヲ補填スルニアラサレハ仲買人ノ業ヲ營ムコトヲ許サス

第三十條 營業保証金ハ之ヲ差入タル仲買人ニ於テ賣買取引上ノ違約ヲ爲シタルトキ損害賠償ノ用ニ供スルモノトス身元保証金ハ之ヲ差入タル會員ニ於テ其會員タルノ義務ヲ盡サハルトキ賠償ノ用ニ供スルモノトス

第三十一條 賣買取引上ヨリ生シタル損害ノ賠償ハ證據金及營業保証金ヲ以テ充テ猶ホ不足アルトキハ被害者ヨリ賠償ノ費ニ當ル本人ニ對シ追索スルヲ得

第五章 役員

第三十二條 理事長ハ理事ヲ率ヒテ取引所全部ノ事務ヲ總轄シ總會及役員會ノ議事ヲ整理シ理事ノ分掌ヲ定メ所屬員ヲ任免シ及規約違反者ヲ處分スルノ權ヲ有シ取引所一切ノ事務ニ付其責任スルモノトス

第三十三條 理事ハ指押ヲ理事長ニ交ケ各部ノ事務ヲ分掌シ及部下ノ屬員ヲ指揮監督スルノ權ヲ有ス

第三十四條 常置委員ハ取引所全股ノ事務ニ付意見ヲ具シ理事長ヲ輔佐シ金錢ノ出納及他ノ諸役員ノ行爲ヲ監視スルノ權ヲ有ス

第三十五條 理事ハ理事長事故アルトキ其事務ヲ代理スルノ任アルモノトス

第三十六條 會員外ヨリ理事長及理事ヲ選舉シ農商務大臣ノ認可ヲ請フトキハ其願書ニ履歷書ヲ添付スヘシ會員外ヨリ選舉シタル理事長及理事ハ會員同額ノ身元保証金ヲ役員ニ差出スヘシ

第三十七條 役員ノ印章ハ其印鑑ヲ農商務省ニ届出ノ上使用するヘシ

第六章 賣買取引法

第三十八條 取引所ニ於テ爲ス所ノ賣買取引ハ現物見本品銘柄ニ據リ賣買約定ヲ爲スヘキモノトス

第三十九條 直取引ハ現物見本品又ハ銘柄ヲ以テ賣買約定ヲ爲スモノトス約定ヲ爲シタルトキハ賣買雙方ヨリ相手方ノ氏名數量直段等ヲ其部理事ニ届出テ取引所ノ帳簿ニ記入ヲ請ヒ五日以内ニ受渡ヲ爲スヘシ

第四十條 定期取引ハ見本品又ハ銘柄ニ據リ期日ヲ定メテ賣買約定ヲ爲スモノトス

第四十一條 定期取引ノ約定ヲナシタルトキハ賣主ヨリ其記名ノ賣渡證書ヲ買主ニ交付スヘシ但賣買約定ノ高ニ應ジ賣渡證書ヲ收票ニ分割スルコトヲ得

買受ケタルモノヲ他ヘ轉賣セントスルトキハ證書記名者ニ其旨ヲ通知シ證書記名者ニ於テ更ニ證據金ノ差入ヲ請求スルトキハ一定ノ證據金額内ニ於テ證書記名者ノ満足スル證據金ヲ差入レシムヘシ

第四十二條 定期取引ノ約定ヲナシタルトキハ賣買雙方ヨリ相手方ノ氏名約定期日數量及直段等ヲ詳記シタル書面ヲ以テ其部理事ニ届出テ取引所ノ帳簿ニ記入ヲ請フヘシ

第十六類 第二章 會社

第四十三條 定期取引ノ約定ヲ鞏固シラシメシカ爲メ賣買主ノ一方ニ於テ証拠金ノ差入ヲ必要トスルトキハ相手方ニ其差入ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ其請求者モ亦同額ノ証拠金ヲ差入ルヘキモノトス

第四十四條 定期取引ノ期限ハ役員之ヲ定メ農商務省ノ認可ヲ受クヘシ

第四十五條 賣買品ノ受渡ハ其部理事立會ノ上執行完結スヘシ

第四十六條 賣買品ノ受渡ハ制法又ハ特許ニ依リ成立シタル倉庫ノ預リ手形ヲ以テ其用ニ供スルコトヲ得

第七章 公定相場

第四十七條 公定相場ハ取引所ニ於テ日々賣買取引スル物件ノ種類ニ依リ左ノ種別ニ從ヒ直取引ト定期取引トヲ區畫シ役員之ヲ圖定シ表ヲ作リテ市場ニ揭示スヘシ

寄付相場(賣買立會ノ最初ニ賣買取引シタル一口ノ直段ヲ云フ)

大引相場(賣買立會ノ最終ニ賣買取引シタル一口ノ直段ヲ云フ)

最昂相場(賣買立會中最モ高キ直段ヲ云フ)

最低相場(賣買立會中最モ低キ直段ヲ云フ)

平均相場(賣買立會中相場ノ異ナルモノヲ加ヘ更ニ其數ニテ除シタル直段ヲ云フ)

第八章 取引所経費

第四十八條 取引所ノ創立ニ係ル費用ヲ支辨スル爲メ一時負債ヲ起スコトヲ得此場合ニ於テハ償却ノ方法及年限ヲ定メ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

取引所ノ経費ヲ支辨スル爲メニ賣買取引上ニ就キ手数料ヲ徴收スルノ外各會員ニ賦金ヲ課スルコトヲ得

第四十九條 取引所ノ経費ハ毎年兩度收支ノ決算ヲシテ會員一同ニ報告スヘシ

第九章 會議

第五十條 會議ヲ分テ總會役員會ノ二トナス

第五十一條 總會ハ委員一同集會シ毎年二回之ヲ開クモノトス

第五十二條 總會ニ於テ議スヘキ事項ハ左ノ如シ

- 一 賣買取引上ノ利害得失ニ關スル事項
- 二 取引所経費ノ豫算額及賦課徴收ノ方法
- 三 取引所維持ニ關スル事項
- 四 役員ノ選舉
- 第五十三條 役員會ハ理事長理事及常置委員集會シテ之ヲ開ク其議スヘキ事項ハ左ノ如シ
 - 一 取引所規約ノ改正
 - 二 仲買人ノ口銭額
 - 三 取引所事務ノ整理及賣買取引ノ便否
 - 四 金銭取扱ノ方法
 - 五 臨時必要ノ事項

第五十四條 總會ハ委員三分ノ一以上ノ請求又ハ理事長ノ意見若クハ常置委員ノ衆議ニ依リ臨時開會スルコトヲ得

第五十五條 總會ハ議員ノ半ニ滿タサレハ議事ヲ開クコトヲ得但急遽ノ事件ハ此限ニアラス

第五十六條 會議ハ議員過半数ニ由テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第五十七條 會議ハ理事長之レカ議長トナルヘシ

但條例第十七條後項ノ場合ニ於テハ議員中ヨリ議長ヲ選舉スルコトヲ得

第五十八條 臨時總會ヲ開カントスルトキハ開會ニ先テ條件ヲ詳記シ農商務省ニ届出ヘシ農務大臣ハ時宜ニ由リ開議

ヲ停止メ又ハ中止スルコトアルヘシ

第十章 報告

第五十九條 役員ハ左ニ掲クル件々ヲ農商務省ニ報告スヘシ

- 一 毎日公定相場表
- 二 毎月實買量報告
- 三 毎半季功程及計算報告
- 四 毎半季會員入退報告

第六十條 取引所ニ於テ爲ス所ノ實買取引上ニ異狀アルトキハ其時々役員ヨリ農商務省ニ報告スヘシ

第十一章 帳簿

第六十一條 役員會員及仲買人ハ必要ノ諸帳簿ヲ備ヘ各目用法ヲ農商務省ニ届出ヘシ其帳簿ハ記載ノ末日ヨリ滿五ヶ年
間保存スヘシ

第六十二條 役員會員及仲買人ハ毎日取扱タル事項及金錢ノ出納ヲ帳簿ニ詳記スヘシ農務大臣ハ時宜ニ由リ帳簿ノ補
正ヲ命レ又ハ記載ノ方法ヲ指示スルコトアルヘシ

第十二章 仲裁

第六十三條 仲裁ヲ請フ者アルトキハ理事長ニ於テ常置委員中ヨリ三名以上ノ掛員ヲ撰任シ理事長之ガ議長トナリ仲裁
ヲ爲スヘシ

仲裁ハ一定ノ期日及時間ニ於テ其事實ヲ審理シ之ヲ爲スモノトス

第六十四條 仲裁ヲ請フ者ハ口頭又ハ書面ヲ以テスルモ妨ケナシ但掛員ニ於テ必要ト認ムル場合ニ於テハ書面ヲ出サシ
ムルコトヲ得

第六十五條 仲裁ヲ請フモノ其取調ヲ受クルトキハ自身出頭スヘシ止ヲ得サル事故アルトキニ限リ會員ハ手代仲買人ハ

補助員ヲ以テ代理タラシムルコトヲ得

第六十六條 仲裁ノ旨渡ヲ爲ストキハ掛員一同其旨渡書ニ記名調印スヘシ但細事ニ限リ口頭ヲ以テ旨渡スモ妨ケナシ

第六十七條 掛員必要ト認ムルトキハ會員及仲買人中ヨリ証人ヲ召喚スルコトヲ得此場合ニ於テ召喚セラレタルモノ
ハ理由ナク之ヲ辭スルコトヲ得

第六十八條 掛員ハ其仲裁ヲ爲シタル事件ヲ詳記シ之ヲ保存スヘシ

第六十九條 掛員ハ仲裁ニ關スル費用ヲ曲者ヨリ支出サシムルコトヲ得

第七十條 掛員ハ會員外ノ者ヲ以テ仲裁事件ノ顧問トナシ又ハ仲裁ノ席ニ登セシムルコトヲ得

第十三章 違犯處分

第七十一條 本則ニ違犯シタル者ハ條例ニ據リ處分セラル、モノ、外二圓以上二十五圓以下ノ罰金又ハ二日以上二十五
日以下ノ禁錮ニ處ス

○日本銀行條例 十五年六月二十七日
布告第三十二號

日本銀行條例左ノ通制定ス

日本銀行條例

第一條 日本銀行ハ有限責任トシ本行ノ負債辨償ノ爲メ株主ノ負擔スヘキ義務ハ株金ニ止
マルモノトス

第二條 日本銀行ハ本店ヲ東京ニ置クヘシ各府縣ノ首邑其他要用ナル地方ニ支店出張所ヲ
設置シ又ハ他ノ銀行ト「コレレスボンデンス」ヲ締約スルコトヲ得但支店出張所ヲ設置シ又
ハ他ノ銀行ト「コレレスボンデンス」ヲ締約スルトキハ其事由ヲ大藏卿ニ具狀シテ其許可ヲ

第十六類 第二章 銀行

受クヘシ又大藏卿ニ於テ支店出張所ヲ要用ナリトスル時ハ銀行ニ命シテ之ヲ設置セシムルヲアルヘシ

第三條 日本銀行ノ營業年限ハ開業ノ日ヨリ滿三十年トス但株主總會ノ決議ニ依リ營業ノ延期ヲ請願スルコトヲ得

第四條 日本銀行ノ資本金ハ壹千萬圓ト定メ之ヲ五萬株ニ分チ壹株貳百圓トス但株主總會ノ決議ニ依リ資本金ノ増加ヲ請願スルコトヲ得

第五條 日本銀行ノ株券ハ總テ記名券トナシ日本人ノ外賣買讓與スルヲ許サス

第六條 日本銀行ノ株主トナラントスルモノハ大藏卿ノ許可ヲ受クヘシ

第七條 資本金總額五分ノ一即チ貳百萬圓ノ入金アル時ハ營業ヲ開始スルヲ得ヘシ但資本金募集ノ手續ハ定款ヲ以テ定ムル者トス

第八條 營業上ニ於テ損失ヲ生シ資本現入金額ノ内幾分ヲ減少シタル時ハ其事由ヲ審明シ資本入金殘額ヨリ其欠額ニ充ル迄ノ金額ヲ追募スヘシ

第九條 事業ノ申張ニ由リ資本入金ノ増加ヲ要スル時ハ之ヲ資本入金殘額ヨリ追募スヘシ第十條 純益金總額ヨリ株主割賦金ヲ引去リ其殘額ヨリ少クモ十分ノ一ヲ左ノ目的ヲ以テ積立金ト爲スヘシ

第一 資本金ノ損失ヲ補フ
第二 割賦金ノ不足ヲ補フ

第十一條 日本銀行ノ營業ハ左ノ如シ

第一 政府發行ノ手形爲換手形其他商業手形等ノ割引ヲ爲シ又ハ買入ヲ爲ス事

第二 地金銀ノ賣買ヲ爲ス事

第三 金銀貨或ハ地金銀ヲ抵當トシテ貸金ヲ爲ス事

第四 豫テ取引約定アル諸會社銀行又ハ商人ノ爲メニ手形金ノ取立ヲ爲ス事

第五 諸預リ勘定ヲ爲シ又ハ金銀貨貴金屬並諸證券類ノ保護預リヲ爲ス事

第六 公債證書政府發行ノ手形其他政府ノ保證ニ係ル各種ノ證券ヲ抵當トシテ當座勘定貸又ハ定期貸ヲ爲ス事但其金額及利子ノ割合ハ總裁副總裁理事監事ニ於テ時々決議シ大藏卿ノ許可ヲ受クヘシ

第十二條 日本銀行ハ第十一條ニ記載スル事業ノ外左ニ掲クル件々ハ勿論其他諸般ノ營業ニ關涉スルコトヲ得ス

第一 不動産及ヒ銀行又ハ諸會社ノ株券ヲ抵當トシテ貸金ヲ爲ス事

第二 日本銀行ノ株券ニ對シテ貸金ヲ爲シ又ハ此株券ノ買戻ヲ爲ス事

第三 諸工業會社ノ株主タルハ勿論直接間接ヲ問ハス工業ニ關係スル事

第四 本支店出張所ヲ開設スル爲メ必要ナル者ノ外一切他ノ不動産ノ所有主タル事

第十三條 政府ノ都合ニ由リ日本銀行ヲシテ國庫金ノ取扱ヒニ從事セシムヘシ

第十四條 日本銀行ハ兌換銀行券ヲ發行スルノ權ヲ有ス但此銀行券ヲ發行セシムル時ハ別

段ノ規則ヲ制定シ更ニ頒布スル者トス

第十五條 日本銀行ハ諸手形及切手ヲ發行スルヲ得ヘシ

第十六條 日本銀行ハ公債證書ヲ買入又ハ之ヲ賣拂フコトヲ得ヘシ但此場合ニ於テハ大藏卿ノ許可ヲ受クヘキモノトス

第十七條 日本銀行ハ總裁一人副總裁一人理事四人ヲ以テ綜理スル者トス此外ニ監事三人乃至五人ヲ置クヘシ

第十八條 總裁副總裁ハ任期五ケ年トシ總裁ハ勅任副總裁ハ奏任トス但任期中ハ他ノ官職ヲ兼任スルヲ得ス

第十九條 理事ハ株主總會ニ於テ選舉シ大藏大臣之ヲ命シ監事ハ株主總會ニ於テ之ヲ選舉ス理事ノ任期ハ四年トシ監事ノ任期ハ三年トス(二十三年八月八日法律第六十一號ヲ以テ本條ヲ改正ス)

理事監事ハ任期中他ノ銀行又ハ會社等ノ役員タルヲ許サス

第二十條 總裁ハ每半期ニ通常株主總會ヲ招集ス總裁ハ臨時ノ事項ヲ議スル爲メ必要ト認ムルトキハ臨時株主總會ヲ招集ス(同上)

總裁ハ監事ノ全員又ハ株主總會ノ會員タル者五十名以上ヨリ會議ノ目的ヲ示シテ請求スルトキハ臨時株主總會ヲ招集セサルコトヲ得ス

株主總會ノ會員ハ開會ノ六十日前ヨリ引續キ十株以上ヲ所有スル者ニ限ル株主總會ニ於テハ會員ニ代理ヲ委託スルノ外他人ヲ以テ代理人トナスコトヲ得ス

株主總會ノ會員ハ株數十箇ニ付投票一箇ノ權利ヲ有ス十一株以上ハ五十株毎ニ一箇ノ投票權ヲ增加ス但他人ノ代理委託ヲ受クル者ハ其代理ニ屬スル權利ハ十箇以上ヲ超ユルコトヲ得ス

第二十一條 大藏卿ハ特ニ管理官ヲ日本銀行ニ派出シテ諸般ノ事務ヲ監視セシムヘシ

第二十二條 日本銀行ハ本支店出張所及約定店等ノ營業上百般ノ景況ヲ調査シ少クモ毎月一回之ヲ大藏卿ヘ報告ス可シ

第二十三條 日本銀行ハ本條例ノ旨趣ニ基キ銀行定款ヲ作り政府ノ許可ヲ受ク可シ但定款ヲ改正シ又ハ定款外ノ事件ヲ處スル時ハ株主總會ニ於テ決議シ政府ノ許可ヲ受ク可シ

第二十四條 政府ハ日本銀行諸般ノ業務ヲ監督シ其營業上條例定款ニ背戻スル事ハ勿論政府ニ於テ不利ト認ル事件ハ之ヲ制止スヘシ

第二十五條 此條例ヲ改正増削スル時ハ其施行ノ日ヨリ三ヶ月以前ニ之ヲ布告スヘシ右奉 勅旨布告候事

○國立銀行條例九年八月一日 布告第百六號

明治五年十一月 第三百四十九號布告國立銀行條例ノ儀詮議ノ次第有之別冊ノ通改正致シ舊條例ハ自今相廢シ候條新ニ國立銀行ヲ創立セントスル者ハ勿論從來舊條例ヲ遵奉シテ創立シタル者ト雖モ右改定條例ニ準據シ大藏省ヘ願出ノ上其免許ヲ受候様可致此旨布告候事

(別冊)

國立銀行條例

國立銀行ハ政府ヨリ發行スル公債證書ヲ抵當トシテ之ヲ大藏省ニ預ケ紙幣寮ヨリ銀行紙幣ヲ受取り引換ノ準備金ヲ設ケ之ヲ發行シ以テ其業ヲ營ムモノナリ今之ヲ創立スルニ付大日本政府ニ於テ制定シタル條々左ノ如シ

第一章 銀行創立ノ方法、創立證書、銀行定款ノ差出方及ヒ開業免狀ノ下附並ニ諸役員撰任方法等ノ事ヲ明カニス

銀行創立證明ノ件

第一條 此條例ヲ遵奉シ國立銀行ヲ創立セント欲スル者ハ何人ヲ論セス(外國人ヲ除クノ外)五人以上結合シタル人々成規第一條ニ掲クル所ノ手續ヲ以テ其創立願書ヲ大藏省ノ紙幣寮ヘ差出スヘシ紙幣寮之ヲ檢按シ相當ト思慮スルニ於テハ之ヲ大藏卿ニ稟議シテ其銀行創立證書及ヒ銀行定款ノ差出方ヲ命スヘシ

銀行ヲ創立スルノ模範

第二條 右紙幣寮ノ命ヲ受ケタル人々ハ各其姓名ヲ創立證書ニ記入シ諸般ノ手續ヲ經テ其創立證書ニ紙幣寮ノ承認許可ヲ受ルニ於テハ此條例ニ規定セル簡條ヲ遵奉シ以テ國立銀行ヲ創立スルヲ得ヘシ而シテ其創立證書ニ掲載スヘキ件々ハ左ノ如シ

- 第一 銀行ノ名號
- 但シ此名號ハ紙幣寮ノ承認許可ヲ得テ之ヲ公稱スヘシ
- 第二 銀行ノ本店及ヒ支店(若シ之アラハ)ヲ置クヘキ場所
- 第三 銀行資本金額及ヒ株數

第四 銀行營業ノ年限

第五 株主ノ姓名、住所、屬族、職業、若シ之アラハ)及ヒ其引受タル株式ノ番號、箇數

第六 此創立證書ハ此條例ヲ遵奉シ銀行ノ事業ヲ營ナシ株主一同ノ利益ヲ謀ルタメ取極メタル旨

創立證書ノ印紙貼用並ニ其他ノ件

第三條 右創立證書ハ其株主等各記名調印シ之ニ壹錢ノ印紙ヲ貼用シ其管轄地方長官ノ與書鈐印ヲ受タルモノタルヘシ斯ク從事シタル創立證書ハ當人ハ勿論其相續人後見人タル者ニ於テモ右創立證書ノ簡條ヲ遵守シ此條例成規ノ旨趣ヲ遵奉スル者トスヘシ

創立證書更正ノ件

第四條 右創立證書ノ簡條ヲ更正スルニハ其社中ノ格段決議ヲ經テ紙幣寮ノ承認許可ヲ得ルニ於テハ之ニ從事スルコトヲ得ヘシ但シ其事件ハ即チ資本金ノ増減及ヒ本店轉移或支店開設等ノ如キ是ナリ而シテ右ノ如ク更正シタル簡條ハ最初右創立證書中ニ記載セシ簡條ト同シク確守スヘシ且右ノ簡條ハ其創立證書ノ本紙正寫ノ別ナク之ヲ綴込ニ又ハ添附シ置クヘシ

但シ右ノ外創立證書中ノ簡條ヲ更正スルヲ得サルヘシ

定款ノ印紙貼用並ニ其他ノ件

第五條 此條例ヲ遵奉スル國立銀行ハ右創立證書ニ必ス銀行定款ヲ添フヘシ而シテ此定款ハ即チ成規第六條ニ掲クル所ノ雛形ニ準據シ其簡條ヲ悉皆(又ハ若干)記載シ創立證書ト同様株主一同之ニ記名調印シ壹錢ノ印紙ヲ貼用シタルモノタルヘシ

但シ此定款ハ唯紙幣寮ノ承認ヲ得紙幣寮ノ官印ヲ受クルノミニシテ其管轄地方長官ノ

奥書鈐印ヲ乞フニ及ハサルヘシ

定款ノ簡條ヲ更正增加及ヒ廢止スルノ件

第六條 此條例ヲ遵奉スル國立銀行ハ社中ノ格段決議ヲ經テ紙幣頭ノ承認ヲ得ルニ於テハ銀行定款中ニ掲ケタル諸款ヲ更正増補シ及ヒ之レヲ廢止スルヲ得ヘシ而シテ右ノ如ク更正増補シタル簡條ハ最初右定款中ニ掲載セシ簡條ト同シク確守スヘシ且右ノ簡條ハ其定款ノ本紙正寫ノ別ナク之ヲ綴込ニ又ハ添附シ置クヘシ

創立證書並ニ定款發出方ノ件

第七條 創立證書並ニ銀行定款ハ本紙壹通正寫ニ通都合三通宛ヲ製シ而シテ創立證書ヘ其管轄地方長官奥書鈐印ヲ受ケ銀行定款ト共ニ之ヲ紙幣頭ヘ差出スヘシ

開業免狀下附ノ件

第八條 紙幣頭ハ右創立證書及ヒ銀行定款ヲ領受シ其銀行株主等此條例第三十條ニ規定スル所ノ割合ヲ以テ資本金ノ入金ヲナセシヤ否ヤノ事實ヲ検査シ且株主等ノ不正其他百般ノ事務ヲ視察シ不都合アルニ非レハ之ヲ大藏卿ヘ稟議シ開業免狀ヲ下附スヘシ

但シ創立證書銀行定款共本紙ハ記録寮ニ納メ正寫壹通ハ紙幣寮ノ簿冊ニ綴込ニ壹通ハ紙幣寮ノ官印ヲ鈐シテ開業免狀ト共ニ之ヲ其銀行ヘ下附スヘシ

銀行開業ノ件

第九條 銀行ハ右ノ開業免狀ヲ得テ始テ一團ノ會社トナリ何レ國立銀行ト公稱シ此條例成規ニ規定シタル簡條ヲ履行シテ國立銀行ノ事業ヲ經營スルヲ得ヘシ

開業免狀創立證書並ニ定款發出方ノ件

第十條 此條例ニ從ヒ紙幣頭ノ記名調印シタル開業免狀、創立證書、銀行定款ハ何レノ裁判所何レノ官廳ニ於テモ之ヲ正確ナル證據トシテ採用セラル、ヲ得ヘシ

第十一條 創立證書、銀行定款ノ寫又ハ版本等(用意分配ノ手續了ルノ後)各株主ヨリノ要

株主ヘ付與スルノ件

需アルニ於テハ銀行ニ於テ定タル所ノ代價ヲ以テ之ヲ付與スヘシ若シ銀行右付與ノ事ヲ怠慢スルニ於テハ銀行ハ其怠慢時間一日ニ付五圓ニ踰エサル罰金ヲ納ムヘシ

營業期限並ニ延期ノ件

第十二條 此條例ヲ遵奉シテ創立スル銀行ハ領店其他ノ事故アルニ非レハ開業免狀ヲ受ケシ日ヨリ二十年ノ間其營業ヲ繼續スルコトヲ得ヘシ右期限後ハ更ニ私立銀行ノ資格ヲ以テ大藏卿ノ許可ヲ受ケ其營業ヲ繼續スルコトヲ得ヘシ然レトモ紙幣發行ノ特許ヲ有シ國立銀行ノ資格ヲ以テ營業ヲ繼續スルコトヲ許サス(十六年第十四號布告ヲ以テ全條改正)

社號並ニ社印用法ノ件

第十三條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取取締役等ハ開業免狀ヲ得ルノ日ヨリ社印ヲ刻シ諸役員ノ印信ト共ニ大藏省ノ紙幣寮國債寮出納寮ノ三寮ヘ差出スヘシ而シテ銀行ノ諸出願ヲ始メ訴訟、約定、保證及ヒ報告、往復其他一切ノ文書ニ至ルマテ都テ其社號ヲ用非社印ヲ鈐スヘシ

銀行ノ諸役員撰任ノ件

第十四條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ頭取取締役ヲ始メ支配人、書記方、出納方、計算法、簿記方其他適宜ノ役員ヲ撰任シ其職制權限進退及ヒ頭取、取締役交代ノ手續等諸般ノ規約ヲ取極メ之ヲ銀行定款中ニ掲載スヘシ

取締役所持株式ノ制限

第十五條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ取締役ハ必ス自カヲ以テ成規第五十一條ニ規定スル所ノ株數ヲ所持シタル者ニシテ其總員ハ五人以上(内一人ハ頭取)タルヘシ而シテ其四分ノ三ハ其銀行創立ノ地ニ於テ上任前一箇年以上在任シタル者ニ限ルヘシ

第十六類 第二章 銀行

頭取取締役并
同ノ件

第十六條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取取締役ハ上任ノ節ニ其地方長官ノ面前ニ於テ誓詞ヲ爲シ其事務ヲ施行スルニ忠實公平ヲ以テシ且此條例中ノ要旨ニ決シテ背戾セサル旨ヲ認メ其管轄地方長官ノ奥書鈐印ヲ受ケ之ヲ紙幣頭ヘ差出スヘシ紙幣頭ハ之ヲ領受シテ寮中ノ簿冊ニ綴込ムヘシ

○第二章 銀行資本金ノ制限、公債證書銀行紙幣交收ノ割合並ニ其手續及ヒ引換準備金等ノ事ヲ明カニス

資本金額制限
ノ件

第十七條 此條例ヲ遵奉スル國立銀行ノ資本金額ハ拾萬圓ヨリ下ル可カラヌ尤人口拾萬人以上ノ地ニ於テハ貳拾萬圓未滿ノ資本金ヲ以テ創立スルヲ許サス

但シ時宜ニヨリ紙幣頭差支ナシト思考シテ大藏卿ヘノ稟議ヲ經ルニ於テハ五萬圓以上拾萬圓未滿ノ資本金ニテモ創立ヲ許スコアルヘシ

公債證書納方
ノ件

第十八條 此條例ヲ遵奉スル國立銀行ヨリ發行スル紙幣ハ資本金十分ノハタルヘシ然レモ大藏卿ハ全國ニ發行スヘキ銀行紙幣ノ總額ヲ制限スルコアルヘシ故ニ新タニ創立ヲ願フ者アルキ其資本金額ヲ節減シ或ハ其創立ヲ許可セサルコアルヘシ尤モ發起人ノ請願ニ依テハ特ニ其發行紙幣ノ割合ヲ節減シテ其創立ヲ許可スルコアルヘシ而シテ各銀行ハ其發行紙幣ノ高ニ應シ四朱以上利付ノ公債證書ヲ時價(時相場ヲ斟酌シ大藏省ニ於テ定ムル所ノ價格)ヲ以テ右紙幣ノ抵當トシ之ヲ出納局ニ預クヘシ(十一年第五號佈告ヲ以テ但書共全條改正)但公債證書ノ時價低下スルキハ其銀行ニ命シテ更ニ他ノ公債證書ヲ納メシメ其發行紙

幣ノ額ニ充タシムヘシ

公債證書ノ管
守並ニ當該處
分ノ件

第十九條 右公債證書ハ此條例ヲ遵奉スル銀行ヨリ發行スル紙幣ノ抵當ナルヲ以テ出納頭ハ其銀行永續中ハ正ニ之ヲ預リ置クヘシ而シテ若シ此公債證書ノ内國債寮ニ於テ施行スル所ノ公債支消ノ抽籤ニ當ル者アレハ銀行ハ他ノ公債證書ヲ納メテ之ヲ引換フヘシ

第二十條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ其紙幣下付高四分ノ一ニ相當スル通貨ヲ以テ發行紙幣引換ノ準備ニ充ツヘシ(十六年第十四號佈告ヲ以テ全條改正)

第二十一條 此條例第四十條四十二條ニ掲グル所ノ手續ヲ以テ資本金額ヲ増減スルコアルニ於テハ前條ニ掲グル所ノ公債證書並ニ銀行紙幣引換ノ準備金モ亦其割合ニ從テ之ヲ増減スヘシ

第二十二條 (十六年第十四號佈告ヲ以テ删除ス)

第二十三條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取支配人ハ公債證書ヲ出納寮ヘ納メ其受取證書ヲ領受シタル後同額ノ銀行紙幣ヲ各種ノ種類ニテ紙幣寮ヨリ受取リ之ニ頭取支配人等ノ名印ヲ加用シ以テ銀行營業ノ資本トナスヘシ

第二十四條 右公債證書ノ請取證書ハ紙幣頭出納頭ノ連署調印シタル者タルヘシ尤此公債證書ノ勘査ニ付テハ該兩寮頭互ニ其簿冊ヲ開ラキ須ラク注意ヲ盡シ詳明ニ之ヲ記入シ又互ニ之ヲ點檢スルヲ得ヘシ

第二十五條 此條例第十八條ニ掲グル所ノ出納頭ニ預ケタル公債證書ハ毎年一度(又ハ數

公債證書ノ收
入並ニ委任狀

ノ件

九百十八

度)銀行ノ役員出納寮ニ至リテ之ヲ點檢シ其銀行ノ元帳ニ照シテ其種類員額等相違ナキニ於テハ改入ハ改濟ノ旨ヲ書面ニ認メ之ヲ出納頭へ差出スヘシ
但シ右改入出納寮へ出ル時ハ其銀行頭取ノ委任狀ヲ持參スヘシ

公債證券換納ノ件

第二十六條 右公債證券ハ銀行ノ都合ニヨリ四朱以上利付ノ他ノ公債證券ヲ以テ之カ引換ヲ申請シ紙幣頭ノ考案ニ於テ差支ナシトセハ其趣ヲ出納頭へ通知シ之ヲ交換下附スヘシ
但シ其引換ヘタル趣並ニ其公債證券ノ種類金額等ハ紙幣出納兩寮ノ簿冊ニ詳記スヘシ

公債證券利息ノ件

第二十七條 右公債證券ヨリ生スル年々ノ利息ハ其銀行之ヲ受取り毎年銀行ノ利益精勘定ノ内ニ加ヘテ之ヲ株主一同へ分配スヘシ(十六年第十四號布告ヲ以テ但書ヲ削除ス)

第三章 株式ノ分割 資本金入金ノ割合 株式没入 株主牒ノ記入 株式ノ賣買及ヒ資本金増減等ノ事ヲ明カニス

株式分割ノ定規

第二十八條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ資本金ハ之ヲ株式ニ分割シ百圓又ハ五拾圓又ハ貳拾五圓ヲ以テ一株ト定ムヘシ尤一株百圓ニ分配シタル銀行ノ株式ハ悉皆百圓ノ金高タルヘシ五拾圓以上ノ資本金ヲ以テ創立スル銀行ナレハ百圓又ハ五拾圓ヲ以テ一株ト定ムヘシ又拾萬圓未滿五萬圓マテノ資本金ヲ以テ創立スル者ナレハ五拾圓又ハ貳拾五圓ヲ以テ一株ト定ムヘシ

株式ノ所有ハ其望ニ任スル

第二十九條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ株主タル者ハ各自ノ望ニ任セ幾株ニテモ之ヲ所持スルヲ得ヘシ而シテ其株主ハ何レノ屬族何レノ職務アルニ拘ハラズ總テ其所持株高相當ノ權利ヲ有シ其銀行營業ニ付テノ損益ハ株高ニ應シテ之ヲ負擔スヘシ
但シ大藏省ノ官員其他ノ官員トモ此銀行ノ事務ニ關係アル者ハ株主トナルヲ許サス

ノ件

資本金入金割合ノ件

第三十條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ株主等ハ開業免狀ヲ得其業ヲ始ムル前ニ於テ少ナクトモ資本金總額十分ノ五ハ必ス之ヲ銀行ニ入金スヘシ而シテ他ノ十分ノ五ハ資本金總額ノ十分一ヲ以テ月賦ト定メ開業免狀ヲ得タル月ノ翌月ヨリ入金スヘシ

資本金集合高屆書提出方ノ件

第三十一條 右資本金ノ月賦入金毎ニ其銀行ノ頭取支配人ハ成規第十二條ニ準據シ資本金集合高屆書ヲ紙幣頭へ差出スヘシ

株式没入ノ件

第三十二條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ株主等株金ノ月賦入金ヲ怠ル時ハ頭取取締役等ニ於テ其株ヲ没入シ競賣其他ノ手續ヲ以テ三十日以内ニ之ヲ賣拂ヒ而シテ其入用ヲ差引キ尙ホ過金アレハ之ヲ元株主へ返還スヘシ尤此競賣ニ於テ右株式ヲ買取リタル株主モ亦他ノ株主同様ノ權利ヲ有スヘシ

株式消除ノ件

第三十三條 右競賣ニ於テ其株ヲ買フ者アラサル時ハ是迄入金シタル金高ハ銀行ニ没入シテ其株ヲ消スヘシ尤此消株ニヨリ資本金額此條例第十七條ニ規定スル所ノ制限ヨリ減少スルハ頭取取締役等ハ三十日間ニ之ヲ補ヒ定限ノ高ニ滿タシムヘシ若シ頭取取締役等之ヲ怠ルハ紙幣頭ハ其銀行ニ鎖店ヲ申渡シ更ニ跡引受人ヲ命スヘシ

株主牒ノ製造及ヒ記入ノ方

第三十四條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ株主牒ヲ製シ左ノ要件ヲ記載スヘシ

第十六類 第二章 銀行

九百十九

第一 各株主ノ姓名、住所、屬族、職業(若シ之アラハ)
第二 各株主ノ所持セル株式ノ番號、箇數

第三 入社ノ年月日

第四 退社ノ年月日

株主簿(記名ノ件)
第三十五條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ創立證書ニ記名スル者ハ即チ其銀行ノ株主タルカ故ニ前條ニ規定セル株主簿ニ各其姓名ヲ登記スヘシ且其他何人ニテモ(外國人ヲ除クノ外)爾後其銀行ノ株主タルコトヲ同意シ隨テ其姓名ヲ株主簿ニ登記シタルモノハ又同シク其銀行ノ株主タルノ權利アルヘシ

株主簿檢閱ノ件
第三十六條 右株主簿ハ銀行其開業免狀ヲ領受スルノ即日ヨリ之ヲ其本店ニ備置クヘシ而シテ此株主簿ハ營業時間ナレハ何時ニテモ株主等之ヲ檢閱スルヲ得ヘシ若シ銀行其檢閱ヲ拒ミタルキハ株主ハ其趣ヲ書面ニ認メ之ヲ其管轄地方官廳ヘ差出シ紙幣頭ヘノ照會ヲ乞フヘシ其照會ヲ得ルニ於テハ紙幣頭ハ直チニ官吏ヲ派遣シ其本店ヲ檢査セシムルコトアルヘシ

但シ銀行ハ新聞紙又ハ其他ノ手續ヲ以テ其旨ヲ報知スルニ於テハ尙箇年中日數三十日ニ過キサレハ何時ニテモ右檢閱ヲ停止スルコトヲ得ヘシ

株主簿ノ記入ヲ修正スルノ件
第三十七條 右株主簿ニ何人カ故ナク姓名ヲ記入セラレ又ハ妄リニ除名セラレ又或ハ退社セシ所以ノ記載ヲ故ナク遷延セラレタル等ノ事アリテ其人之カ爲メ妨碍ヲ受クルニ於テ

ハ其事由ヲ書面ニ認メ之ヲ其管轄地方官廳ヘ差出シ紙幣頭ヘノ照會ヲ乞フヘシ其照會ヲ得ルニ於テハ紙幣頭ハ直チニ銀行ニ命シテ之ヲ修正セシムヘシ

株式賣買譲與ノ件
第三十八條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ株式ハ成規第二十七條ニ規定スル所ノ手續ヲ以テ之ヲ賣買譲與スルコトヲ得ヘシ

但シ銀行ハ新聞紙又ハ其他ノ手續ヲ以テ其旨ヲ報知スルニ於テハ一箇年中日數三十日ニ過キサレハ何時ニテモ其株式ノ賣買譲與ヲ停止スルコトヲ得ヘシ

株式賣却譲與ニ於ケル名代人ノ權利
第三十九條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ株主死去スルノ際名代人ヲ以テ株式ヲ賣却譲與スル等ノ事アルキハ假令此名代人ハ其銀行ノ株主ニ非スト雖モ記名調印等ノ事ニ至リテハ猶ホ株主同様ノ權利ヲ有スヘシ

資本金増加ノ件
第四十條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ社中ノ格段決議ヲ經テ紙幣頭ノ承認ヲ得ルニ於テハ其資本金額ヲ増加スルコトヲ得ヘシ而シテ右増加スヘキ資本金額ノ制限ハ大藏卿ヘノ稟議ヲ經テ紙幣頭之ヲ定ムヘシ故ニ其資本金額ヲ増加スルニハ紙幣頭ニ申請シ其承認ヲ得テ之ニ從事スヘシ尤全ク入金済ノ上ハ成規第十四條ニ準據シテ其増加證書ヲ差出スヘシ

資本金増加ニ付公債證券納付ノ件
第四十一條 此條例ヲ遵奉スル銀行前條ニ掲グル如ク資本金ヲ増加セシニヨリ公債證券ヲ納メ銀行紙幣ヲ請取ルノ手續ハ現ニ其株主タル者ヨリ増加ノ總額ヲ全ク入金シタル後ニ非レハ之ヲ施行スルコトヲ許サス

資本金減少ノ件
第四十二條 此條例ヲ遵奉スル銀行若シ其資本金額ヲ減少セントスル時ハ社中ノ格段決議

ヲ經テ紙幣額ノ承認ヲ得ルニ於テハ之ニ從事スルヲ得ヘシ尤其減少ノ高ハ此條例第十七條ニ於テ規定スル所ノ員額ヨリ下ルヲ許サス但シ紙幣額ノ承認ヲ得テ此決議ヲ施行セントスルニ於テハ其施行ノ日限ヨリ少ナクハ三箇月以前ニ於テ資本金ノ減少員額ト其残り資本金額トヲ記載シタル報告ヲ製シ適宜ノ手續ヲ以テ之ヲ其預リ金アル得意先へ送達スヘシ且右減少セントスルノ趣ハ其銀行所在ノ地ニ行ハル、三種以上ノ新聞紙ヲ以テ三箇月以上毎日之ヲ公告スヘシ

資本金減少ニ際シ貸金及ヒ預金ノル者ノ權利

第四十三條 此條例ヲ遵奉スル銀行若シ前條ノ如ク其資本金額ヲ減少セントスルニ際シ其銀行へ貸金預金等アル者ハ未タ其仕拂期日至ラスト雖モ右減少ヲ施行スヘキ日限前一箇月ノ間ナレハ何時ニテモ左ノ定則ニ準據シ之カ償却ヲ乞フノ權利アルヘシ

第一 凡ソ定期預金アル者ハ其元金並ニ當日迄ノ利息ヲ受取ルノ權利アリトス

第二 其他期限未滿タリモ凡ソ銀行ヨリ受取ルヘキ勘定アル者ハ時ノ相場ヲ以テ其仕拂期日迄ノ利息ヲ引去リ殘金高ノヨリ受取ルノ權利アリトス

資本金減少ノ可ノ件

第四十四條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ此條例第四十二條四十三條ニ掲グル所ノ諸般ノ手續ヲ了ルニ於テハ成規第十五條ニ準據シ其減少證書ヲ紙幣額へ差出スヘシ若シ右第四十二條四十三條ノ規定ニ背戻シ資本金減少ノ報告又ハ公告ヲ怠リ及ヒ期限未滿ノ勘定仕拂ヲ拒ムトアルモハ紙幣額ハ右資本金減少證書ニ許可ヲ與ヘサルヘシ

○第四章 銀行紙幣ノ製造及ヒ種類、其通用ノ能力、引換場所及ヒ燒捨等ノ事ヲ明カニ

銀行紙幣製造ノ件

第四十五條 此條例ヲ遵奉シテ發行スル所ノ銀行紙幣ハ大藏卿ノ命ヲ奉シ紙幣額其製造ノ事務ヲ董括シ極メテ紙質ノ堅牢ト彩紋ノ精緻ヲ要シ深ク贗模ノ弊ヲ豫防スルノ術ヲ盡シテ以テ之ニ從事スヘシ

但シ右銀行紙幣製造ノ入費ハ其銀行ヨリ現費ヲ以テ紙幣寮へ納ムヘシ

銀行紙幣ノ種類

第四十六條 右銀行紙幣ノ種類ハ壹圓貳圓、五圓、拾圓、二十圓、五十圓、百圓、五百圓ノ八種ト定メ銀行ノ望ニ應シテ製造下附スヘシ

但シ五圓以下ノ銀行紙幣ハ其銀行發行總額十分ノ五ヨリ多カラサルヘシ

銀行紙幣下付ノ件

第四十七條 右銀行紙幣ノ表裏面ニハ政府ノ公債證書ヲ抵當トシテ發行スルノ旨趣及ヒ其他ノ要件ヲ摘載シ大藏卿並ニ出納頭記録頭ノ印ヲ鈐シ且大藏省並ニ銀行ノ記號、番號ヲ押捺シテ紙幣額之ヲ其銀行へ下付スヘシ而シテ銀行ニ於テハ之ニ其頭取支配人ノ名印ヲ加用スヘシ

銀行紙幣通用ノ能力

第四十八條 此條例ヲ遵奉シテ創立シタル國立銀行ヨリ發行スル所ノ銀行紙幣ハ諸官廳又ハ銀行、會社其他ヲ論セズ日本全國何レノ地ニ於テモ租稅、運上、貸借ノ取引、俸給其他一切公私ノ取引ニ於テ都テ政府發行ノ貨幣同様通用スヘシ

但シ公債證書ノ利息ト海關稅ニハ之ヲ用ウルヲ許サス

銀行紙幣引換ノ件

第四十九條 此條例ヲ遵奉シテ創立シタル銀行ヨリ發行スル所ノ銀行紙幣ヲ通貨ト引換ヘ

銀行紙幣ヲ拒
ミタル者ニ於
ケル處分ノ件
損壞銀行紙幣
引換並ニ燒捨
ノ件

ンコトヲ請求スルモノアルトキハ日本銀行ニ於テ之ヲ引換フヘシ(十六年第十四號布告ヲ以テ全條改正)
第五十條 此條例ヲ遵奉スル銀行ヨリ發行スル所ノ銀行紙幣通用ノ際其授受ヲ拒ミ或ハ之ヲ妨ケ其他不正ノ所爲ヲナス者アルニ於テハ皆國法ニ從テ之ヲ罰スヘシ

第五十一條 此條例ヲ遵奉スル銀行ヨリ發行スル所ノ銀行紙幣通用中敗裂汚染等ニテ通用シ難キモノアルニ於テハ其所持人ハ銀行ニ持參シテ之ヲ引換フヘシ而シテ銀行ハ之ヲ紙幣頭へ差出シ其代リ銀行紙幣ヲ受取ルヘシ○尤右引換銀行紙幣ノ種類、記號、番號、金額等ハ之ヲ紙幣寮ノ公書及ヒ銀行ノ簿冊ニ詳明ニ記入シ其廢紙幣ハ大藏卿ヨリノ立會ヲ得テ紙幣頭ハ其主任ノ官員ヲシテ銀行役員ノ立會ヲ要シ之ヲ燒捨ニ付スヘシ而シテ其趣ハ尙ホ右簿冊ニ登記シ各記名調印スヘシ

但シ右燒捨ノ後ハ新聞紙又ハ其他ノ手續ヲ以テ其趣ヲ世上ニ公告スヘシ

○第五章 銀行營業ノ本務、公債證書其他ノ買賣並ニ貸附金ノ制限、利息ノ制限、銀行紙幣並ニ株式抵當ノ制禁及ヒ預リ金準備等ノ事ヲ明カニス

銀行營業ノ本務 第五十二條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ金銀ヲ(引受貸シ抵當貸シノ別ナク)貸附ケ又ハ當座並ニ定期預リ金ヲ爲シ又ハ爲換ヲ取組ミ又ハ爲換手形、約束手形、代金取立手形其他ノ證書ヲ割引シ又ハ公債證書、外國貨幣並ニ金、銀銅ノ地金ヲ賣買シ及ヒ保護預リ又ハ兩替等ノ事ヲ以テ營業ノ本務トナスヘシ

公債證書ノ賣買ヲ專ラニス

第五十三條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ本務タルヤ前條ニ掲クル所ノ種類ナルヲ以テ公債證

件ヲ得サルノ

書ノ賣買ヲナスヲ得ルト雖モ貸附金、預リ金、爲換等ノ如キハ殊ニ銀行ノ主トシテ爲スヘキ營業ノ目的タルニヨリ此等ノ事業ヲ經營セシテ唯公債證書ノ賣買ヲ專ラニスルヲ許サス

他ノ會社ノ株主トナルヲ傳サレ物件及ヒ地所物件賣買ノ制限

第五十四條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ前第五十二條ニ掲クル所ノ營業本務ノ外地所家屋其他物件ノ賣買ヲナスヘカラス又職工作業ノ功ヲ與シ及ヒ此等ノ功ヲ與ス會社ノ株主トナルヲ許サス尤左ニ掲載スル所ノ條件ニ付テハ地所又ハ家屋物件等ヲ賣買シ又ハ之ヲ引取リ又ハ之ヲ所持スル等ノ事ハ此條例ニ於テ之ヲ宥恕スヘシ但シ銀行所有ノ地所ハ勿論一般ノ地稅法ニ從フヘシ

第一 銀行ノ業ヲ營ムヘキ爲メ緊要ナル地所家屋ハ之ヲ買取り之ヲ所持シ之ヲ賣拂フヲ得ヘシ

第二 滯貸金ノ抵當トシテ質物ニ取リタル地所物件ハ之ヲ引取り之ヲ所持シ之ヲ賣拂フヲ得ヘシ

第三 貸金返濟ノ約定日切トナリテ借主ヨリ返金ノ代リトシテ引渡サレタル地所物件ハ之ヲ引取り之ヲ所持シ之ヲ賣拂フヲ得ヘシ

第四 銀行ヨリ貸金ノ抵當又ハ質物トナリシモノニシテ官廳ノ裁判ヲ經テ賣拂ヒトナリタルモノカ又ハ之ヲ引取りタルモノ又ハ右賣入ノ流込ミトナリタルモノ又ハ銀行ヨリノ貸金ヲ返濟スル爲メニ賣物ニ出シタル地所物件ハ之ヲ買取り之ヲ引

地所其他ノ物
件發排ノ期限

第五十五條 前條ニ掲クル所ノ款項中銀行營業ノ爲メ緊要ナル地所家屋ヲ除クノ外銀行ニ於テ引取り又ハ買取リタル地所物件ハ遲クモ十箇月以内ニ於テ之ヲ賣拂フヘシ

貸附金ノ制限

第五十六條 此條例ヲ遵奉スル銀行ヨリ貸附クル所ノ金額ノ制限ハ一口ニ付資本金總額ノ十分一ヲ限リトナスヘシ

貸附金利息ノ制限

第五十七條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ貸附金利息ハ政府ニ於テ定メタル一般ノ利息制限法ニ準據スヘシ若シ其限ニ超過スルモノアル時ハ大藏卿ハ其銀行ヲ督實シテ之ヲ其制限ノ割合ニ引直サシムヘシ(十一年第三十一號布告ヲ以テ全條改正)

銀行紙幣及ヒ株式ノ抵當並ニ賣買ノ制限

第五十八條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ其銀行紙幣ヲ抵當又ハ質物トシテ借金ヲナスヘカラス又其銀行ノ株式ヲ抵當ニ取リテ貸付金ヲナスヘカラス又其株ノ買主トナリ又ハ其株主トナルヘカラス然レモ貸付金ノ滞リニテ銀行ノ損失トナルコトアレハ止ムヲ得ズ其株ヲ引當ニ取り又ハ買取ルコトヲ得ヘシ尤其株ハ遲クモ六箇月以内ニ於テ之ヲ賣拂フヘシ

第五十九條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ諸方ヨリシ預リ金ヲ他ヘ運轉流用スルニハ須ラク之カ制限ヲ立テ其預リ金總額ノ内少クモ十分ノ二、五(即チ四分ノ一)ヲ引殘シ之ヲ返却ノ準備トシテ銀行ノ金庫中ニ積立置クヘシ尤内十分一ノ員額ハ政府ノ公債證書ヲ實價ヲ以テ積立ルヲ得ヘシ

但シ此準備金ハ銀行紙幣引換ノ準備金ト混同スヘカラス

發行紙幣準備金ノ制限ヲ超過スルニ於ケルノ件

第六十條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ其營業ノ爲メ銀行紙幣ヲ發行スルニハ此條例第二十條ニ規定シタル準備金ノ割合ヲ超過スヘカラス若シ此割合ヲ超過シテ發行スルキハ紙幣頭ハ之ヲ督實シテ速カニ其準備金ヲ増加シ規定ノ割合ニ滿タシムヘキ旨ヲ命スヘシ若シ銀行ニ於テ此命ヲ受ケシ日ヨリ三十日ヲ過キテ尙ホ増加スルコトヲ怠ル時ハ紙幣頭ハ其銀行ノ開業免狀ヲ取上ケ跡引受人ヲ命スヘシ

準備金不足スルニ際シ株主等一時價辦スルノ負責

第六十一條 此條例ヲ遵奉スル銀行ニ於テ預リ金ノ返濟又ハ爲換手形約束手形等ノ仕拂ヲナスニ當リ兼テ積置キタル準備金ヲ以テ之ヲ償フコト能ハサルトキハ其銀行ノ株主等ハ各其所持ノ株數ニ應シ別ニ出金シテ一時之ヲ償辦スルノ實ニ任スヘシ但此出金ハ全ク一時價辦ノ爲メニシテ其株金ト異ナルヲ以テ其銀行ハ速カニ之レヲ各株主ヘ返辦スヘシ(十六年第十四號布告ヲ以テ全條改正)

○第六章 銀行名號ノ掲牌、社印ノ書體並ニ諸手形ニ於ケル銀行ノ負責所有物ノ明細帳及ヒ營業時間等ノ事ヲ明カニス

銀行名號ノ掲牌及ヒ社印ノ書體

第六十二條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ讀易キ書體ヲ以テ其名號ヲ掲牌ニ記載シ之ヲ其銀行ノ店前最モ見易キ所ニ掲クヘシ而シテ其社印ノ彫刻ヨリ諸報告並ニ諸公告、諸證書、諸手形、諸切手ノ類ニ至ル迄凡ソ其名號ヲ用ウル所ノ者ハ亦同シク讀易キ書體ヲ用ウヘシ

銀行名號ノ掲牌及ヒ社印ノ書體

第六十三條 此條例ヲ遵奉スル銀行若シ前條ノ如ク其社號ヲ掲ケサルキハ銀行ハ其時間一日ニ付五圓ヨリ多カラサル罰金ヲ納ムヘシ且其頭取取締役及ヒ支配人タルモノ知テ之ヲ

第十六類 第二章 銀行